

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

令和8年2月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	3
2 令和6年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	6
2-1 基本方針別自己評価	7

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（令和6年度）	14
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和6年度）	18
3 定性評価の状況（令和6年度）	29
4 第三者評価委員会での意見と対応状況	42
5 設置者の取組状況	58

別添資料 令和6年度静岡県立美術館評価業務報告書

静岡県立美術館5ヵ年計画

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成 18 年 9 月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、令和 7 年 7 月に第三者評価委員会を開催し、令和 6 年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

令和 8 年 2 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 松本 透

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

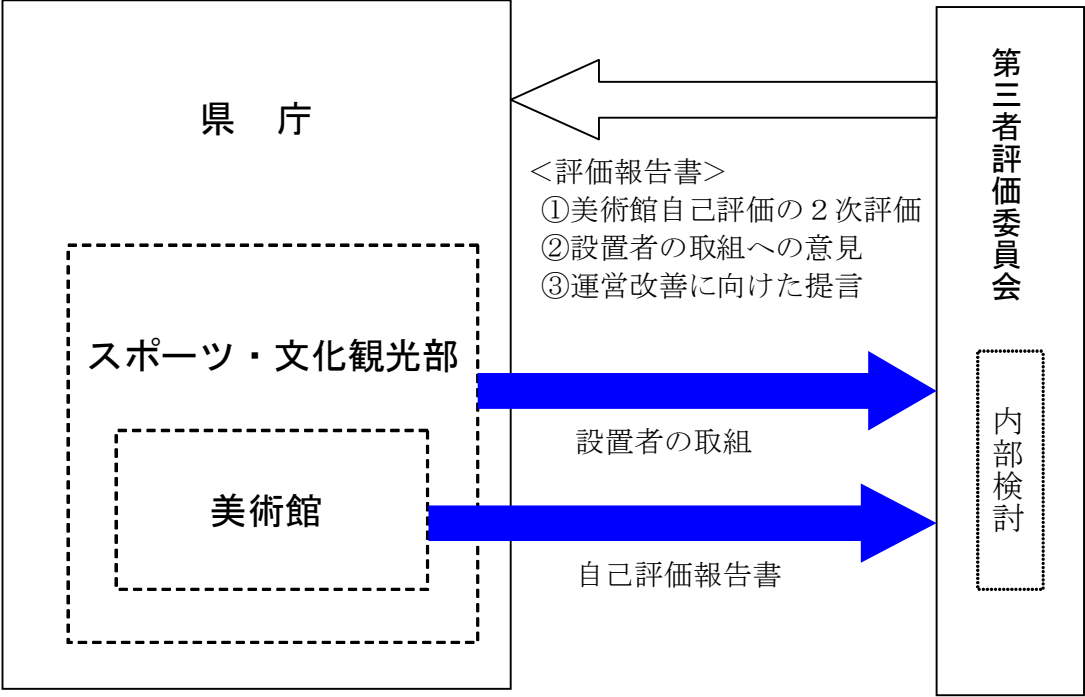
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	氏 名	役 職
委員長	まつもと とおる 松本 透	公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館 副館長
委 員	いなにわ さ わ こ 稲庭 佐和子	独立行政法人国立美術館本部 主任研究員
〃	おぎわら やすこ 荻原 康子	公益財団法人墨田区文化振興財団 専門員 上田市交流文化芸術センター 館長兼総合プロデューサー
〃	かいづか つよし 貝塚 健	千葉県立美術館 館長
〃	こいずみ まさや 小泉 順也	一橋大学 言語社会研究科 教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	静岡銀行株式会社 元会長
〃	た な か ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学文化政策学部 教授
〃	なかむら み ほ 中村 美帆	青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科 准教授
〃	まえだ し の ぶ 前田 忍	サンクスループ株式会社 代表取締役

令和7年度の活動

会議名等	内容等
静岡県立美術館 第三者評価委員会	日時：令和7年7月31日（木）14:00～16:00 会場：静岡県立美術館 講座室 内容：（1）美術館自己評価結果について （2）設置者の取組について

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

2 令和6年度 静岡県立美術館第三者評価委員会 評価総括表

【使命】＝基本理念(美術館のめざすこと)		静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。 そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。 その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。
----------------------	--	--

基本方針		計画(P)			実施状況(D)	評価(C)	
		重点目標	評価指標	R6目標	R6実績	自己評価	第三者評価
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円	2 1,100 千円	【成果】 ・前年度と同様、少額ではあるものの購入予算が確保され、既収蔵品とゆかりの深い日本画・現代美術各1点を購入することができた。 ・作品90件・資料11件の寄贈を受け、コレクションを充実させた。2023年に閉館したヴァンジ彫刻庭園美術館(長泉町)からの61件一括寄贈の受入は、同館の特徴的な活動をコレクションを通して後世に伝えていくものであり、県立美術館として重要な役割を果たす機会となった。 ・収蔵品展4本のうち2本を企画展開関連展示として構成した。コレクションの新たな価値の発見と魅力の発信に有益だった。 ・ロダン館30周年にあたり小企画展を開催、改めてロダン館への関心を喚起する機会とした。 ・屋外彫刻の修復とプロムナードの環境整備を目的として初めてクラウドファンディングを実施、目標額1,000万円のところ190名の方から10,609,000円のご寄附をいただき、彫刻プロムナードの魅力回復を一歩進めることができた。 ・毎月開催する学芸課研究会および来年度の開館40周年記念企画展の準備の段階で、コレクションの検証に努めている。	・クラウドファンディングはある意味大成功といっていいんじゃないかと思うが、私が考える成功の要因というのは、しっかりと準備されたということもあると思うし、県美として初めての試みだったので目を引きやすかったという点と、何に使うかということが非常に明確に示されていて、切実感が伝わってきたので、寄付しようと思った方もかなりいたのではないかな。(田中委員) ・ふるさと納税の活用、クラウドファンディングについては、マンネリ化してしまうと効果が薄れることが予想されるため、1～2年に1回、毎回違う切り口(目的・用途・リターン等)で企画して、クラウドファンディングも美術館広報の一環、美術館の活動に理解を深めてもらうきっかけの1つとして、位置づけていければよいのではないかと考える。(中村委員)	
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 千円	101 84,180 千円			
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	300 件	297 件			
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	12,500 人	13,809 人			
		5 ロダン館の観覧者数(人)	50,000 人	45,171 人			
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	9 回	6 回			
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	18 件	16 件			
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	1,900 千円	2 6,187 千円			
		9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添			
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	124,250 人	106,502 人	【成果】 ・館内空間を縦横に活用して動く彫刻を展示した「テオ・ヤンセン」展、当館の最重要テーマである風景画に正面から取り組んだ「カナレットとヴェネツィアの輝き」展、館長の企画立案により静岡独自の新たな視点で組み上げた「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展、知られざる近代日本画家を顕彰した「石崎光瑠」展と、バラエティに富んだ特色ある企画展4本を開催することができた。これにより、基本理念にうたう「人々が多種多様な美術表現を体験」することに貢献した。 ・無言館展では県内企業4社から協賛を得て多くの関連イベントを展開することで、リピーターを集め、観覧者の展覧会への理解を深めた。マスコミ等を介さず美術館が企業と直接コンタクトを取り協賛を得たのは初めてのことである。 ・ロダン館30周年を記念した小企画展を開催、ロダンやブロンズ彫刻について理解を深める内容で好評を得た。 ・作品やテーマに興味を持った人の割合は95.0%と例年よりも高い数値となった。一方で、観覧者数は企画展・収蔵品展で対見込82.5%とややふるわなかった。 ・調査研究の発表回数は増加傾向にある。特に各学芸員の調査研究を元にした外部への出講・寄稿等が増加していることは、他機関との連携強化と個々の研究および企画力の強化につながり、評価される。 【課題】 ・テオ・ヤンセン展のターゲット層にはSNSが功を奏したが、カナレット展や無言館展では効果的な広報が打てなかった。展覧会の特性に応じた戦略的な広報展開は当館の慢性的な課題である。 ・無言館展を通して獲得した協賛企業との協力関係を発展させるため、継続的な取組みと仕組みのブラッシュアップが必要である。 ・調査研究の充実には美術館活動の発展の基盤をなすものであり、今後とも継続して環境整備に努め、充実を図る。	・「テオ・ヤンセン展」の目標値は12万4,250人で、実績10万6,000人は相当頑張ったと言って良いのではないかなと思う。(貝塚委員) ・できれば年齢別の顧客分析で増減した年齢層でそれに対する必要なマーケティングの策定に繋がればよいと思う。(前田委員) ・何か意欲的な、あるいはこれまででない記述の企画を立ち上げていく時に、こうしたアンケートを心に留めて計画をしていくということがあっていいかなと思った。(小泉委員)	
		11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	4 回			
		12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	92.0 %	95.0 %			
		13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	20 回	30 回			
		15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	11 回	14 回			
		16 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	4 回	3 回			
17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添					
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	110 10 件	155 23 件	【成果】 ・学校教育と連携した取り組みは、特別支援学校の利用も含めて増加した。 ・学校団体のボランティアスタッフとの鑑賞や、地域連携・草雉ツアーグループによる展覧会にちなんだおもてなしなど、ボランティアの活躍する機会が増えている。制度変更(1年更新制、募集年齢引き下げ)により組織の柔軟性が増したことで活性化が進んでいると考えられる。 ・講座系のプログラムは安定的に開催できている。加えて、ロダン館でのヨガ体験や芝生園地でのテオ・ヤンセン展イベント実施、石崎光瑠展での見えない人と見える人のおしゃべり鑑賞会など、多様なイベントを開催した。 ・無言館展においては、企業協賛金を獲得したことにより、多彩なイベントを実施することができた。 ・アーツカウンシル主催の「静岡県の文化への投資に関する研究会」に参加し、文化芸術への投資がもたらした効果を検討した。 【課題】 ・学校連携の定着が進んでいるが、特別支援学校のためのプログラム開発と利用促進、遠方地域でも利用しやすいプログラム提供など、さらなる展開を工夫する。 ・アクセシビリティに関しての意識は徐々に高まっているが、取り組むべき課題は多くあり、底上げのための全体の意識向上の取組みと個別の課題への対応とを、優先順位をつけた計画的に取り組む必要がある。 ・ボランティアとの連携で活動の幅が広がっていることから、ボランティアへの信頼や期待が高まっている。。この気運を生かしてさらなる連携強化と発展につなげたい。 ・クラウドファンディングの活用により彫刻プロムナードを整備し、館内空間だけでなく周辺環境も含めた美術館の魅力強化が進んでいる。評価指標の見直しが必要な時期となった。	・これから特にアクセシビリティについて公立の文化施設は考えていかななくてはならないと思う。(荻原委員) ・地域住民等と連携した取り組みというところにボランティアの説明があった。せっかくある組織なので、長い間美術館に対する愛着を持ってくれた方々がいると思うので、これをどうやって活性化させて若い人もそこに引き込んで拡大していくかというのは、ボランティアの拡充と一緒に今後の課題として考えていっていただければいいのでは。(櫻井委員)	
		19 鑑賞系プログラム数(件)	20 件	19 件			
		20 webを活用したプログラム数(件)	3 件	1 件			
		21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	90 回	123 回			
		23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	70 回	71 回			
		24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	12 3500 件 人	23 5210 件 人			
	3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数(件)	8 件	7 件			
		26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添			
	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	80.0 %			81.6 %
28 デジタルアーカイブによる情報発信 ・作品作家情報の追加および更新件数／全公開件数(件) ・現代美術関連資料の公開件数(件)			400/3100 14,000 30,500 件 件 件	432/3,135 13,603 30,833 件 件 件			
29 ホームページのアクセス件数(件)			1,200,000 件	1,495,743 件			
30 facebook、Instagram、Twitterの発信数／ビュー数(件)			1,000,000 件	542／ 2,066,832 件			
31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)			30,000 件	98,240 件			
2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組めます		32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	15 件	15 件			
		33 教育機関への情報発信数(件)	8 件	6 件			
		34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数(人)	197,395 人	200,202 人	【成果】 ・展覧会観覧者数は目標に届かなかったものの(指標10)、館内施設を利用したイベント開催やレストラン利用者数の増加により、美術館全体の利用者数は増加した。前年度からてこ入れを続けてきた情報コーナーについて、改修のうえ自動販売機を設置するなど、展覧会鑑賞だけではなく美術館全体の利用満足度を上げる取組みも成果を挙げた。 ・アクセス上の課題について抜本的な解決は難しいものの、シェアサイクルステーションの誘致や周辺駐車場の借用など、様々な対策が功を奏し、アクセス満足度は比較的安定してきている。 ・企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館展」展への企業協賛、クラウドファンディングによる彫刻プロムナードの作品修復及び再整備など、運営基盤強化のための新たな取組みが大きな成果を挙げた。 【課題】 ・施設の老朽化は深刻な課題であり、中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・運営基盤の強化のために、今年度の取組みの分析に基づく継続的な連携強化、新たな連携関係構築など、情報収集と積極的な働きかけを今後とも行う必要がある。	・40周年に向けて、応援してくれる企業の社名が出ているポスターを張り出すとか、個人の共感を得ていくための発信と受け皿とコト、これだったらお金を出すという仕掛けを総合的に考えていかなければいけないのだろうと思う。(荻原委員) ・全体的なところで、自己評価の成果と課題をきちんと分けて把握されていて、特に課題のところは問題点、課題を列挙するだけではなく、次につながるような記述がされているので、ぜひそういう課題から得た教訓を次の時に生かしていただきたい。(田中委員) ・文化庁の「博物館の望ましい基準」の議論について、何が新たな変化として生まれつつあるのかということを気にして次年度に備えていくとよいと思う。(小泉委員)	
		36 鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0 %	94.1 %			
		37 レストランに対する満足度(%)	95.0 %	97.8 72.5 %			
		38 ミュージアムショップに対する満足度(%)	97.0 %	99.3 83.9 %			
	2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 上段：公共交通機関利用 下段：自家用車利用	80.0 70.0 %	79.8 73.1 %			
		40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添			

設置者の取組	取組の状況		第三者評価委員意見	
	・文化芸術を通した共生社会の実現を目指して、ふじのくに芸術祭に「障害者文化芸術部門」を新設し県民が多様な表現活動に触れる機会を提供した。 ・新文化施設の利活用に向けた取組や、美術館を始めとする文化施設の夜間活用や収蔵品のデジタルコンテンツ制作など、新たな体験機会の提供による魅力の発信に取り組んでいる。 ・中期維持保全計画に基づいた改修工事(ロダン館非常用発電設備更新など)を行っている。		・作品購入のための予算については県に対しても、寄贈に頼っているのでは駄目なのではないかと思う。(荻原委員) ・文化に触れる活動としての共生社会の取組は定期的かつ継続的に行っていくべきかと思われる。それは普段の生活の中で触れる事が難しい方がまだ多くいるため、リアルの場を提供できる事がアートの強みであるため。(前田委員) ・施設の老朽化は安全面を最優先して引き続き行っていただきたい。(前田委員)	

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)					実施状況(D) R7.3.31現在		評価(C)	
重点目標		評価指標	R4実績	R5実績	R6目標	R6実績	備考	自己評価
1	収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	0 0	2 1,000 千円	— 千円	2 1,100 千円		【成果】 ・購入予算110万円をもとに既収蔵品とも関連の深い2点の作品を購入した。いずれも展示活用が多く見込まれ、研究の進展に寄与する作品である。 狩野探信守政《雑画貼交屏風》17-18世紀(江戸時代) 絹本着色 屏風装 小山田二郎《狂女》1954年(昭和29) キャンヴァス、油彩 額装 ・作品90件・資料11点を寄贈いただいた(日本画4点、日本洋画2点、西洋美術1点、現代美術作品83件・資料11点)。展覧会開催や調査研究といった日頃の地道な活動が評価され、実を結んだものといえる。 ・現代美術の新収蔵品のうち61件はヴァンジ彫刻庭園美術館からの寄贈である。ヴァンジ彫刻庭園美術館の特徴ある活動は静岡の現代美術史を語るうえで欠くことのできないものであり、その遺産ともいえるコレクションを受け継ぎ、活動の記憶とともに後世に伝えていくことは、県立美術館として重要な役割である。 【課題】 ・購入予算が継続して確保されたことは成果であるものの、美術館のコレクションにふさわしい作品を110万円以内で探すのは現実的に大変困難である。現在のコレクションを生かしていくためにも購入活動の継続は美術館にとって生命線であり、拡充が求められる。県庁と協力して仕組みの検討が必要である。 ・今後も継続して購入、寄贈の候補となり得る作品の情報収集に務め、収集に結び付けていく。
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	76 1,099,050	18 22,670 千円	— 千円	101 84,180 千円		
2	コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	393	416 件	300 件	297 件	指標3 収蔵品展(191)・企画展(9)・移動美術展(0)＋貸出(97)	【成果】 ・企画展「カナレットとヴェネツィアの輝き」展の関連収蔵品展として「ピラネージとローマの景観」、企画展「生誕140年記念 石崎光瑤」展の関連収蔵品として「異国への眼差し」「絢爛たる花鳥画」を開催、企画展と関連づけることでコレクションの新たな魅力を発信する機会とし、来館者にも概ね好評だった。コレクションによる企画展の開催がなく収蔵品の公開件数は減少したものの、収蔵品展の組み立てを工夫することで来館者にコレクションを印象付けることができた。 ・ロダン館30周年にあたり、収蔵品展スペースで記念小企画展を開催した。《地獄の門》について掘り下げることで、常設展示であるロダン館について改めて興味を喚起し、好評を得た。 ・ふるさと納税制度を利用して、彫刻ブロムナード再生のためのクラウドファンディング「次世代へつなぐ、アートとみどりの散歩道再生プロジェクト」を実施し、トニー・スミス《アマリリス》、清水九兵衛《地簪》の2点の修復を行うことができた(約620万円)。通常予算では高額の修復費の捻出が難しい状況だったが、彫刻ブロムナード全体を整備して美術館へのアプローチの魅力を高めるという趣旨が理解を得られ、クラウドファンディングが成功し、作品保存のための手当てができたことは大きな成果である。 【課題】 ・美術館活動の基盤にコレクションを位置付けることを明確にしたことで、コレクションの魅力発信に積極的に取り組む気運が高まっており、収蔵品展の内容充実などで成果を挙げた。一方で、近年の収集活動は寄贈に頼る部分が多くなり、作品購入はままらない状況が続いている。収集方針に基づく作品購入は、一貫性を持った発展的な美術館活動のために必要であり、関係各所の理解を促しながら予算確保のための工夫が必須である。 ・コレクションに限っての調査研究の発表回数や教育普及プログラム数はやや減少した。コレクションの公開にまつわる新たな活動の展開は重要だが、これまで進めてきたコレクションの調査研究や教育普及活動は地味ながらその基盤をなすものであり、継続的な充実を目指して注意を払っていく必要がある。 ・彫刻作品の修復を軸にした屋外環境整備をめざすクラウドランディングの実施は、令和6年度の大きな成果だった。寄附にまつわる手続き等についての知識、情報発信の効果的な手法、寄付者とのコミュニケーションのあり方、あるいは担当職員によるチームの運営方法など、取組みを通して得たノウハウを次につなげていくために成果と課題の検証が重要である。
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	8,296	8,696 人	12,500 人	13,809 人	指標7 詳細は「教育普及実数内訳」参照	
		5 ロダン館の観覧者数(人)	51,380	29,406 人	50,000 人	45,171 人		
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	6	9 回	9 回	6 回		
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	16	18 件	18 件	16 件		
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	6 496	18 4,643 千円	1,900 千円	2 6,187 千円		
		9 公開・貸出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	別添	別添	別添	別添		

基本方針	B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)						実施状況(D) R7.3.31現在		評価(C)			
重点目標		評価指標		R4実績	R5実績	R6目標	R6実績	備考	自己評価		
1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10	展覧会の来館者数(人)	98,861	55,565人	124,250	106,502人	◆は、自主企画展	【成果】 ・テオ・ヤンセン展／オランダの美術家テオ・ヤンセンが制作した「ストランド・ビースト」を展示。機械工学を応用した「ストランド・ビースト」は、生物のように自走し、展示室では実際に動く様子を毎日観覧できた。家族連れを中心に多くの来場があり、当初の目標人数をほぼ達成し、収支も黒字となった。またロダン館等にも作品を展示し、あまり来館経験のない来場者にも、当館所蔵品に触れる機会を提供した。 広報面では、まず臨時イベントを多数行い、話題創出に努めた。その予告や報告を含む関連情報を、SNSで積極的に投稿し、高い閲覧数を記録した。これが観客数増加にも寄与したとみられる。さらに、県の包括連携協定を利用しラグビー会場やショッピングモール等にブースを出展するなど、新たな広報チャンネルを開拓した。 ・カナレットとヴェネツィアの輝き／ヴェドゥータ(景観画)を本格的に紹介する日本初の展覧会であった。風景画を収集の柱の一つとする当館にとって宿題となっていたテーマであり、40周年を前に実現出来たことは、大きな成果であった。カタログは各エッセイや作品解説だけでなく、資料性にも十分に配慮し、例えば文献表は、カナレットについての文献はほぼ全て網羅している。今後この分野についての調査がなされる場合、必ず参照させられると思われる。出品作品も、カナレット以前、カナレット、同時代の作者や後継者、そしてヴェドゥータ以後のヴェネツィアを描いた絵画等、幅広くご覧頂くことが出来た。18世紀当時に人気を博したカメラ・オブスキュラをお客様に体験して頂くことも出来た。 ・無言館と、かつてありし信濃デッサン館／本展では、病や戦争によって夭折した日本近代の画家たちの作品を展示し、この時代に若者たちが絵画制作に注いだ熱意に触れる機会を提供した。また、無言館によって遺族の手元に遺品としてあった戦没画学生の絵が作品として鑑賞されることになったという様相に焦点をあてることで、絵が美術品として認知される仕組みや美術館という装置の役割について問いかける内容となった。一面的な見方に陥らぬよう戦争と画家の関係を多角的に紹介するとともに、観覧者にとってより身近な問題として受け止められるべく、寄託品を交えながら静岡ゆかりの戦没画学生を掘り下げて紹介した点も、本展の重要な成果である。 ・石崎光瑠／明治後期から昭和前期に石崎光瑠について、代表作を含む優品とともにスケッチや資料類を豊富に取り上げ、写生と古典学習を軸とした光瑠の画業を紹介した。知名度が高いとは言えない光瑠の魅力を広く発信するとともに、今後の研究進展に向けて基礎資料となる図録を刊行することができの大きな成果といえる。光瑠が大正期以降の伊藤若冲研究の第一人者であったことから、所蔵品・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》を同時期の収蔵品展で展示、光瑠と若冲の関連を通して近代画家による古典学習の実態を示し、より広範な近代絵画の問題についても触れる機会とした。結果として観覧者数は見込みを大きく上回った。光瑠の作品の力であるとともに、静岡新聞社との共催による広報展開、伊藤若冲の屏風による話題作りが功を奏したものと考えられる。 ・ロダン館30周年記念小企画「《地獄の門》ができるまで：素描、試作から完成へ」／当館のロダン館開館30周年を記念した企画展。《地獄の門》という巨大なロダンの代表作(彫刻)ができるまで、どのように変化し、発展したのかを、当館コレクションおよび他館から拝借作品で構成した様々な関連作や資料によって紹介し、作者のアイデアや制作のプロセスに迫った展覧会。ロダン館へと一直線に通じる本館第7展示室を会場として用いることで、本展とロダン館を併せて鑑賞いただき、ロダン作品およびブロンズ彫刻への理解を一層深める一助ともなった。同時期に開催していた企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」に関するアンケートにおいて、本展への質問がないにもかかわらず展示内容等を賞賛するご意見をいくつか頂戴したことに、ロダンおよびロダン館の普及という当初目標は達成したことが現れている。 【課題】 ・テオ・ヤンセン展／会期前半の平日は客足が伸び悩んだ。広報活動の開始時期が、諸事情により、当初の予定よりも1カ月ほど遅れたことが影響したとみられる。実行委員会内でスケジュールをしっかりと共有すべきであった。 開幕後にヤンセン作品を研究する高校のクラブ等の来場があった。もしも事前に各校に対して具体的な働きかけができれば、単に広報をするだけでなく協働等にも繋がりが、より効果的な話題創出ができたのではないと思われる。 本展では客層が比較的若かったためか、これまでになくキャッシュレス決済が多く、支出における各種手数料の総額が看過できないほどに大きくなった。今後、展覧会予算を組み立てるにあたっては、これを考慮する必要がある。 ・カナレットとヴェネツィアの輝き／出品作品の点数、就中カナレットの作品が少なかった。同時代の作者や後継者によるヴェドゥータの点数も、必ずしも十分とは言えなかった。ヴェドゥータを語る上で必須とも云えるカプリッチョ(綺想画)の油彩がほとんど無かったのも、非常に残念である。今後、何らかの形でヴェドゥータをご覧頂く機会があるなら、これらの点が満たされるのが望ましい。また、本展ではヴェネツィアを主な舞台としたが、ローマやナポリ等、ヴェドゥータが盛んだった他の都市の作品を取り上げることで、地域によって異なる主題や画風等を明らかにし、より広いヴェドゥータの世界をご覧頂けることであろう。 ・無言館と、かつてありし信濃デッサン館／本展では、企業協賛により観覧無料日を設け、著名人を招いたイベントを実施するなど、多くの関連イベントを展開することで、リピーターを集め、観覧者の展覧会への理解を深めた。しかし、入館者数全体は伸び悩んだ。アンケート調査によれば、本展の情報の入手のしやすさについて、全体では7.4%、新規来館者においては10.9%もの否定的評価があった。その要因の一つとして、来館者の約4分の1を占めた70歳以上の層に有効と考えられる広報を展開できなかったことが挙げられる。予算の面で新聞広告が難しい場合、それに代替する高齢者層にリーチする効果的な広報のあり方を検討したい。 ・石崎光瑠／所蔵品との関連をひとつのきっかけとして開催した展覧会であり、企画展とコレクションの両方の魅力発信と話題作りの機会とすることができた。企画展と関連づけた収蔵品展開催については今後も工夫を続けていきたい。予想を上回る観覧者を迎えたことについて、新聞による広報が有効だったのは間違いないが、アンケート結果によるとSNSやウェブで情報を得た方の割合も高く、光瑠の華麗な絵画世界がウェブ上で効果的だったことも一因として考えられる。従来の日本画ファン層に加え、ビジュアルから関心を持つ若年層を含む幅広い層を取り込めたことが観覧者増に寄与しており、両方をとりこぼさないための広報の手当が今後とも求められる。 ・ロダン館30周年記念企画「《地獄の門》ができるまで：素描、試作から完成へ」／特になし。		
			テオ・ヤンセン展(75日間)			人	44,750人			43,792人	
			◆カナレットとヴェネツィアの輝き(57日間)			人	33,000人			18,224人	
			◆無言館と、かつてありし信濃デッサン館(56日間)			人	22,000人			10,403人	
			◆石崎光瑠(50日間)			人	10,000人			18,117人	
			◆ロダン館30周年記念小企画《地獄の門》ができるまで：素描、試作から完成へ(59日間)			人				3,096人	
			収蔵品展(288日間)	8,296	8,696		12,500人			10,713人	
			移動美術展(島田市金谷生きがいセンター夢づくり会館)	1,371	2,719		2,000人			2,157人	
			11	自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4	3回	4回			4回	
	12	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	91.8	92.1%	92%	95.0%					
		13	展覧会に対する外部評価【定性】	別添	別添	別添	別添				
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14	調査研究の発表回数(回)	26	21回	20回	30回	指標14 論文発表(18)＋外部出講(12)	【成果】 ・学芸員の外部出講等の機会が増加しており、個々の調査研究に基づく外部との連携が進展している。 ・他機関との連携により展覧会内容を充実させることができた。連携を企画力強化につなげて成果を挙げている。 【課題】 ・展覧会開催や作品収集の基盤となる調査研究は継続的な強化が必要であり、今後とも安定的に調査研究に取組み、発信していくための環境整備が求められる。現状では図書購入費が縮減され実情にまったく追いついておらず、大きな課題である。 ・調査研究に関する外部評価では、論文内容を発案させて展示に結びつけていくための提言をいただいており、調査研究を展覧会として形にし、広く還元していくことが重要である。		
		15	内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	11	11回	11回	14回	指標16 静岡県博物館協会事務局、「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展開催、「生誕140年記念 石崎光瑠」展開催			
		16	他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	3	3回	4回	3回				
		17	調査研究に関する外部評価【定性】	別添	別添	別添	別添				

-8-

基本方針	C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)						実施状況(D) R7.3.31現在		評価(C)	
重点目標		評価指標		R4実績	R5実績	R6目標	R6実績	備考	自己評価
1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18	学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	91 10	100 8 件	110 件 10 件	155 件 23 件	詳細は「教育普及実数内訳」参照	【成果】 ・需要が高いねんど・えのぐ教室やねんど・えのぐ開放日の実施日を増やすことで、より多くの学校や利用者を受け入れて実施することができた。 ・数年ほど実施していなかった「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムの依頼が4件あり、学校からの観覧の需要や対話型鑑賞を求める声が高まったことを実感した。 ・「音のかけらワークショップ」についても長らく依頼がなかったが、視覚支援学校からの依頼で数年ぶりの実施が実現した。特別支援学校にも効果的なプログラムとして今後も利用を促したい。 ・全体的には、昨年度に比べ、学校教育との連携した件数や人数が、特別支援学校も含めて増加した。 【課題】 ・特別支援学校が利用しやすいように既存のプログラムに変化をつけたい。 ・ねんど・えのぐ教室に関しては市内の学校が中心であり、西東部の学校の利用はほとんどないのが現状である。遠方の学校であっても利用しやすいプログラム内容を検討していきたい。 ・観覧を促すために、プログラム内容に展覧会に関連した要素を取り入れたい。 ・オンライン鑑賞教育プログラムの利用者数を把握できるようにし、利用の実態やニーズを把握することで、webを活用したプログラムの開発につなげたい。 ・webを活用したプログラムについては、ギャラリーツアーのオンライン実施は今年度はしておらず、実施時にトラブルが発生した際の対応策等を検討しているところである。 ・多数のプログラムを実施し、成果を上げているとはいえるが、年々予算が削減されている。教育普及にかかる予算の構成上、主に講師、助手等の報償費を削減することになる。比較的予算のかからないプログラムなども考案しているところだが、一定程度の予算確保は、好評を得ている既存プログラム継続の上でも重要である。
		19	鑑賞系プログラム数	17	19 件	20 件	19 件		
		20	webを活用したプログラム数(件)	2	3 件	3 件	1 件		
		21	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	別添	別添	—	別添		
2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22	講演会等の開催件数(回)	79	86 回	90 回	123 回	指標22 指標23＋特別講演会・シンポジウム(6)＋ボランティア等によるギャラリーツアー(41)＋演奏会等ロダン館普及事業(5)	【成果】 ・講演会や学芸員によるフロアレクチャーなど展覧会関連イベントに積極的に取り組んだ。 ・テオ・ヤンセン展における館内空間を使った「リ・アニメーション」(作品の稼働)を計4日間(12件)実施し、多くの来館者に楽しんでもいただいた。指標22～24には該当しないが、同展では、アウトリーチ、野外イベントも実施し、多数の幅広い層にアプローチした。 ・ロダン館開館記念展でのヨガ体験は、これまでにない普及事業の実施であった。 ・無言館展では、企業協賛金を獲得したことにより、コンサートや映画上映などの展示関連普及事業、講演会など、多彩なイベントを実施することができた。企業協賛による無料観覧日の設定も、前例にない試みである。 ・石崎光瑤展では、視覚障害者と晴眼者によるおしゃべり鑑賞会を実施した。 【課題】 ・企業協賛については、今後も継続して支援していただけるよう体制作りが必要である。 ・アクセシビリティについては、日本語話者でない住民や障害者などを対象として、取り組むべき事項は多いが、マンパワーの確保やノウハウの共有、継承などクリアすべきことが多い。 ・クラウドファンディングにより、野外作品修復、環境整備を行った。今後は屋外空間の活用も進めるべきだが、それに伴い指標24についても修正が必要か。
		23	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	67	46 回	70 回	71 回	指標23 美術講座(7)＋フロアレクチャー(27)＋オリエンテーション(11)＋出張美術講座(5)＋展示関連普及事業(21)	
		24	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	8 1,598	10 件 3,042 人	12 件 3,500 人	23 件 5,210 人	指標24 ちょこっと体験(3件1366人)＋ロダン館コンサート(2件444人)＋ロダンウィーク・《地獄の門》ができるまで展クイズラリー(1件545人)＋《地獄の門》ができるまで展「ロダン館で、レッツ・ヨガ！」(1件22人)＋ボランティアによる情報コーナー等でのお茶会(4件1033人)＋テオ・ヤンセン展リ・アニメーション(12件1800人)	
3	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25	地域住民等と連携した取組数	7	7 件	8 件	7 件	指標25 ・ボランティア活動 ・館内レストランとの連携 ・「文化の丘フェスタ」クイズラリー ・草薙商店会との連携 ・一般社団法人「草薙カルテッド」との連携 ・美術館ボランティア「地域連携・草薙ツアー」グループとのイベント企画 ・アーツカウンシル主催の「静岡県の文化への投資に関する研究会」への参加	【成果】 ・ボランティア活動については、令和5年度より任期を1年として更新可能にすると同時に、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。令和6年度は131名を採用した。 ・館内レストラン「ロダンテラス」と連携し、企画展ごとに県産食材を使用した特別メニューの提供を行い、5,300食の売れ行きだった。 ・草薙商店会、一般社団法人草薙カルテッドと連携し、美術館企画展と静岡の食の魅力体験ができる「ぐるめぐりスタンプラリー」を行った。155人の参加があった。 ・ボランティア地域連携・草薙ツアーグループが、美術館の茶畑でのお茶摘みのイベントやそこで採れたお茶を使用した呈茶を行った。 ・アーツカウンシル主催の「静岡県の文化への投資に関する研究会」に参加し、文化芸術への投資がもたらした効果を検討した。 【課題】 ・観光業界やアーツカウンシルしずおかとの連携など、地域連携のあり方を引き続き検討していく必要がある。
		26	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	別添	別添	—	別添		

基本方針	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)						実施状況(D) R7.3.31現在		評価(C)	
重点目標		評価指標	R4実績	R5実績	R6目標	R6実績	備考	自己評価	
1	広報戦略を策定し、 広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	75.5	79.1 %	80.0 %	81.6 %	作品作家情報 公開104件・更新328件	【成果】 ・SNSはX(旧Twitter)を中心に閲覧数が飛躍的に増加した。要因としては、テオ・ヤンセン展会期中に、作品が動く様子を撮影した動画を頻繁に投稿し、大きな反響があったことが挙げられる。Xのインプレッション数の約半分は同展会期中のものであり、このような情報の拡散が、本展来場者数の増加に一役買ったと考えられる。 ・他の展覧会や、クラウドファンディングの広報においても、展覧会担当者や広報委員が協力し、盛んに投稿を行った。年度末近くにミュージアムショップの新たなオリジナルグッズの紹介に積極的にSNSを活用したことも、閲覧数の増加につながった。 ・ホームページでは、テオ・ヤンセン展会期中に展覧会概要ページや来館案内を中心に多数のアクセスが確認でき、来館を検討する閲覧者に対し、適切な情報提供ができていたとみられる。 ・特筆すべき点として、クラウドファンディングの成果を伝える動画を、複数の職員の協力のもと、館内で製作し、Youtubeで公開したことが挙げられる。当館ではこれまでにない規模の動画製作であり、効果的な広報手段を探るうえでの試金石となった。 【課題】 ・デジタルアーカイブのうち、作家の展示案内等のデータベースである現代美術関連資料について、登録のペースがやや落ちた。入力作業を行うボランティアにチラシ配架など新たな活動内容が加わったため、作業に割く時間が減っている可能性がある。端末の台数を増やすなどして、効率よく作業が可能な環境を整える必要がある。 ・当館SNSにおいても、動画に注目が集まりやすく、広報において高い効果が望めることが明らかとなった。ただし、SNS投稿に向く動画はテオ・ヤンセン展だからこそ多数撮影できたのであり、一般的な美術品を展示する展覧会ではどのようにすれば効果的な動画を制作できるか、工夫が必要である。 ・一時的に閲覧者数が増加してもその状態を維持することは難しい。特に、企画展の合間には、発信すべき情報が少なくなり、投稿の頻度も下がる傾向にあり、必然的に閲覧者数が減る。年間を通じて途切れなく情報発信を行える体制を整えなくてはならない。 ・Xの経営者による政治的言動や不適切とされた情報拡散を受け、欧米を中心に、個人や教育機関等で利用を停止する動きが広がった。日本では大きな反応はなかったものの、情報発信に利用するプラットフォームを、世界的に影響を持つグローバル企業に頼る以上、その毀誉褒貶には、時に注意を払うべきであろう。	
		28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の新規公開・更新件数／全公開件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	3,222 9,534 23,293	749/3,030 件 12,088 件 29,923 件	400 件 14,000 件 30,500 件	432/3,135 件 13,603 件 30,833 件			
		29 ホームページのアクセス件数	1,240,277	1,062,287 件	1,200,000 件	1,495,743 件			
		30 facebook、Instagram、Twitterの発信数／ビュー数(件)	719,846	869,669 件	1,000,000 件	542／ 2,066,832 件			facebook 発信数90件、ページリーチ数 67,878 インスタ 発信数126件、ページリーチ数 91,207 Twitter 発信数326件、インプレッション数 1,907,747
		31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	24,556	29,352 件	30,000 件	98,240 件			facebook エンゲージメント数 3,881 インスタ エンゲージメント数 8,790 Twitter エンゲージメント数 85,569
2	観光業界等と連携した新たな広報チャネルの開拓に取り組めます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7	14 件	15 件	15 件	指標32 ・浜名湖花博での出展 ・静岡ブルーレプス試合での出展 ・ブラジル人学校(エスコラアルカンセ)のイベントに出展 ・包括連携協定に基づくイオンでの出展(3回) ・他美術館等講演会での紹介2件 ・大学の講義内で紹介2件 ・館内レストランにおける展覧会関連メニューの提供4件 ・民間企業と連携したAR技術活用によるコレクション画像撮影スポットの設置	【成果】 ・浜名湖花博に体験ブースを設けて参加し、西部でPRをすることができた。アウトリーチにつながった。 ・テオ・ヤンセン展では、県内各地に出展し、ミニ・ビーストを使った体験イベントを行なった。 ・静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡産業大学の学生に対し、事務局を通じて一斉メールで企画展の内容を広報した。 ・民間企業と連携して、AR技術を活用した来館者によるコレクション画像撮影スポットを設置し、好評を得た。 【課題】 ・地域連携及び観光業界との連携を模索し、来館者増加に向けた美術館の発信力を更に高める必要がある。	
		33 教育機関への情報発信数(件)	3	7 件	8 件	6 件	指標33 ・大学の講義内で紹介2件 ・事務局を通じた県内3大学の学生への広報4件		
		34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	別添	別添	別添	別添			

基本方針	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。
------	--------------------------

計画(P)						実施状況(D) R7.3.31現在				評価(C)	
重点目標		評価指標		R4実績	R5実績	R6目標	R6実績	備考		自己評価	
1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	35	美術館利用者数	186,148	128,361 人	197,095 人	200,202 人	令和6年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館講堂舞台音響設備更新工事 ・本館講堂舞台照明設備更新工事 ・ロダン館非常用発電設備更新工事		【成果】 ・令和6年度は中期維持保全計画に基づき、ロダン館非常用発電機更新工事や講堂音響、照明設備改修工事を実施した。工事に伴い講堂は3ヶ月間の利用休止としたため、講堂入場者数は令和5年度と比べて395人低下した。 ・クラウドファンディング資金を基に、プロムナード景観向上のため、屋外ベンチの更新、低木伐採、杭ロープの更新等を行った。 ・レストランに対する満足度は47.2%から72.5%に向上した。ガストロノミーリズム事業を活用し、企画展毎に県産材を使用した特別メニューを安価な値段で提供した結果と考えられる。また、レストラン営業時間外も利用できるよう情報コーナーを改修し、自動販売機を設置した。指標には無いが令和6年度に6千人近い利用があり、来館者の利便性向上に寄与している。 ・ミュージアムショップは運営会社を公募型プロポーザル方式により募集し、令和6年7月より県内書店3者の事業体から株式会社オークコーポレーションに交代した。令和6年度中に12種類のオリジナルグッズを開発し、中でも伊藤若冲作品をモチーフにしたぬいぐるみ「じゅかぞう」が大ヒットするなど、来館者ニーズをつかんだ結果、満足度は83.9%となり前年度の65.1%から高い伸びを示した。 【課題】 ・開館から38年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの売上や利用者数は来館者数にほぼ比例する。高いサービス水準を維持していくためには、美術館としても来館者数向上に努めるとともに、ニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。	
			展覧会観覧者数	118,000	71,500 人	124,250 人	106,502 人				
			教育普及プログラム参加者数	9,433	13,751 人	11,985 人	17,822 人				
			ミュージアムコンサート等入場者数	230	1,027 人	1,160 人	4,952 人				
			県民ギャラリー入場者数	27,447	20,002 人	25,000 人	27,325 人				
			講堂入場者数	4,063	4,501 人	4,200 人	4,106 人				
			レストラン利用者数	9,216	7,761 人	9,000 人	14,398 人				
			ミュージアムショップ利用者数	16,655	8,529 人	20,000 人	23,197 人				
			図書閲覧室利用者数	1,104	1,290 人	1,500 人	1,900 人				
		36	鑑賞環境に対する満足度	85.3	91.7 %	90.0 %	94.1 %				
		37	レストランに対する満足度	94.4 38.1	94.5 47.2 %	95.0 %	97.8 72.5 %				
		38	ミュージアムショップに対する満足度	97.1 53.3	97.5 65.1 %	97.0 %	99.3 83.9 %				
2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39	来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80.9 60.3	74.5 % 70.8 %	80.0 % 70.0 %	79.8 % 73.1 %			【成果】 ・当館の利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は、令和5年度の70.8%から73.1%に向上し、引き続き目標の70%を上回った。来館者が多く見込まれた「テオ・ヤンセン展」では、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、交通誘導員を配置し、県立大学の職員駐車場を借用する対応を行った。 ・令和6年9月に静岡市シェアサイクルPULCLEステーションを誘致し、公共結节点等からのアクセス向上を図った結果、公共交通機関利用者からの満足度が令和5年度の74.5%から79.8%に向上した。 【課題】 ・敷地内に400台の無料駐車場があるものの、来館者が多くなると美術館に近い第3駐車場が満車となり、駐車可能台数が多い第1第2駐車場からのアクセスは徒歩区間が長く、登り坂であることが満足を得られにくい要因となっている。	
3	運営基盤を強化します	40	運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	別添	別添	別添	別添			【成果】 ・地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)により寄附があった100,000円は、美術館運営事業費に充当した。 ・ふるさと納税制度を利用して、当館初となる彫刻プロムナードの再生のためのクラウドファンディング「次世代へつなぐ、アートとみどりの散歩道再生プロジェクト」を実施し、190名の支援者から10,609,000円の寄附があった。この寄附を活用して作品の修復や植栽の整備行い、魅力向上に繋げた。 ・企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展への協賛に向けて館長自ら企業訪問を行い、信頼関係を構築した結果、4企業から2,000,000円を超える支援金を受け、展覧会イベント事業を充実させることができた。 【課題】 ・国や財団法人からの補助金、民間企業からの協賛金、ふるさと納税を活用した企業や個人からの寄附金など外部資金の確保に向け、情報収集と引き続き積極的な働きかけを行う必要がある。 ・美術館において財政状況が厳しい中、企業との継続的な連携制度の構築が必要である。また、美術館を知ってもらい、活用してもらえるよう企業に対して積極的な働きかけを行う必要がある。	

令和6年度 評価指標7、18、19内訳（教育普及プログラムの実績）

事業名	評価指標7	評価指標18			評価指標19
	コレクション活用 プログラム	学校教育と 連携した取	人数	うち特支と連 携した取組	鑑賞系 プログラム
特別講演会			548		○
美術講座			495		○
フロアレクチャー	○	1	811		○
ギャラリーツアー	○		402		○
オリエンテーション ※人数は学校以外団体も含む		7	210	0	○
ちょこっと体験	○		1597		
創作週間			475		
実技講座	○		52		○
えのぐ開放日			220		
ねんど開放日			613		
わくわくアトリエ	○		76		○
夏休み子どもWS			5		○
ロダン館デッサン会	○		316		○
ロダン館普及事業	○		1241		○
タッチツアー	○		15		○
地域連携事業			1113		
展覧会関連普及事業(コンサート等)			3711		○
出張美術講座	○	5	257	1	○
展覧会・収蔵品関連普及事業及び美術館活用 事業、他館連携事業(フェス)	○		0		
ねんど教室		41	924	4	
えのぐ教室		30	621	5	
音のかけら	○	1	7	1	
ロダン館デッサン実習	○	5	139	0	○
ロダン館鑑賞、ななふしぎクイズ	○	9	257	2	○
美術館の秘密を探れ		4	103	0	
学校向けボランティアスタッフとの鑑賞		4	132	0	○
職場体験、インターンシップ ※延べ人数		4	7	0	
粘土貸出		22	1672	6	
レプリカ貸出	○	11	923	1	○
アートカード貸出	○	6	842	1	○
教員研修	○	5	38	2	○
	16	155	17822	23	19

【資料編】

展覧会に関する自己点検評価表（令和 6 年度）

- 1 カナレットとヴェネツィアの輝き
- 2 無言館と、かつてありし信濃デッサン館 —窪島誠一郎の眼
- 3 生誕 140 年記念 石崎光瑤

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	カナレットとヴェネツィアの輝き
------	-----------------

期 間	令和6年7月27日(土)～9月29日(日) (57日間)
場 所	静岡県立美術館第1～5展示室

担当者名	新田建史
------	------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	令和6年4月1日
	実績	令和7年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	<p>18世紀のヴェネツィアで、アルプス以北からこの都市を訪れる貴族達に大人気を博した、景観画(ヴェドゥータ)の巨匠カナレット。本展は、彼の全貌を紹介する日本で初めての展覧会である。</p> <p>景観画(ヴェドゥータ)は、都市や遺跡等の名所を精密に描き出した絵画で、その場所を訪れた者には記念となり、まだ訪れたことの無い者には憧れを掻き立てるものとなってきた。当館は風景画を収集方針の一つに据え、研究公開を続けてきたが、この分野だけは、手が付けられて来なかった。本展は、カナレットの画業を包括的に紹介すると共に、彼に先立つ世代の作品や同時代の景観画家、後継世代の作家作品を紹介、更に、モネ、シニャック等、日本でも人口に膾炙する作家のヴェネツィアを描いた作品をご覧頂く。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (展覧会) カナレット芸術を味わうには点数とラインナップが十分とは言えなかったことが残念だが、展示の流れも考え抜かれており、ターナーやモネまでつながる「ヴェネツィア」の原点たるカナレットを一般の鑑賞者にも提示出来た(潮江師)。</p> <p>ヴェドゥータの成立展開を辿る啓発的な展覧会。一般の鑑賞者にもわかりやすく、ピラネージ版画特集展示やカメラ・オブスクーラの模型も効果的であった(栗田師)。</p> <p>(図録) 執筆者それぞれの研究成果が十分披露されている。一般の鑑賞者には、作品解説の分量が多すぎるか(潮江師)。</p> <p>鑑賞者に親切で、全て日本側で執筆されていることも評価できる。詳しい文献表も、この分野の研究を促す一助となるだろう(栗田師)。</p>
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 景観画を本格的に取り上げる、おそらくはアジア初の展覧会である。加えて、コロナ禍は明けたものの、円安等により海外旅行が難しい現在、単なる作品展覧ではなく、ヴェネツィアという都市を遊覧する感覚を取り入れることで、より多くの方々にアピールし、美術作品に親しむ機会とした。</p> <p>【ターゲット】 幅広い層の方々にお楽しみ頂けると予想する。東海地方一円のお客様が主となると思われる。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 「初めて来館」された方が28.6%、「この1年間には来館していない」方が38.8%であり、この展覧会がきっかけで初めて乃至久しぶりに来館した方がボリュームゾーンか。</p> <p>「来館理由」が「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」21.4%、「テレビを見て」12.0%にとどまったのは、テレビCMや特別番組まで製作したのに対し、意外な結果である。同じ項目がテオ・ヤンセン展では18.2%、無言館展が3.7%であることから、テレビというメディアの有効性云々ではなく、対象となる観覧者層に対して有効なメディアは何か、という問題かと思われる。</p> <p>「観覧時の心地よさ」が97.7%、「作品やテーマへの興味・関心の深まり」が95.4%であり、初めて乃至久しぶりのお客様の来館を誘い、満足度は高いが、その絶対数は少なかったと云える。</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 33,000人	観覧者数 18,224人
収支計画	・歳出 31,534千円、うち県費18,921千円 ・歳入 19,390千円 ・特財率 102.5%	・歳出 県費19,097千円 ・歳入 1,011千円 ・特財率 52.9%
広報戦略 主な取組	静岡第一テレビとの共催企画であり、テレビを主軸とし、SNSも活用した広報が望ましい。ターゲットとなる観覧者が年齢・性別を問わないところから、何らかのメディアに重点を置くのではなく、幅広い広報を心掛けたい。	開催前後のテレビCM7種類の他、特別番組も製作し、必ずしも観覧者数増には結びつかなかったが、展覧会の主旨や会場の様子を、良質な画質で残すことが出来た。雑誌『美術手帳』上では、今年度に見るべき展覧会の一つとして挙げられており、事前の周知は十分であったと考える。ただ、同時期に静岡市美術館で、西洋絵画の展覧会を開催しており、動員力で敗北を喫したと感じる。
自己評価 今後の課題	開催する意義のある展覧会であり、風景画の美術館としての当館の役割りは十分に果たしていると考え。反面、意義はあっても観覧者数の伸びない展覧会を今後も成立させていくために、当該年度の各展覧会の組み合わせや、助成金の確保等、経済的な側面の検討が、一層求められている。	

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ―窪島誠一郎の眼
------	-----------------------------

期 間	令和6年10月12日(土)～12月15日(日) (57日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	喜多孝臣
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	巡回の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

記入日	企画	令和6年4月1日
	実績	令和7年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	<p>【目的】 窪島誠一郎が設立した無言館と信濃デッサン館のつながりに目を向ける初めての展覧会。窪島の美術館活動をたどり、夭折の画家や戦没画学生の作品を紹介することで、戦争と画家・美術品の評価・美術館という装置といった多岐にわたるテーマを観覧者に提示。戦時下の日本近代美術への理解を深めるとともに、美術館活動への関心を高める。</p> <p>【内容】 無言館収蔵の戦没画学生の作品と信濃デッサン館旧蔵の村山桃多、鏗光、関根正二ら夭折の画家の作品および関連作品・資料を紹介。木下直之館長による当館初の企画展。</p> <p>○展覧会構成 ・序章―自画像 ・第一室―遺された絵と言葉 ・第二室―無言館の誕生 ・第三室―最期まで描こうとしたもの ・第四室―静岡出身戦没画学生 ・第五室―戦争と向き合う ・第六室―窪島誠一郎の眼</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (展覧会) ・地元作家を取り上げ、従来から静岡県立美術館が取り組んでいた静岡の美術の流れの中に1930年代40年代の作品が位置づけられた点が本展独自の貢献であった。社会的に評価される前に亡くなった画家たちの作品をまとめて展示することで、知られざる1940年代絵画の側面が明るみに出され、評価されぬまま埋もれている作品が他の時代にもある可能性を想起させ、展覧会がもたらす再評価の意義を示している。序章から各室の冒頭にそれぞれの趣旨を記したパネルを置いた展示は、鑑賞者が展覧会の構成を理解するよい手引きとなっていた。作品キャプションに画家の享年が記されているのも、展覧会の趣旨をよく伝えていた。(山梨委員) ・窪島誠一郎の活動紹介は、日本の美術館や美術館人の在り方に示唆をあたえてくれるところがあった。(金原委員)</p> <p>(図録) ・展覧会の構成と内容の理解を助ける図録となっている。年表と新聞記事まで掲出した主要関連文献リストは、窪島氏の美術関係の活動を知る基礎資料となる。年表に社会的出来事欄があればさらによかった。(山梨委員) ・多様な生きざまや画家の人生を感じさせるところ多であった。(金原委員)</p>
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ・一般的に馴染みの薄い戦時下の日本近代美術への理解を深めるため、時代背景を詳しく紹介。 ・戦没画学生の作品を身近に感じてもらうため、自画像を紹介するとともに、静岡ゆかりの戦没画学生のコーナーを設ける。 ・戦争と画家の関わりへの理解が一面的に陥らぬよう、戦没画学生、従軍画家、戦場からの絵葉書など多角的に紹介。</p> <p>【ターゲット】 ・日本の洋画愛好者。 ・日本近代史、太平洋戦争に関心のある方。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ・50歳代、60歳代、70歳以上の来館者が全体の半数以上を占めている。 ・県外からの来館者が全体の24%、新規来館者では69.1%と高い水準となった。 ・1人で来館された方が、47.9%あった。 ・来館理由では、「チラシを見て」が26.2%と一番高かった。 ・本展の情報の入手のしやすさについて、全体では7.4%、新規来館者においては10.9%もの否定的評価があった。 ・作品やテーマへの興味・関心の深まりについて、全体は肯定的評価が94.8%、新規来館者は98.2%と高く、自由意見として「重いながらもテーマが明確で見応えがありました」など、内容に深い関心を寄せる感想が多数寄せられた。</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 22,000人	観覧者数 10,403人
収支計画	・歳出 19,891千円(うち協賛2,000千円) ・歳入 16,034千円 ・特財率 80.6%	・歳出 18,453千円 ・歳入 9,052千円 ・特財率 49.1%
広報戦略 主な取組	・通常の二倍の紙面により多岐にわたる本展テーマを詳しく紹介するチラシを制作。 ・東京在住の美術ファンが情報をキャッチできるよう東京国立近代美術館など大規模美術館にチラシを多数配布。 ・本展への協賛を地元企業に募った。 ・企業からの協賛により、関連イベントを複数回実施し、観覧無料日を平日に2日間設定した。	・アンケート調査にあるとおり、本展ではチラシを見て来館した方が多く、情報量の多いチラシ制作には、効果が認められる。一方、アンケートに本展の情報が入手しづらいとの意見が見られるが、その要因の一つとして、来館者の約4分の1を占めた70歳以上の層な新聞を利用した宣伝等が展開できなかったことが影響したと考えられる。 ・企業協賛による観覧無料日は、実施同週の平日より来館者が増え、アンケートにも本取組を喜ぶ感想が見られた。
自己評価 今後の課題	本展では多岐にわたるテーマを提示したため、展示内容や構成を来館者が体感的に理解しやすくすることを目指し、展示室ごとにテーマを設定し、構成した。各テーマには解説パネルを多数設置し、生前に公的評価を受けることのなかった画学生たちの作品を中心に取り上げたことを踏まえ、それぞれの作家に略歴を添え、死因や享年も紹介することで、その人生をたどれるよう工夫した。加えて、多数の関連イベントを開催し、さまざまな角度から本展のテーマに光を当てる試みを行った。これらの展示手法や解説、関連イベントは、来館者の作品やテーマへの理解と関心を深めるうえで、一定の効果があったと考えられる。 一方、広報戦略に関しては、なお課題が残された。会期後半に至ってようやく、新聞各紙に本展に関する紹介記事が掲載されたものの、情報に接する機会を得られなかった潜在的来館者が少なからず存在した可能性がある。新聞広告が利用できない場合の代替手段となる、効果的な広報手法の検討を今後進めていきたい。	

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	生誕140年記念 石崎光瑤
------	---------------

期 間	令和7年1月25日(土)～3月23日(日)(50日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	石上充代
------	------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	令和6年4月1日
	実績	令和7年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	石崎光瑤(1884～1947)は、明治後期から昭和前期にかけて京都を中心に活躍した日本画家。本展は、光瑤の作品を500点ほど所蔵する富山県南砺市福光美術館のコレクションを中心に、その画業の全貌を紹介する初の大規模回顧展である。南砺市立福光美術館、京都文化博物館、静岡県立美術館の3館共同で企画し、巡回する。 構成は時代順の4章仕立てとし、インド旅行を契機とする絢爛豪華な花鳥画の大作を軸としながら、そこにいたる初期の作や晩年の新たな展開を丁寧に紹介することで、理想の花鳥画目指して一途に研鑽を続けた光瑤の魅力に迫る。 また、光瑤が伊藤若冲に強い憧れを抱いていたことに着目し、同時期の収蔵品展では当館が所蔵する伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》を出品する。両者の競演により静岡ならではの展示にするとともに、光瑤の画業への関心と呼びかけたい。	【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 ※実施なし
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	【ねらい】 ・代表作を中心としながらスケッチや資料類も含めた幅広い出品作で構成することで、独自の卓越した花鳥画を展開した光瑤の魅力を示す。 ・光瑤が若冲研究の第一人者であったことを作品・資料類から示しつつ、近代画家と古画研究の関係を示す。 【ターゲット】 ・県立美術館の固定ファン層 ・伊藤若冲に関心を持つ比較的若い層 ・県内だけでなく若冲をきっかけとして県外からの誘客をめざす	【アンケートにみる特徴】 (本展アンケート調査は委託業務に含まず館内業務として独自に集計しており、R6年度平均値に本展の集計結果は含まれない) ・作品やテーマについての興味・関心が深まったかという問いに「はい」と回答した人の割合が83%と高く(R6年度平均72.2%)、「どちらかというとはい」の16%とあわせて肯定的評価が99%を占めた。 ・県外からの来館者が37%と高い割合を示した(R6年度平均21.1%)。 ・自由回答では、「石崎光瑤を知らずに訪れたが見応えがありよかった」といった記述が多く見られた。
指標(数値目標)	観覧者数見込 10,000人	観覧者数 18,117人
収支計画	・歳出 13,782千円 ・歳入 6,860千円 ・特財率 49.8%	・歳出 12,982千円 ・歳入 14,417千円 ・特財率 111.1%
広報戦略 主な取組	・静岡新聞との共催事業であることから新聞広告等を通して県内の美術館ファン層に確実に情報を届ける。 ・初の大規模個展であることをアピールし、県外から誘客する。 ・石崎光瑤と伊藤若冲の関連を押し出し、知名度が高いとはいえない光瑤について若冲を通して興味を持ってもらう。	・静岡新聞での特集記事や複数回の広告の掲載により、県立美術館または日本画に関心のある層に情報を届けることができた。 ・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の展示にあわせて関連オリジナルグッズを開発、グッズと絡めたSNS上の情報発信を行い、会期中の話題づくりを効果的に行った。
自己評価 今後の課題	・石崎光瑤の代表作を含む優れた作品を豊富な資料群とともに陳列し、光瑤の画業を掘り下げ、その意義を紹介した。近代日本画家の絵画学習や画風形成の様相を知るうえでも意義深いものであった。 ・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》を所蔵することをひとつのきっかけとして開催したものであり、企画展とあわせて本屏風を展示することでコレクションの価値の発信につながった。 ・静岡新聞との名義共催により新聞紙上での紹介機会が多く、県内の美術ファンに確実に情報を届けることができた。加えて、ウェブやSNSを情報入手手段として挙げる来館者の割合も高く、オーソドックスな手法とウェブ等の活用の両面が来館者数増に貢献したものと考えられる。石崎光瑤の色鮮やかで華やかな花鳥画は視覚に訴える効果が高く、広告が多くの人目に留まりやすかったものと考えられる。今まで知らなかった画家の見応えある作品群に驚いた、という意見もアンケートでは多く見られ、広告等をきっかけに来館した方に期待を上回る鑑賞体験を提供できた。 ・伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の公開やオリジナルグッズ発売に対する反響は予想を超えており、若冲への関心は年々高まっていると感じられる。企画展広報に有益であったが、今後の本作の展示、研究、広報の際には、世の中の関心の高さについて正しく理解し、踏まえておくべきと感じた。	

令和 6 年度 調査・研究に関する自己点検評価報告書

2024（令和 6）年度

調査・研究に関する自己点検評価報告書

2025（令和 7）年 5 月

静岡県立美術館

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月14日

職・氏名 学芸課長・石上充代

- 専門分野 近世・近代の日本画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近代日本画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・論文「光瑤における古画の意義」(『生誕140年記念 石崎光瑤』図録、令和6年7月)

小計1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「生誕140年記念 石崎光瑤」主担当
- ・同展 美術講座
- ・同展 フロアレクチャー(4回)
- ・同展 見える人と見えない人のためのおしゃべり鑑賞会
- ・同展 教育普及事業(実技講座、わくわくアトリエ)展示解説
- ・「新収蔵品展」フロアレクチャー(1回)
- ・出張美術講座
- ・ボランティア地域連携・草薙ツアーグループ担当(茶摘み、かご茶会等実施)

小計8本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員
- ・ふじのくに子ども芸術大学 実行委員会委員
- ・静岡市生涯学習センター主催講座講師

小計3本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計()本

合計12本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月1日	
職・氏名	上席学芸員 新田建史
●専門分野	美学美術史
●所属学会	地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ	西洋16～18世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等) <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県立美術館における虫菌害防除の実務」、『文化財の虫菌害』、no. 87、pp. 7-10. ・「カナレットの生涯」『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・「カナレットとパトロンたち」『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・「カナレットの時代のカメラ・オブスキュラ」『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・「カナレットとカメラ・オブスキュラの映像について」『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・「資料：ザネッティによる「カナレット伝」」(翻訳)『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・「参考文献 Bibliography」『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ ・『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ作品解説 Nos. 17～41 (計25本) ・『カナレットとヴェネツィアの輝き展』カタログ2、3章解説 (計2本) ・「カナレットとピラネージの作画態度について」、『アマリリス』155号 <p style="text-align: right;">小計 10本</p>	
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業 <ul style="list-style-type: none"> ・カナレットとヴェネツィアの輝き展 主担当 ・カナレットとヴェネツィアの輝き展カタログ ・カナレットとヴェネツィアの輝き展学芸員美術講座 8月4日(日) ・カナレットとヴェネツィアの輝き特別講演会 8月10日(土) ・カナレットとヴェネツィアの輝き展フロアレクチャー 8月12日(月)、28日(水)、9月10日(火)、9月22日(日) (計4回) ・ピラネージとローマの景観展 主担当 ・ピラネージとローマの景観展フロアレクチャー 8月11日(日)、8月14日(水) (計2回) ・《地獄の門》ができるまで展 副担当 <p style="text-align: right;">小計 8本</p>	
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・全国美術館会議 能登レスキュー 4月29日(月)～5月3日(金) ・全国美術館会議 能登レスキュー 10月27日(日)～11月4日(月祝) ・全国美術館会議 能登レスキュー 12月13日(金)～12月17日(火) ・全国美術館会議 能登レスキュー 2月23日(日)～2月27日(木) ・「能登半島資料レスキュー参加記」、静岡県博物館協会講習会「博物館の防災 資料レスキューの実践」 3月12日(水) <p style="text-align: right;">小計 5本</p>	
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・「カナレットとピラネージの作画態度について」、『アマリリス』155号 <p style="text-align: right;">小計 (1) 本</p>	
合計 23本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月9日

職・氏名 上席学芸員 南 美幸

●専門分野 美学・美術史

●所属学会 日仏美術学会

●主要研究テーマ 西洋美術史

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・「静岡県立美術館<彫刻を触って鑑賞するプログラム>について」『静岡県立美術館紀要』第40号、7～15頁、53頁。

・「館蔵品紹介—澤田政廣《笛人》について」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』156号、6～7頁。

小計 2 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「カナレットとヴェネツィアの輝き」展副担当
- ・同上展 カatalog執筆（第4章扉、作品解説9本、作家解説6本）
- ・同上展 カatalog編修
- ・「ロダン館開館30周年記念 《地獄の門》ができるまで：素描、試作から完成へ」展企画・実施
- ・同上展 フロアレクチャー 3回
- ・同上展関連イベント「ロダン館で、レッツ・ヨガ！」企画・実施
- ・「新収蔵品展」フロアレクチャー 1回
- ・タッチ・ツアー 運営・実施 4回

小計 8 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

・「館蔵品紹介—澤田政廣《笛人》について」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』156号、6～7頁。

小計 (1) 本

合計 10 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月10日

職・氏名 上席学芸員・喜多孝臣

- 専門分野 日本近代美術史
- 所属学会 明治美術学会、文化資源学会
- 主要研究テーマ 昭和初期の社会と美術、印刷と美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「夭折の画家と日本近代美術史」『無言館とかつてありし信濃デッサン館』展図録、静岡県立美術館、2024年10月
- ・「漫画と美術の相互作用—日本漫画家連盟と機関誌『ユウモア』」『日本漫画家聯盟機関誌ユウモア復刻版』三人社、2024年11月

小計 2 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「無言館とかつてありし信濃デッサン館」(主担当)
- ・同展フロアレクチャー(2回)
- ・「新収蔵品展」フロアレクチャー(1回)

小計 3 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・授業「日本近代美術史特講b」実践女子大学
- ・パネルディスカッションコーディネーター「再発見！津田青楓の魅力」笛吹市教育委員会・笛吹市青楓美術館 2025年1月28日(土)
- ・座談会「展示空間としての練馬区立美術館」練馬区立美術館 2025年3月23日(日)

小計 3 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 8 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年 3月26日

職・氏名 主任学芸員 薄田大輔

●専門分野 日本近世絵画

●所属学会

●主要研究テーマ 江戸絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・研究ノート「作品紹介 尾張徳川家旧蔵、狩野典信・惟信筆「名所絵画帖」」『葵』第131号 令和6年7月

小計1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「生誕140年記念 石崎光瑤」副担当
- ・収蔵品展「絢爛たる花鳥画」主担当
- ・同展 学芸員によるフロアレクチャー2回

小計3本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・展覧会図録執筆『尾張徳川家の至宝』(あべのハルカス美術館・サントリー美術館) 令和6年4月
- ・「突撃!となりのミュージアム! Vol.4-「様々な分野の学芸員が業務の悩みを語る」篇-(報告)」『静岡県博物館協会研究紀要』第48号、令和7年3月

小計2本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計()本

合計6本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月13日

職・氏名 上席学芸員・植松篤

- 専門分野 現代美術
- 所属学会 美学会、広島芸術学会
- 主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文

- ・「杉山邦彦の《死亡届》事件について」『静岡県立美術館紀要』No.40、2025年3月

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・収蔵品展「静岡の現代美術と1980年代」（前年度より）フロアレクチャー（1回）
- ・新収蔵品展フロアレクチャー（1回）
- ・移動美術展「リレーション 奥中章人／堀園実 二人展」主担当
- ・同展「ライフマスクワークショップ」
- ・同展「奥中章人による鑑賞ツアー」
- ・同展フロアレクチャー（2回）
- ・同展スペシャルトーク
- ・企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館—窪島誠一郎の眼」副担当
- ・同展講演会 副担当（2回）
- ・同展館長美術講座スペシャル対談 副担当
- ・同展演奏会 副担当
- ・同展上映会 副担当

小計 14 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ふじのくに芸術祭障害者文化芸術部門 審査員

小計 1 本

6. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 (0) 本

合計 16 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年 4月 12日

職・氏名 川谷承子

●専門分野 現代美術

●所属学会

●主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・研究ノート「中村宏の少女イメージについての考察」『アマリリス』No.154 令和6年7月1日発行
- ・研究紀要「中村宏の作品における映画の技法とマンガ的要素が鑑賞に与える効果について」『静岡県立美術館研究紀要』No.40 令和7年3月31日発行

小計 2本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・新収蔵品展
- ・企画展「テオ・ヤンセン展」副担当
- ・移動美術展「リレーション」副担当
- ・ギャラリーツアー（対話型鑑賞ボランティア）担当、研修

小計 4本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・令和6年 4/27「水の絵「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則」展座談会登壇（フェルケール博物館）
- ・令和6年 7月8日、22日、29日 静岡大学非常勤講師。授業「〈現代〉の芸術—文学・演劇・美術」履修生100人を対象に、戦後美術作品の講義を3回行った。
- ・令和6年7月 artscape「地域にアートは必要か？」座談会に登壇及びオンライン配信用の描き起こし原稿の校正。
- ・「Yayoi Kusama」展（オーストラリア、NGV）への作品貸出に伴う修復手配、クーリエ業務
- ・令和6年11月3日美術による学び研究会2024静岡大会での発表「作品、作家解説入れる？入れない？対話型鑑賞の成果と課題」
- ・令和7年3月7日国立アトリサーチセンター主催 NCAR シンポジウム 005「美術館の持続可能な運営モデルとは？～寄附・寄贈の可能性」登壇

小計6本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・研究ノート「中村宏の少女イメージについての考察」『アマリリス』No.154 2024年7月1日発行
- ・研究紀要「中村宏の作品における映画の技法とマンガ的要素が鑑賞に与える効果について」『静岡県立美術館研究紀要』No.40 令和7年3月31日発行
- ・令和6年 4/27「水の絵「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則」展座談会登壇（フェルケール博物館）

小計(3)本

合計 12本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月5日

職・氏名 上席学芸員 貴家映子

- 専門分野 西洋美術史
- 所属学会 日仏美術学会
- 主要研究テーマ フランス近代美術、風景画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・研究ノート『『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』における火山地形の描写について』『アマリリス』第157号、令和7年3月

小計1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「カナレットとヴェネツィアの輝き」7月27日～9月29日 副担当
- ・同展関連イベント「開幕記念ミニ・マルシェ」7月27日、28日 企画運営実施
- ・同展関連 夏休み子どもワークショップ「切り取って・合わせて・カプリッチョ！空想の街並み」展示解説
- ・企画展「無言館とかつてありし信濃デッサン館」10月12日～12月15日 副担当
- ・出張講座【富士宮市立上野小学校】12月2日
- ・企画展「石崎光瑠」関連イベント「見えない人と見える人のおしゃべり鑑賞会」3月1日 静岡新聞社と共同企画
- ・ロダンウィーク 11月1日～4日
- ・収蔵品展 全体の調整事務

小計8本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・クラウドファンディング「次世代へつなぐ！アートと緑の散歩道再生プロジェクト」チーム参加
- ・「ブロック報告 [東 海] リソースとアップデート」『ZENBI 全国美術館会議機関誌』vol.26、9月1日
- ・吉村昌子展(0 Gallery eyes・大阪/5月27日～6月1日)テキスト執筆
- ・静岡県立大学国際関係学部特別講座「モネ、ホイッスラー、シニャックの描くヴェネツィア」
- ・展覧会『風景：いる／みる／みえる』第2期「風景：みる」
(主催：おどり場／円頓寺商店街振興組合)インタビュー出演
- ・VOCA2025 展推薦委員、原稿執筆

7月5日

小計6本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

研究ノート『『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅：オーヴェルニュ編』における火山地形の描写について』『アマリリス』第157号、令和7年3月

小計(1)本

合計15本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和7年4月14日

職・氏名 主任学芸員 浦澤倫太郎

●専門分野 日本美術史

●所属学会 美術史学会

●主要研究テーマ 江戸絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展 テオ・ヤンセン展
- ・収蔵品展 異国への眼差し
- ・同展フロアレクチャー 2月8日、2月11日
- ・石崎光瑤展 (副担当)

小計 4 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・出張美術講座 (金岡小) 9月17日
- ・出張美術講座 (東海大翔洋高) 10月18日

小計 2 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 6 本

定性評価の状況（令和 6 年度）

評価指標 9	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート
--------	-------------------------

【日本画】

11本の展覧会に計20点の作品を貸し出した。「雪舟伝説―「画聖」の誕生―」（京都国立博物館7点貸出）には、狩野探幽《竹林七賢・香山九老図屏風》、司馬江漢《駿河湾富士遠望図》などの重要作を出品し、内容の充実に貢献した。近世絵画への影響からひも解く雪舟像は、近年研究が盛んだが、大規模な展覧会は初めての試みであった。当館コレクションが研究の最前線で注目される有意義な機会となった。

個展では、「2024年 北陸新幹線福井・敦賀開業記念 横山大観展」（福井県立美術館2点貸出）が特筆される。特に当館のコレクションを代表する《群青富士》はポスターなどのメインビジュアルとして使用され、展示でも改めて大観の大正期の代表作と、その画業の中で位置づけられた。この他「没後50年 福田平八郎展」（大阪中之島美術館、大分県立美術館・巡回展）などへ貸出を行った。

【日本洋画】

8本の展覧会に寄託品1点を含む計17点の作品を貸し出した。

「生誕130年記念 北川民次―メキシコから日本へ」（名古屋市美術館3点、世田谷美術館・郡山市立美術館2点貸出）ではメキシコ壁画運動から学び、壁画制作を志向した民次の特徴を示す初期の重要作の一つとして当館所蔵の大作《タスコの祭》が紹介された。

「岸田劉生・北蓮蔵・曾宮一念―浜松ゆかりの洋画展」（浜松市美術館5点貸出）では、初期の《自画像》から絶作《毛無連峯》など当館所蔵品が曾宮の画業の要所として出品された。

その他、明治から現代にかけてハニワや土偶に向けられた視線の変遷を探る「ハニワと土偶の近代」（東京国立近代美術館、日本洋画・日本画各1点貸出）、江戸時代から現代までの美術家の空の表現を一望する「空の発見展」（渋谷区立松濤美術館5点貸出）などに貸出を行い、当館所蔵品が各々のテーマの深化に寄与した。

【西洋】

作品28点を5本の展覧会に貸し出した。当館を始め4会場を巡回した本邦初の景観画展「カナレットとヴェネツィアの輝き」には、ジョヴァンニ・アントニオ・カナレットの版画等9点を貸し出した。モーリス・ドニと日本の関わりを検証した「日本が見たドニ | ドニの見た日本」には、ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》を、「奇想の版画―16, 17世紀版画の世界」にはゼバルト・ベーハム『ヘラクレスの事績』連作ほか計18点を貸し出した。大規模な回顧展「ミロ展」にはジョアン・ミロの初期作品《シウラナの教会》を出品した。アナキズムと芸術の動向との関わりを取り上げた「しないでおく、こと。―芸術と生のアナキズム」には、ポール・シニャックの《サン＝トロペ、グリモアの古城》を貸し出した。また昨年度から引き続き「芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱石、菅虎雄」展に、オーギュスト・ロダン《パオロとフランチェスカ》を貸し出した。

海外への作品貸出は無かった。

【現代】

7本の展覧会に計12点の作品を貸し出した。

前年度から引き続き、ルイジアナ近代美術館の「The Irreplaceable Human」に石田徹也作品3点、D I C川村記念美術館でのカール・アンドレの個展に1点、フェルケール博物館での鈴木慶則の個展に3点を貸し出した。

石田の人気は高く、1点を徳島県立近代美術館での「ユーモア—おかしみの表現に潜むもの—」へも貸し出し、四国で初めて石田徹也が紹介される機会となった。

「没後30年 木下佳通代」（大阪中之島美術館ほか）に2点を貸し出した。初の大規模回顧展であり、その中で収蔵品が位置付けられたことは有意義であった。

依田寿久作品1点を長野県立美術館の「信州から考える 絵画表現の50年」に貸し出し、1970～80年代の“絵画の復権”の流れに位置づけて紹介された。

草間彌生の作品1点をビクトリア国立美術館での「Yayoi Kusama」に貸し出した。同展は、オーストラリア国内での過去最大の57万人の観客動員数を記録し好評を博した。

評価指標 13	展覧会に対する外部評価
---------	-------------

【カナレットとヴェネツィアの輝き】

(展覧会)

基本的にはコーディネーターの責任であり指摘してもしようがないとはいえ、カナレット芸術の醍醐味とその作風の変遷を十分に味わうには作品点数とラインナップが十分とは言えなかったこと（さらには英国側で言えば、ターナーは難しいにしても、直接的に影響を受けたサムエル・スコット作品がなかったこと）はかえすがえすも残念だったと思う。そのことがあったとはいえ、静岡県立美術館では、収蔵品の同時代の版画作品などを駆使して広くイタリアに景観画ブームともいえる様相があったことを提示し、少し観点に広がりを与える努力が行われていただけでなく、ある意味でそれがグラント・ツアー体験の復元の試みのように感じられたことは興味深かった。この場合、あくまでも現在の様相であるヴェネツィアのそれと、ローマの景観画がどちらかと言うと過去を志向する部分の相違を鑑賞者にリードする指標があってもよかったかもしれない。もちろん、カナレットその人については、彼の作品制作に関していつも問題となる「カメラ・オブスクラ」の模型を用意して好奇心を掻き立てる工夫はなされていたし、展示の流れについても十分に考え抜かれたものになっているなど、「カナレット芸術」を少しでも理解し、味わってもらうための努力は十分になされたていたとおもう。館側の企画者の情熱は十分伝わる展示になっていた。そして、もちろん、今回の展覧会を開催したことを通して、ターナーやブーダンからモネやシッカートまでつながる「制作の情熱を掻き立てるヴェネツィア」のおおもとにカナレットがあったことは、一般の鑑賞者にも提示できたと思う。

(図録)

「カナレット以前のヴェネツィア」に始まり、「カナレット芸術」、「同時代人」、「カナレットの遺産」と時系列の展開を追いながら、執筆者それぞれの分野での研究の成果が十分に披歴された図録の記述になっていると評価できる。そのなかで、新田学芸員が担当した「カナレットのヴェドゥータ」と「版画と素描」の章の解説には、筆者の決意と熱意がひしひしと感じられた。とりわけ「カメラ・オブスキュラの映像について」の論考では、熟考を経た説得力のあるいくつかの指摘があった。研究者向けの観点からはそのように言えるが、一般の鑑賞者を読者とした場合、作品解説は分量が多すぎることと、作品の見えるを丁寧にたどりすぎたりするあまり、読者が興味を維持することが難しいような記述がないわけではない。とはいえ、全体に執筆者たちの情熱と研究実績が伝わってくる造りになっていることは確かである。

(潮江委員)

(展覧会)

- ・ヴェドゥータの成立と展開を実作品でたどる啓発的な展覧会として評価できる。
- ・カメラ・オブスキュラの再現が会場で行われたことは、カナレットとカメラ・オブスキュラの関係を考える上でも、一般来館者の関心を高める上でも効果的で評価される。
- ・出品作品の水準は高いものが揃っていたと思われるが、ボリュームはややコンパクトであった。静岡会場ではピラネージ版画特集展示が併催されており、補うに余りあるものであった。
- ・展示構成は一般の鑑賞者にもわかりやすいものであった。

(図録)

- ・比較的詳しい作品解説が多くの作品に付され、コラム的な読み物も載せられており鑑賞者に親切である。すべてが日本側で執筆されていることも評価される。
 - ・主担当学芸員がカナレットとカメラ・オブスキュラの関係についての専門的なエッセイを寄稿しており、この種の文献が日本にはないだけに高く評価される。
 - ・詳しい参考文献表が添付されたことは日本においてこの分野の研究を今後促す一助となり評価される。
- (栗田委員)

【無言館と、かつてありし信濃デッサン館】

(展覧会)

かつて開かれたこうした展覧会を再度見たいと思っていたが、実見することが出来て大変うれしく思う。たとえば、それは、日本で開かれたマチス展においても、展示された場所（会場）によって、異なって見えるし、又感じられることがよくあるからである。

さて、無言館も、以前存在した信濃デッサン館も規模が小さいながら、拝見したその時の思いが強く印象に残っている。窪島誠一郎の眼は、抜きん出て素晴らしかったことが確認でき、年月の壁を突き破っている。このことは、日本の美術館や美術館人（美術館で働く人々）の存在と在り方に示唆をあたえてくれるところがあるだろう。

出品作家の中村萬平や野末恒三は私の郷土の人であり、親しく感じられたが、どのように彼等の作品や生き方を考えて見るかは、広く県民への課題でもあると思っている。

(図録)

夭折の画家・戦没画家たちがクリエイティブな作品や思想を産み出すまでには多かれ少なかれ、ジグザグな側面があるが、図録が記録として多様な生きざまや画家の人生を感じさせるところは多大である。そういう意味でコンパクトながら出色の展覧会図録といえよう。

図録にはコラムが第5室と第6室に添えられて（展示場にもあったが）、この展覧会の内実が興味持たれるものであることを教えてくれる。また独自の視点から時代を映し出した解説は「一度だけでいい、あたなに见せたい絵がある」ことを適確に教えてくれる。こうした試みはもっとあってもよい。

(金原委員)

(展覧会)

窪島誠一郎氏が設立した信濃デッサン館と無言館の作品を中心に、夭折した画家たちの作品を集めたこの展覧会は、若者を絵画制作に向かわせたものは何かを問うとともに、ふたつの館を設立し作品を展示公開したことにより、「遺品を美術品に変えた」と窪島氏が言うように、絵が美術品として認知されるようになる仕組み、美術館とはどのような装置かを問うものであった。

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、2023年秋からのイスラエルでの戦闘などで多くの命が失われるニュースに接する機会が多くなっている状況の中で、若くして戦死した画家に共感する鑑賞者も多かったように思われ、時節柄、注目される展示となったのではなかろうか。

第4室「静岡出身の画家たち」で地元作家を取り上げ、従来から静岡県立美術館が取り組んできた静岡の美術の流れの中に1930年代40年代の作品が位置づけられた点は、本展の独自の成果であった。また、第5室「戦争と向き合う」において、藤田嗣治と小磯良平の戦争画、顰光や松本竣介の作品が展示されて、夭折の画家たちの営みが戦争と向き合う時代の流れの中にあったこと、同時代の絵画と比較してどのような位置にあるかが理解しやすくなる構成となっていたことが評価される。

また、画家として十分に社会的に認知される以前に死去した作家たちの 1940 年代の作品がまとまって展示されたことにより、1940 年代絵画の従来知られていない一面が浮かび上がったこと、当該の時代に限らず、いずれの時代にも、評価されずに埋もれている作品があることを推測させた点も意義深かった。

序章から各室の冒頭にそれぞれの趣旨を記したパネルを置いた展示は、鑑賞者が展覧会の構成を理解するよい手引きとなっていた。作品キャプションに制作した時の画家の年齢が記されているのも、展覧会の趣旨をよく伝えていた。

(図録)

木下直之氏による「信濃デッサン館なくして無言館なし」と題する巻頭論文の後、序章から第 6 室までの各室の冒頭にそれぞれの趣旨を記しており、展覧会の構成と内容の理解を助ける図録となっている。絵を描くことを何よりも優先した人々の思いが、絵を通して鑑賞者に届くのはなぜかという根源的な問いがなされている点が貴重である。

原田光氏による「窪島誠一郎瞥見」は、美術記者から神奈川県立近代美術館学芸員となり 1960 年代から現在まで、美術館の世界で活躍してきた上、無言館の手伝いをしておられる原田氏が窪島誠一郎氏について記している点に高い独自性がある。

喜多孝臣氏の「夭折の画家と日本近代美術史」は日本近代美術史の歴史を俯瞰的にとらえ、戦後の日本近代美術史の検証と言説において、土方定一氏と同氏が館長を務めた神奈川県立近代美術館が果たした役割は大変大きく、夭折の画家の評価を高めた力の一端は同館の活動にあることを的確に指摘している。その上で、土方氏も窪島氏も個人の視覚を重視して作品を評価している点で共通することを指摘している点は、展覧会や美術館という装置、それに関わる学芸員の立ち位置を考えさせる点で意義深い。

年表と新聞記事まで掲出した主要関連文献リストは労作で、窪島氏の美術関係の活動を知る基礎資料となる。窪島氏の活動を読み解くには、戦後復興、高度成長、バブル経済崩壊といった時代背景が欠かせないように思うので、年表に社会的出来事欄があればさらによかった。(山梨委員)

評価指標 17	調査研究に対する外部評価
---------	--------------

（『静岡県立美術館紀要』No. 40（令和 7 年 3 月 31 日刊行）掲載論文について）

南美幸「静岡県立美術館「彫刻を触って鑑賞するプログラム」について」

本稿で指摘されているように、日本において「触って鑑賞すること」が注目され始めたのは 1980 年代半ばからであったため、静岡県立美術館が 1994 年のロダン館開館から行ってきた「彫刻を触って鑑賞するプログラム」は全国の美術館の中でも早期の取組である。本稿は、現在も継続している同プログラムの変遷をたどり、パリのロダン美術館で行われている「手による鑑賞」を参考に、プログラムを見直し、ボランティア編成を変更して、内容の充実をはかってきた経緯を跡づける。日ごろの美術館活動の中で培われた実証性の高い論考である。

プログラムの見直しにあたっては、ロダン美術館のプログラムが、触察の対象を、胸像から全身像、そして群像へと展開する一方、作品理解のために、対象を描写し、次に解釈し、さらには歴史的な位置づけを考察するというステップを踏んでいたことを踏まえて改善し、担当いただくボランティアへの研修も行い、同プログラムに特化したグループをつくった点は注目される。

近年、博物館・美術館が様々な社会課題に対応することを求められる中で、社会包摂性への対応が注目されるようになってきている。本稿によって 30 年以上続く静岡県立美術館のプログラムについて、具体的な情報共有がなされた点は大変意義深い。

また、晴眼者も触覚による鑑賞に導くことが望ましい点を指摘した点は重要で、他館へと波及していくことが望まれる。デジタル技術の発達により、美術作品のデジタル画像が手軽に見られる状況となる一方で、実際に物に対峙し、五感をすべて用いて認識する体験が少なくなり、視覚情報から触覚情報を読み取る能力は鍛錬されていないことが懸念される。晴眼者も視覚障害者と分け隔てなく、触覚情報から物を認識する方法を美術館で学べるようになること、触覚情報と視覚情報をつなぐハブとしての働きを美術館が持つことが期待される。

（山梨委員）

本稿は、インクルーシブなミュージアムが期待される現在において、「視覚障害者がロダン館で直接彫刻作品に触れて鑑賞するプログラムに関する、開始から現在までの取り組みとその変遷に関する記録」として重要であり、今後様々な示唆を与える論考である。現行の「彫刻を触って鑑賞するプログラム」として一定の定着に至るまでの、彫刻作品に触れて鑑賞するプログラムの変遷を丹念に跡づけており、先駆性を持ったプロジェクトの実践報告として資料的な価値が高い。また、現行プログラム成立の背後にある思想、ボランティア育成を含む運営体制の刷新の経過が明示されており、事業報告を超えた研究として価値を有している。さらに実施実績も包み隠さず報告され、今後の課題についても手短かにまとめられており、この分野の研究者や他館の取り組みにも資するところが大きい。「最後に」では、筆者の「美術館で作品を鑑賞するとはどういうことなのか」という関心から視覚だけではなく知覚に訴えかける展示が企画され、晴眼者も彫刻に触れられるコーナーを設置したことが紹介され、その反応と課題が報告されている。本稿の末尾を「触って鑑賞するプログラム」が「美術館活動の在り方に対する問いかけ常にはらむ普及活動」とであると結ぶことによって、同プログラムが障害者向けの事業を超えた射程を持つものであり、美術館の鑑賞活動の在り方が不断に検討されることの必要性が示唆されている。

（栗田委員）

川谷承子「中村宏の作品における映画の技法とマンガ的要素が鑑賞に与える効果について」

静岡県出身で1950年代にデビューし、やがて「ルポルタージュ絵画」の第一人者として評価を確立した中村宏の絵画が目指したものを、論客でもある本人の絵画論に沿って解釈を試みようとするオーソドックスな方向性を持った論考であり、社会性を常に意識していた中村の芸術や論文を読み解くために、丁寧に同時代の関連評論との照合も怠りなく噛み合わせた、総体的に用意周到な論考になっていると評価できる。なかでも、タブローを考える際に制作の視点だけでなく、「鑑賞」という視点を設定して考察を進めようとする中村のタブロー論に着目した視点は、ポジティブはもちろんのこと、ネガティブにも彼の芸術とその方法論との関係に光を当てる方向性になっていると思う。筆者も、本論考を構成するために幅広く集められた同時代の論評等に触れることができ、新たな気づきを得ると言う余禄があったことについても感謝したい。（潮江委員）

中村宏の画業は、『中村宏 絵画事件 1953 - 2007』展（東京都現代美術館 2007年）、『絵画者 中村宏展』（浜松市美術館 2015年）などで跡づけられたてきた。本論文は、中村の画業を、現段階でどのように位置づけるかという課題に取り組み、中村自身が画業の初期から鑑賞者と絵画が会うことを事件ととらえて、鑑賞者の創造性に価値を置いている点、また、あくまでも「絵画」であることにこだわって表現する点を踏まえて、これまで指摘されていない中村の表現要素にせまろうとしたものである。本稿の独自性は、マンガ的表現、コマ割りを導入することにより、絵画表現に時間性が獲得されたこと、コマ割られた絵画が持つ虚構性にリアリティを持たせる方法として絵画の「物質性」が重視されたことに着目した点にある。

枠取られた平面であるという絵画の性格を踏まえ、ひとつの平面に複数の枠を入れ込む方法による多様な効果を中村が試みてきた中で、1980年代からマンガ的表現と絵画の「物質性」が顕著に表れたという指摘は、日本近代における絵画観の変遷、絵画における虚構と物質性の問題を考える上で大きな示唆に富む。

一方で、論考の冒頭に掲げられた目次に示される構成が明快であるのに比して、各章の始まりにやや唐突感があり、各章間のつながりが読み取りにくい。論旨の流れをより分かりやすくする説明がほしかった。（山梨委員）

植松篤「杉山邦彦の《死亡届》事件について」

1970年の「静岡県芸術祭美術展」という、まさにご当地で起こった展覧会の開催主体である行政が、入選したはずの作品の出展を拒否し、「表現の自由」をめぐる裁判にまで発展した事件を、現在で可能な限りとも言えそうな徹底した資料収集を敢行して、ドキュメントとして生々しく描いて見せた論考であり、「愛知トリエンナーレ」事件の記憶も生々しい現時点で、大いに意義のある再考察であると言える。後者でも、作品の質に触れて口ごもった評論家がいなくもなかったことがあり、植松氏は、出来事を「抗議」一辺倒の問題に終わらすのではなく、この《死亡届》の作品としての内容と質についても具体的に言及しているだけでなく、同時代の立場の異なる複数の芸術家の見解も引用して丁寧に考察を深めている点が、目配りの利いた論考として特に評価できる。（潮江委員）

この案件についての感想を私なりに記してみた。

まず、この作品を実見しておらず、写真（印刷されたもの）でしか見ていないことをおことわりしておきたい。

1. 私は絵や書跡を見ることを仕事としてまた楽しみにしており、しかめ面をして拝見することはない。
2. 作品には作者の気概というか、生き方、持ち味が出ていることが望ましいと常々考えている。それが、ここでは如実に出ているといえよう。
3. 作品「死亡届」は、漢字3文字を並べているだけなので、見る方が何を意味し、何を考えているか、自由に、勝手に想像できる。この点だけでも興味を持たれる作品といえよう。
4. この作品について、一方でチェコ人ブラスタ・チハーコバーが「造形的イメージが貧弱である」と述べているのも、もっともであろう。（金原委員）

評価指標 21	普及・教育プログラムに関する職員のレポート
---------	-----------------------

令和5年度より新型コロナウイルス感染症は5類に移行したため、イベントの中止はせずプログラムを実施していたが、ねんど・えのぐ教室等の実施回数はコロナ前よりも減少してしまった。今年度は回数や実施場所などをコロナ前の状態に戻し、本来の形に近付けることを目指した。

【一般向け】

今年度も展覧会に関連したワークショップとして、小学3年生以上を対象とする「わくわくアトリエ」と中学生以上を対象とする「実技講座」を会期中に実施した。担当学芸員のフロアレクチャーをプログラムの一部に組み込むことで、参加者が展覧会や作品の概要や見所を知ることができ、後の制作や鑑賞の深まりにつながっていると感じた。

「ねんど開放日」と「えのぐ開放日」は例年、定員を超える応募がくる人気のプログラムである。えのぐ開放日については昨年度までコロナ対応の関係で屋内開催を続けていたが、今年度から本来の会場である屋外テラスでの実施となった。開放的なスペースでのびのびと描く家族や子どもたちからは「楽しかった」「次回も参加したい」という声が多く寄せられた。雨天時や高温時は屋外実施ができないため、天候に左右されるという点が課題である。

「創作週間」、「ロダン館デッサン会」については例年通り毎月開催し、リピーターのみならず新規の方からも好評であった。「ちょこっと体験」は年間3回、連休など集客が多い時期に合わせて実施し、10～15分程度でできる制作を多くの方に体験をしてもらった。また、広報も兼ね館外でも実施しており、6月の浜名湖花博では木版画の刷りの体験を、9月に移動美術展ではシルクスクリーンの刷りの体験を行っている。館外での活動にも関わらず、多くの方に体験していただき、美術に興味を持つきっかけとなったと感じる。

【学校向け】

昨年度は「ねんど教室」を8日間、「えのぐ教室」を9日間で実施していたが、今年度は「ねんど教室」を21日間、「えのぐ教室」を18日間で実施しており、より多くの園や学校を受け入れることができた。また、教室終了後の展覧会観覧を促すために、プログラムの最中に展示作品に関連した生き物や人物などを造形物として登場させた。

昨年度依頼がなかった「ボランティアスタッフとの鑑賞」については4件の依頼があり、児童・生徒たちがボランティアとの対話を楽しみながら、鑑賞する姿が見受けられた。年間件数自体は依然として多くはないので、学校ボランティアが活躍する機会を今後もできるだけ増やしていきたい。

また、今年度については視覚支援学校からの依頼で数年ぶりに「音のかけらワークショップ」を実施した。事前準備にある程度の時間と人員を要するため、気軽に実施できるとは言い難いプログラムではあるが、障害の有無や世代問わず多くの方が楽しめる内容となっている。今回の実施の際も、作品から発せられる音色に魅了される生徒が数多くいた。同時に、貸出教材として使用している彫刻素材を用意し、それぞれの重さ、感触、などから彫刻素材の種類やそれぞれの特徴、どのような作品に使用されているかといった解説も行った。

美術館教室の現状の課題として、市内や美術館周辺の学校は利用しているが、西東部の学校は距離の問題もあり、利用しづらい点が挙げられる。こうした課題を改善していくために、広報に加え、出張美術講座などのアウトリーチを増やし、美術館教室の認知を広げていくことを目標に活動していく。

評価指標 26	地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート
---------	----------------------------------

これまでの地域等の連携をさらに深める経営を推進した。

地域住民・企業等

(1) 県立美術館ボランティア

- ・開館以来、美術館と来館者、美術館と地域の「かけ橋」としての役割を担っているボランティアについて、令和5年度よりボランティア体制を更新し、任期を3年から1年に短縮するとともに、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若者層にも参加しやすいものとした。
- ・選考と研修の結果、令和5年度は125名、令和6年度は131名がボランティアとして活動した。令和7年度は19歳から96歳までの145名が登録し、活動している。
- ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(2) 有度山地域に立地する5施設、県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園及び久能山東照宮による「有度山フレンドシップ協定」による協働

今年度は企画展との連携事業を検討していく。

(3) 草薙商店会等との協働

- ・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィーク「丘の上のマルシェ」を毎年開催している。
- ・草薙商店街会、一般社団法人草薙カルテッドと連携し、美術館企画展と静岡の食の魅力体験ができる「ぐるめぐりスタンプラリー」を行ない、155名の参加があった。

(4) ロダン・ウィーク

平成26年度にロダン館開館20周年を契機に開始した「ロダン・ウィーク」は、工事休館中であつた令和3年度を除いて毎年実施しており、草薙商店会や友の会との連携イベントを通して美術館の魅力を高めている。

(5) 企画展における企業等との連携による効果

館内レストラン「ロダンテラス」で県産品を使用した特別メニューを企画展ごと計4種類提供した。好評で5,300食以上の売上げがあった。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）は、谷田の丘陵地帯及びその周辺地域の文化振興やまちづくりに貢献する目的で、「ムセイオン静岡」として相互協力し、文化の丘づくりを推進してきた。毎年秋に開催している「文化の丘フェスタ」では、他機関と連携して「スタンプラリー」を実施した。

アーツカウンシル静岡

アーツカウンシル静岡主催の「静岡県の文化への投資に関する研究会」に参加し、文化芸術への投資がもたらした効果を検討した。

評価指標 34	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート
---------	--------------------------------

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。

新たな取組

- ①浜名湖花博に出展し、体験イベントを行なった。
- ②東中西イオン3館でミニ・ビーストを利用してテオ・ヤンセン展の広報をした。
- ③静岡ブルーレブスの試合やブラジル人学校のイベントでミニ・ビーストを利用してテオ・ヤンセン展の広報をした。
- ④民間企業と連携してAR技術を活用した来館者によるコレクション画像撮影スポットを設置し、SNSで発信するとともに、利用者による投稿を促進した。

引き続き実施した広報

- ①ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）、YouTubeによる情報発信
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県広聴広報課との連携（ツイッター、ラジオ、静岡駅地下街ショーケース電照看板、包括連携協定による広報物掲示・配架、P R T I M E S を利用した国内メディア向けオンライン・プレスリリースの配信）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- ⑦企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図った。
- ⑧美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ⑨インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトで展覧会をP R した。
- ⑩事務局を通じた県内3大学の学生への広報
- ⑪旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力
- ⑫大学の講義内での紹介
- ⑬館内レストランにおいて、企画展ごとに特別メニューの提供

県有文化施設と協働した広報

毎年秋に谷田地域の文化教育7機関が「ムセイオン静岡」として連携して取り組んでいる「文化の丘フェスタ」で「スタンプラリー」を実施した。

評価指標 40	運営基盤の強化等に関する美術館職員のレポート
---------	------------------------

県立美術館は、令和4年3月に「5ヵ年計画」を策定した。

計画では、美術館の基本理念（美術館の目指す姿）を実現するため、8つの実施方針を定めている。その一つが「運営」であり、運営基盤の強化を目指すこととしている。

計画期間は令和4年度から8年度までの5年間であり、今までの主な取り組みは以下のとおり。
（一部令和3年度に前倒し実施）。

（1）運営基盤の拡充（収入の確保）

- ・令和3年度では、文化庁から「ARTS for the future（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」の補助金交付を受けて事業を実施した。
- ・令和4年度の「輞川図と蘭亭曲水図」展では、タカシマヤ文化基金の助成を受けてシンポジウムを実施し報告書を作成した。
- ・予算外部資金の確保に向けて関係部局と調整し、ふじのくに応援寄附金（個人版ふるさと納税）を美術館基金への積立金とする仕組みを整え、令和5年度は234万2千円の寄附があった。
地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）では、100,000円の寄附が有り、館蔵品の取得費に充当した。
- ・令和6年度は地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）で100,000円の寄附があり、美術館運営事業費に充当した。
- ・ふるさと納税制度を利用して、美術館プロムナードの彫刻作品をよみがえらせる「次世代へつなぐ、アートとみどりの散歩道再生プロジェクト」を立ち上げ、再生のためのクラウドファンディング実施した結果、190名の支援者から10,609,000円の寄附があった。

（2）企業との連携強化による運営の充実

- ・令和4年度に静岡県経営者協会会員に対して美術館年間スケジュールや企画展チラシを配布した。
- ・令和5年度には、静岡県経営者協会会員の地区別交流会に館長が参加し、館長が「ビジネスとアートと美術館」をテーマとした講演を行うとともに、美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。
- ・令和6年度に開催した無言館展への協賛に向けて館長自ら企業訪問し、4企業から支援金を受け展覧会イベント事業を充実させることができた。

第三者評価委員会での意見と対応状況

第三者評価委員会での主な意見と対応状況

基本方針A：特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。

1 前回の委員からの意見
<p>昨年立ち上がった国立アートリサーチセンターが、国立美術館の作品を貸し出す「コレクション・ダイアログ」「コレクション・プラス」という事業を実施している。県立美術館のコレクションの活用に関わる事業と思われるため、是非活用を検討して欲しい。例えば、国立西洋美術館のコレクションであるポール・シニャック作の「サン＝トロペの港」（ポール・シニャック作）を借りてきて、県美のコレクションである、「サン＝トロペ、グリモーの古城」（ポール・シニャック作）とサン＝トロペの風景画を2つ並べて展示するなど検討に値すると思う。（小泉委員）</p>
2 これまでの対応状況
3 今後の展開
<p>「コレクション・ダイアログ」「コレクション・プラス」については今後機会を見つけて効果的に活用していきたい。開催年度によって担当国立美術館が異なるので、今後の当館の展覧会スケジュールと調整をはかりつつ組み込んでいく工夫をする。</p>

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
<p>・美術館に来た来館者の方が、どのような時間の使い方をして過ごして出ていかれるのか、もう少し細かな調査ができると、色々なヒントが得られるのではないかと思う。（中村委員）</p>
2 これまでの対応状況
<p>・来館者がどのような目的で来館され、展覧会及び施設に対する満足度や、他者への推奨意図などについて来館者調査を行ってきている。</p>
3 今後の展開
<p>・来館者の行動パターン把握については今後の課題である。</p>

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・ 一個一個への作品への愛着が育まれるようなファンディングの仕方や、教育普及活動とクラウドファンディングをつなげたりするのもあり得るかと思う。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
令和6年度のクラウドファンディングの取組みでは、企画総務・学芸両課の職員が参加するチームを立ち上げ、それぞれの経験や知識、得意分野に基づいて業務に取り組んだことで美術館としての総合力を確認し、生かす機会となった。初めての取組みであったが、業務を進めるなかで、この分野における最新の情報に触れて知見を蓄積することができたのは大きな成果だった。
3 今後の展開
令和7年度には、再生した彫刻プロムナードをご案内する「プロムナードツアー」を実施してクラウドファンディングの成果をお披露目し、寄附者をはじめとする多くの方にご参加いただいた。一連の取組みについて検証し、共有したうえで、今後の実施方法について検討していく。

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・ 最も多くの観覧者数目標を設定した「糸で描く物語」は、自力広報に頼ったが、情報発信力の弱さが出た結果とを感じる。クラフトに興味関心を抱く層に対してのマーケティングの深掘りが必要かと思う。(インスタで#クラフトで110万件以上の投稿あり)(前田委員)
2 これまでの対応状況
・ R6 展覧会「生誕140年記念 石崎光瑤」展では、広報のあり方を見直し、低コストで広く情報を発信することが可能なSNS広告を試験的に利用した。広告が表示された人やホームページを訪れた人が実際に展覧会に来たかまでは把握できていないが、美術に関心があるが展覧会開催を知らなかった人にも情報を届けることができた。
3 今後の展開
・ SNS 広告は、広報先を展覧会の特性に合わせて設定することで、効果的な広報が期待できる。また、条件設定を工夫することで少ない予算でも効果的な広報が可能であり、展覧会広報として積極的に取り入れていきたい。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・地域や学校教育との連携という部分で、ボランティアの方々も活用して、様々な事を試行されている。この辺りを、どれを伸ばして、全部をやるのか、どれかを重点的にやっていくのかという、少し優先順位を付ける事も必要と思う。美術館を使って何ができるのか、先方のニーズをどう組み入れていくのかという所の視点も必要と感じた。(荻原委員)
2 これまでの対応状況
地域との連携についてはボランティアグループのひとつ、地域連携・草薙ツアーグループを中心に展開しており、グループの自主的な活動を支援している。学校教育との連携については、「美術館教室」プログラムの利用促進を軸に進めている。
3 今後の展開
新たに必要な取組みとしてアクセシビリティに関する課題解決が挙げられる。この点で既存のボランティアグループとの連携強化や活動内容の再検討など、柔軟に取り組んでいく。 学校教育との連携強化に向けて、令和7年度から教育普及担当枠を増やし再任用職員を充てるよう組織体制を変更した。これを機に、学校側のニーズを把握し、必要な予算措置へと結びつけるよう取り組む。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・地元の経済界との関係について、どのように戦略を立て、どうアプローチするかというのは、よく考えて進めていく必要がある。館長が頑張って、幾つか案件を取ってきているので、これをいい先行例にして、他の経営者たちのところに響くようなものに繋がっていけば、広がっていくと思う。(櫻井委員)
2 これまでの対応状況
・R5は県内企業との関係強化を図るため静岡県経営者協会が開催する地区別交流会に館長が参加し、講演会を実施した。また、R6企画展「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展への協賛に向けて館長自ら企業訪問を行い、信頼関係を構築した結果、県内4企業から支援金を受け展覧会イベント事業を充実させた。
3 今後の展開
・観光や地域活性化、産業振興、人材開発など様々な観点に着目することで、芸術の潜在的な価値がより引き出されていく。県立美術館の弱み、強みを把握し、これまで以上に美術館から情報発信を行い、地元企業との関係を深め、恒常的な支援体制を構築したい。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・企業からの支援について、大きな金額を寄附していただいた場合と、小さな金額を寄附していただいた場合の対応について、寄附を受けた時に混乱しないよう、あらかじめ、美術館の側で制度設計をしておく必要があると思う。（小泉委員）
2 これまでの対応状況
・開館以来、美術作品の寄贈、作品購入に対する寄附など美術館活動に対する支援を受けてきた。寄附・寄贈については県に対して一定額以上の寄附をしたものに静岡県表彰条例に基づく知事感謝状を贈呈している。
3 今後の展開
・開館 40 周年における企業からの支援については、金額に応じた特典を用意し、企業サポーターを募集する予定である。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。

1 前回の委員からの意見
デジタルアーカイブについて、アーカイブしてデジタル化したものを映像に加工したりグッズにしたりして、企画展に繋げていくなど、他館ではいろいろ工夫している印象がある。そうしたことも、もっと考えられても面白いのではないかと思う。（中村委員）
2 これまでの対応状況
デジタルアーカイブから派生したものではないものの、令和6年度は伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の活用が進み、AR 技術を活用した来館者による撮影スポットの設置や、ミュージアム・ショップと連携したオリジナルグッズの開発が話題を集めた。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> ・交付金を活用した伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の 3D デジタルコンテンツ開発やアニメーション制作が進んでいる。新たな学術的知見を得るとともに、ますます注目の集まる人気作品について魅力の発見・発信が期待される。 ・デジタルアーカイブの画像を活用した鑑賞教育プログラムについて、利用者数の把握や利用者の意見のフィードバックの仕組みを作り、今後の改善や新規開発に活用する。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・ 広報の人材について、組織の中に専門人材を置くのが難しいのであれば、委託するか広報のスペシャリストのような方に中に入っていて、一緒にやってみるというような別の道筋を探すこともありかと思う。(荻原委員)
2 これまでの対応状況
・ 美術館の運営基盤を強化するため、企業連携の強化と合わせ、美術館全体の魅力等について戦略的な情報発信を行う人材を要求してきたが、定数増は認められない状況である。
3 今後の展開
・ R7 は、恒常的な企業支援が受けられる支援体制構築に向けて整備を進めている。美術館支援制度が構築されれば企業連携による恒常的な外部資金も獲得のため、地域企業への訪問と交流、企業協賛に向けた営業活動、さらには戦略的な情報発信が必要となるため、引き続き定数増の要求をしていく。 ・ 全国の先進事例の共有や県の広報アドバイザーの活用のほか、他館と連携した広報や、SNS や Web サイトにより施設の魅力を効果的に伝えるなど、美術館の広報力の強化に取り組む。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・ 来館者アンケートについて、毎年同じ内容ではなくて、「今年は、これを調べてみようか」とか、「今年は展覧会に特化したことをやってみようか」のように、アンケート項目を調整して、分析してみるということも必要と思う。(荻原委員)
2 これまでの対応状況
・ 静岡県立美術館では、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築しており、館の全体像を把握する評価指標を整理するため、展覧会毎に美術館に関すること、レストラン、ミュージアム・ショップ等についてお客様アンケートを実施している。 ・ R6 は定性的な評価項目を追加するなど見直しを行った。
3 今後の展開
・ アンケートはマーケティング活動に不可欠な調査方法である。展覧会毎に行っている来館者アンケートは自己評価システムの評価指標の定量的な把握に関わっているため、項目の大きな変更は難しいが、来館者ニーズや、サービスの改善に繋がる項目の追加を含め検討していきたい。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・SNS について、アップしている件数とビュー数で、どういう反応だったというのが見えてくるので、アップしている件数は出しておく必要がある。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
SNS の発信数を指標に追加した。
3 今後の展開
企画展の合間に SNS 投稿の頻度が下がることが課題である。年間を通じて途切れなく情報発信を行うための体制を整備する。

基本方針E：環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

1 前回の委員からの意見
・館内のマネジメントとして、単年度の評価が、5 ヶ年計画におけるどういう位置付けなのかということ、最終的に評価して欲しい。そうすれば自ずと、今年度は何をしなくちゃいけない、何をくっ付けていかななくてはいけないという事に結び付くんじゃないかと思う。そういう、サイクルを回すような管理の方向に、結び付けていって欲しい。(櫻井委員)
2 これまでの対応状況
・R6 時点における取組実績については、別添「年度別計画及び取組実績」のとおり。
3 今後の展開
・定期的に計画の進捗状況を確認し達成状況の把握に努める。必要に応じて計画の見直しを実施する。

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
<ul style="list-style-type: none">・文化観光推進法の枠組みにおいて文化施設を核にする際に、演劇関係も排除はされていないものの、どちらかというメインに想定されているのはミュージアムのほうだと思っていた。SPACが世界的に評価を受けている劇団であることはもちろん存知あげているが、文化観光の枠組みを使うなら、県立美術館だけに限らないが、もうちょっとミュージアムに寄せたほうが、枠組みとの相性はよいのかもしれないと思う。(中村委員)
2 対応について
<ul style="list-style-type: none">・令和7年度は「日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創生事業」(文化庁委託：助成率10/10)で採択された事業(しずおかの食文化×歴史・文化体験)を実施し、文化観光を推進する。・今後も、日本平地域の県立文化施設の連携強化と文化観光を推進し、各施設の来館者増に取り組んでいくため、観光関係者、周辺施設や交通事業者などから情報を収集する。

年度別計画・取組実績及び進捗評価

- ※達成状況
- 5 計画を大幅に上回り推進された
 - 4 計画を上回り推進された
 - 3 計画どおり推進された
 - 2 順調に推進されなかった
 - 1 全く推進されなかった

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R4-R6 進捗評価	評価コメント	R7(2025)				R8(2026)			
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四			1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
1 収集	(1) 作品の収集方法	購入なし(予算手当なし) 寄贈受入76点(約10億) 調査研究推進				作品購入(東アジア文化 都市関連予算1,000千円) 寄贈受入18件(約22,670 千円) ふるさと納税を活用した 企業・個人からの寄附金				作品購入(1,100千円) 寄贈受入101件(84,180千 円)				2	・R5,R6と購入予算は継続しているものの美術品購入予算としては少額に過ぎる。 ・購入資金確保のための方法の検討が進んでいない。 ・予算額に応じて適切な作品を購入をするための情報収集がますます必要となる。 ・寄贈は充実している。	調査研究に基づく継続的な収集 寄贈受入、調査研究推進				作品購入資金確保の手法の検討			
	(2) 開館40周年記念作品の収集	収集なし (予算手当なし)				収集なし (予算手当なし) 調査のみ実施				作品購入に 向けた予算 枠等具体的				1	40周年記念作品の購入は予算措置の 目途が立たず困難になった。								
2 保存	(1) 作品の保管、管理	・ブンガノンおよびエキ ヒュームによる殺虫作業実 施 ・館内外生物環境及び空 気環境調査実施				・ブンガノンによる 殺虫作業 ・館内外生物環境及び空 気環境調査 ブリッジ・ギャラリー空 調方式の検討				・ブンガノン及びミラク ンによる殺虫作業 ・館内外生物環境及び空 気環境調査 収蔵スペースの拡張につ				2	・隣接する中央図書館の跡地利用に ついて進展が見込めず、収蔵庫の拡 張はひとまず困難な状況にある。 ・収蔵庫内に作品保管棚を新設する など可能な範囲での整備を進めている。	展示室を始めとする館内外の環境の維持、 改修				通常の作品修復			
	(2) 作品の修理、修復	修復実績 6点 496千円				修復実績 18点 4,643千円 彫刻プロムナード 彫刻作品の状態調査 高額を要する修復作 品のリストアップ				修復費確保のためのク ラウドファンディング導 彫刻プロムナード 彫刻作品の修復 2件6,187千円				4	・R6はクラウドファンディングにより屋 外作品2点を修復した。 ・その他の高額を要する修復作品のリ ストアップを進めるとともに資金確保 のための方法を検討する。	修復に複数年を要する作品の 計画的な修復				彫刻プロムナード 彫刻作品の修復・整 備完了			
	(3) 情報の保存とアーカイブの構築	アー ディ タル 本 格 稼 働 収蔵品データベース 情報更新(画像追加)				・4月: 収蔵品データベース 新規登録分公開 ・登録情報更新 ・現代美術関連資料の選 及入力および新規登録				・4月: 収蔵品データベース 新規登録分公開 ・登録情報更新 ・現代美術関連資料の選 及入力および新規登録				3	・デジタルアーカイブを公開し、継続 的な整備のための道筋についても整 いつつある。	美術関連資料の デジタル化・データの更新				高精細画像追加 ・収蔵品データベース 全点画像登録・公開完了			

年度別計画・取組実績及び進捗評価

- ※達成状況
- 5 計画を大幅に上回り推進された
 - 4 計画を上回り推進された
 - 3 計画どおり推進された
 - 2 順調に推進されなかった
 - 1 全く推進されなかった

項 目		R4 (2022)				R5 (2023)				R6 (2024)				R4-R6 進捗評価	評価コメント	R7 (2025)				R8 (2026)				
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四			1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	
3 展示	(1) 企画展	→ 大展示室展 → 兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～ → 絶景を描く ～江戸時代の風景表現 → みる誕生 鴻池朋子展 → 近代の誘惑 ～日本画の実践				→ センス・オブ・ワンダー :感覚で味わう美術 → 糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。 → 大大名の名宝 永青文庫× 静岡県美の狩野派展 → 天地耕作展(仮)				→ テオ・ヤンセン 展 → カナレット展 → 無言館展 → 石崎光瑤展 → 40周年記念 企画展準備 チーム立上 げ、研究会実				4	・静岡県立美術館の特色を生かしなが らバラエティに富んだ企画展を開 催している。 ・学芸員による自主企画展の提案が 増加している。 ・40周年記念展に向けて、館長と学 芸員によるチームが着実に準備を進 めている。	→ コレクションを核とした展覧会、 学芸員の自主企画による展覧会を実施 → 古代エジ プト展 → これからの風景 (コレクションに → 金曜ロード ショーとジブリ → 中村宏展 (静岡ゆかり → 40周年記念 企画展の準備				40周年記念 企画展 ・当館の歴史と特色を 生かした展覧会 ・コレクションの新たな 価値を発信する展覧 会 ・幅広く多様な文化に 触れる展覧会				
	(2) 収蔵品展	→ 新収蔵品展 → 絶景考Ⅰ・Ⅱ → 綱川図と 蘭亭曲水図 → 光～The Light				→ 新収蔵品展 → 太田正樹コレクション展 → 美術館のなかの 書くこと → 版画でひもとく聖 書 と神話:デューラー → 静岡の現代美術と 1980年代				→ 新収蔵品展 → カナレット展関連 収蔵品展 ピラネージとローマ → ロダン館30周年 記念 描く、作る、 変化する:地獄の 門ができるまで: 素描、試作から完 成へ → 石崎光瑤展関連収蔵品展 第1部 異国への眼差し 第2部 絢爛たる花鳥図 → ロダン館30周年 記念ロダン ウィーク				4		・R6にロダン館開館30周年記念展を 実施、ロダンについて理解を深める 内容により好評を博した。 ・企画展と関連づけた内容とするなど 収蔵品展の工夫が進んでいる。 ・40周年の収蔵品展ラインナップにつ いて検討を進める必要がある。	→ 新収蔵品展 → 本館竣工40周年記 念 → 絵から読 む物語 → 2000年代 → 各ジャンルの作品をバラン スよく展示 ・コレクションの新たな価値 や楽しみ方の発見に結びつ くプログラムの実施				収蔵品展 ・コレクション形成の歴 史を検証し、今後の収 集活動へとつなげる 展示 ・コレクションの魅力を 発見し、広くその価値 を還元する展示			
	(3) 移動美術展	11/19～11/27 富士市文化会館 ロゼシアター				9/3～9/14 小山町総合 文化会館 → 9/22～10/1 沼津市民 文化センター				9/14～9/29 鳥田市金谷生 きがいセンター (初の試みとな る若手アーティ スト2名による展				4			・R6は県ゆかりの若手アーティストに よるこれまでにない移動美術展を開 催した。 ・多様な手法による移動展実施につ いて検討が進んでいる。	県内美術館、公共施設で開催 (年間1～2回) → 9/19～9/28 富士市文化会館 ロゼシアター → 県内他機関と の連携開催						

年度別計画・取組実績及び進捗評価

※達成状況

5 計画を大幅に上回り推進された

4 計画を上回り推進された

3 計画どおり推進された

2 順調に推進されなかった

1 全く推進されなかった

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R4-R6 進捗評価	評価コメント	R7(2025)				R8(2026)			
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四			1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
4 教育普及	(1) 館内での取り組み	【評価指標7】 コレクションを活用した 教育プログラム 16件 【評価指標18】 学校教育と連携した取組 91件 【評価指標19】 鑑賞系プログラム実施 数 17件 【評価指標22】 講演会等の開催件数				【評価指標7】 コレクションを活用した 教育プログラム18 件 【評価指標18】 学校教育と連携した取組 100件 【評価指標19】 鑑賞系プログラム実施数 19件 【評価指標22】 講演会等の開催件数				【評価指標7】 コレクションを活用した 教育プログラム16件 【評価指標18】 学校教育と連携した取組 155件 【評価指標19】 鑑賞系プログラム実施数 19件 【評価指標22】 講演会等 見えない人と見 える人のおしゃ べり鑑賞会				4	・講義系プログラムの開催件数が増 加 ・特別支援学校を含む学校団体によ るプログラムの利用が増加 ・視覚に障害のある方のための鑑賞 プログラムなど、多様な取組みが進展	多様な利用者のた めのプログラム実施				【一般向け】 講演会、美術講座、ボラ ンティアによるギャラリーツアー、ロダン 館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ 開放日 などの実施 【学校向け】 ねんど・えのぐ教室、ロ ダン館デッサン、ボランティアスタッフとの 鑑賞、 学芸員資格取得の ための博物館実習の受け入れ などの			
	(2) 館外での取り組み	出張講座 6件305人 Webコンテンツの開発 2件 教材キット貸出 27件2,221 人				学校向け Webコンテンツの運用 出張講座 3件227人 教材キット貸出 40件5,778 人 ボランティアによるオンライン ギャラリーツアー及び彫刻ブ ロムナードツアーの試行				出張講座 5件257人 教材キット貸出 39件3,437 人				2	・ボランティアによるオンラインギャラ リーツアーを試験的に実施したが、ト ラブル発生時の対応策等を検討中で あり継続には至っていない。 ・学校向けwebコンテンツについて は、利用実態やニーズを把握し、今 後の開発につなげていく。	【一般向け】 移動美術展での関連イ ベントの実施、出張講座 などの実施Web コンテンツの開発 【学校向け】 オリジナル教材キットの 貸出、出張美術講座、図工・美術など の 授業への協力、教員研修協力							
5 調査研究	(1) 調査研究	学芸課研究会 12回 他の美術館、大学と連携 した取組 3件 紀要の発行 など 収蔵品に関するシンポジウ ム開催および記録集の刊行				学芸課研究会 12回 他の美術館、大学と連携 した取組 3件 調査研究に基づく 自主企画展 3本				学芸課研究会等 14回 他の美術館、大学と連携 した取組 3件 調査研究に基づく 自主企画展 4本				3	・学芸課研究会が、コレクションを検 証し、その情報と評価を共有する重 要な場として機能している。 ・調査研究の発表や外部機関との連 携は進展している ・調査研究に基づく自主企画展の発 案が増加している	展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員 の調査研究結果の発表							
	(2) 書庫・図書室	図書購入予算 1,159千 蔵書データベース新規分入 力 新規ボランティア募集 (閲覧室担当含む)				図書購入予算 1,000千円 蔵書データベース新規 分入力および選及入力 専門書籍の書誌情報 約6,000冊分を追加公				図書購入予算 2,000千円 蔵書データベ ース				2	・ボランティアの拡充により閲覧室の 開室日は以前より安定してきた。 ・研究のための図書購入費の不足が 著しい。 ・書誌情報の公開についての予算措 置は安定していない。	図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開 閲覧室の整備 ・検索機能の拡充 ・情報コーナーと連動し た機能強化 蔵書データベース							

年度別計画・取組実績及び進捗評価

※達成状況

5 計画を大幅に上回り推進された

4 計画を上回り推進された

3 計画どおり推進された

2 順調に推進されなかった

1 全く推進されなかった

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R4-R6 進捗評価	評価コメント	R7(2025)				R8(2026)			
		1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4			1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4
6 広報	(1) 広報体制の充実		広報アドバイザー による効果的な SNS運用他				広報専門人材 の配置要求				広報専門人材 の配置要求			1	・ 広報専門人材の設置は難しい。 ・ 戦略的な広報展開は出来ていない。	外部専門家を活用した戦略的な広報の展開							
	(2) 情報発信機能の強化		デジタルアーカイブ情報発信 作品作家情報公開 更新288件 現代美術関連資料 公開9,534件 図書情報公開23,293件				デジタルアーカイブ情報発信 作品作家情報公開 更新749件 現代美術関連資料 公開12,088件 図書情報公開29,923件				デジタルアーカイブ情報発信 作品作家情報公開 更新432件 現代美術関連資料 公開13,603件			3	・ 情報公開件数は順調に増加している。 ・ 更なる整備・進展に予算確保が必要。	SNS等で常に最新情報を発信、 デジタルアーカイブを活用した情報発信				高精細画像追加			
	(3) 教育機関との連携		県内小中高、特別支援校へ 美術館情報を提供 県立大、文芸大、常葉大等 学生向けに展覧会情報を提 大学への学芸員の出講 ・県立大学(6月、11月) ・静岡大学(5月、12月) ・県文芸大学(6月、1月) ・東京芸大学(4月)				県内小中高、特別支援校へ 美術館情報を提供 県立大、文芸大、産業大等 学生向けに展覧会情報を提 大学への学芸員の出講 ・県立大学(6月、7月) ・静岡大学(5月、6月、1月)				県内小中高、特別支援校へ 美術館情報を提供 県立大、文芸大、産業大等 学生向けに展覧会情報を提供 大学への学芸員の出講 ・県立大学(7月)			2	・ 学校教育機関との取組数も増加している。 ・ 県内大学生に対して展覧会情報をメール配信している。 ・ 学芸員による大学への出講講義で展覧会を紹介している。	県内すべての小中高生への美術館情報の 定期的な提供、県内大学との連携、学生 への情報提供、学生による情報発信を検 学校連携強 化のための 人員配置				大学への学芸員出講による地域連携			
	(4) 観光業界、アーツカウンシルし ずおか等との連携		ロダンウィーク で地元草薙の 団体と連携(11) 県観光協会と連 携 教育旅行用				ロダンウィーク で地元草薙の 団体と連携(11) 県観光協会と連 携 教育旅行用 資料作成(7月)				ロダンウィークで 静岡大学・常葉 大学と連携 また地元草薙の 団体とも連携 アーツカウンシル 主催研究会参加			3	・ アーツカウンシル静岡とは具体的な 連携が進んだ。 ・ 観光業界との連携は進んでいない が、地元草薙の団体とはロダンウィーク において連携した事業展開が出来 ている。	ロダンウィークで 地元草薙の団体と 連携(9月)				ナイトタイム コンテンツで Vチューバと 連携(2月) 観光デジタルプラットフォームを活用した 情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺 地域の団体等との連携			
7 環境・施設整備	(1) 施設の適切な管理と快適な 環境の整備		・ロダン館1階ホール照明 更新工事 ・監視カメラ更新工事 ・ファンコイルユニット更新 工事 ・レストラン給排水管更新工 事 ・トイレ洋式改修工事 等				・本館外壁タイル他修繕工事 ・本館非常用発電設備更新工事 ・本館吸収式冷温水発生機他更 新工事 ・本館送風機更新工事 ・本館レストラン空調機更新工事 ・ロダン館屋根笠木部分防水修繕 工事 ・ロダン館調光装置修繕工事 ・本館展示室ガラスケースドアゴム 取替改修工事 ・本館ラウンジ他窓サッシ改修工				次期中期維持保全計画 策定のための劣化診断 ・講堂舞台音響設備更新工事 ・講堂舞台照明設備更新工事等 施設の修繕、美術館 園地の整備			2	・ 講堂の音響・照明設備更新工事は 予定どおり実施した。 ・ 中期維持保全計画に基づく施設改 修 工事の一部が翌年度以降に延期 された。 ・ 美術館園地内は草木が生い茂り、 適切な環境整備が出来ていない。	中期維持保全計画 (R3～R7)に基づく 施設の改修 次期中期維持保全計画 策定				次期計画(5年) に基づく改修 ・貫流ボイラー更新工事 ・ロダン館受変電設備他更新工事 ・美術館照明LED化工事 等 施設の修繕、美術館園地の整備			

年度別計画・取組実績及び進捗評価

※達成状況

5 計画を大幅に上回り推進された

4 計画を上回り推進された

3 計画どおり推進された

2 順調に推進されなかった

1 全く推進されなかった

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R4-R6 進捗評価	評価コメント	R7(2025)				R8(2026)									
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四			1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四						
7 環境・施設整備	(2) 来館者の満足度向上のための取り組み	館内の通信状況の改善		キャッシュレス決済導入		館内写真撮影基準の改善		キャッシュレス決済拡充		彫刻プロムナード環境整備 (作品修復・ベンチ)			4	・彫刻プロムナード再生のクラウドファンディングを実施し2作品を修復した。併せて作品周辺の低木伐採やベンチ修繕、銘板補修、石畳洗浄などプロムナードの環境整備を実施した。 ・展覧会以外の来館者サービスとして館内レストランと連携し展覧会限定メニューを継続して提供している。 ・シェアサイクルステーション誘致、情報コーナー 自販機設置など来館者の満足度向上に取組んだ。	彫刻プロムナード環境整備 (作品修復、文化観光推進事業と運動)					展覧会限定メニュー提供					来館者の意見等に対する対応				
	(3) 駐車場、収蔵庫の整備		第三駐車場等白線引き直し				バス乗り場、駐輪場の塗り替え			収蔵庫内棚の新設整備			3	・収蔵庫内の収蔵スペース確保のため棚を新設した。 ・駐車場不足は隣接する県立大学の駐車場を臨時開放して対応したが、障害者等用駐車場を含め白線引直し等来館者が利用しやすい環境整備が十分ではない。	駐車場、収蔵庫整備の検討														
8 運営	(1) 運営基盤の拡充	「綱川図と蘭亭曲水図」展でタカシマヤ文化基金から助成				ふじのくに応援寄附金(個人)積立制度		芸術文化振興基金から助成		芸術文化振興基金助成申請			3	・助成金の獲得は継続している。 ・ふるさと納税及び地方創生応援税制の活用など収入確保に取組んだ。	文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業(文化庁補助事業)活用														
	(2) 業務の効率化	・ペーパーレス化の推進				広報物送付先の見直し				事業の効率化及び経費削減			3	・ペーパーレス化の推進を図った。 ・広報物送付先の見直しを行った。	事業の効率化及び経費削減の取組														
	(3) 企業との連携強化による運営の充実	経営者協会全会員に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布				経営者協会交流会3会場でセミナー講師として館長が			三井住友信託銀行と遺贈協定の合意・締結		企業協賛を活用した企画展イベントの充実		3	・初めてR6企画展に対して直接的な企業協賛が実現した。 ・企業側からの美術館に対する継続的な支援体制の確立に向けて働き掛けを行う。	収入確保の取組 (外部資金の確保、法人メンバーシップ)	継続的な企業連携制度の構築					40周年に向けた企業協賛働き掛け				継続的な企業連携制度の運用				

歳入予算

一般会計

区 分	調 定 額 A	収 入 済 額	
		納 期 内 B	納 期 後 C
款 08使用料及び手数料	円	円	円
	25,543,770	24,903,822	639,948
項 01使用料	25,543,770	24,903,822	639,948
目 04スポーツ・文化観光使 用料	25,543,770	24,903,822	639,948
01美術館観覧料	21,894,500	21,383,802	510,698
02美術館使用料	3,550,650	3,421,400	129,250
06庁舎等使用料	98,620	98,620	0
款 10財産収入	3,547,315	3,431,129	116,186
項 02財産売払収入	3,547,315	3,431,129	116,186
目 04その他財産売払収入	3,547,315	3,431,129	116,186
01美術館図録売払収入	3,547,315	3,431,129	116,186
款 11寄附金	13,209,000	13,209,000	0
項 01寄附金	13,209,000	13,209,000	0
目 05スポーツ・文化観光費 寄附金	13,209,000	13,209,000	0
01ふるさと納税寄附金	10,609,000	10,609,000	0
07スポーツ・文化観光費 寄附金	2,600,000	2,600,000	0
款 14諸収入	38,711,805	38,711,805	0
項 07雑入	38,711,805	38,711,805	0
目 02雑入	38,711,805	38,711,805	0
22美術館特別展共催収入	36,178,377	36,178,377	0
87保険料負担金	960,574	960,574	0
非常勤職員	960,574	960,574	0
90雑収	1,572,854	1,572,854	0
雑収	1,570,093	1,570,093	0
古新聞・雑誌	2,761	2,761	0
計	81,011,890	80,255,756	756,134

執行状況調

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

不 納 欠 損 額 D	収 入 未 済 額			収 入 歩 合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納 期 内 収 入 率 $\frac{B}{A-D-F}$
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計		
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	97.4
0	0	0	0	100.0	97.4
0	0	0	0	100.0	97.4
0	0	0	0	100.0	97.6
0	0	0	0	100.0	96.3
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	96.7
0	0	0	0	100.0	96.7
0	0	0	0	100.0	96.7
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	99.0

歳出予算執行状況調

一般会計		(令和 6年度) (令和 7年 5月31日現在)			
区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要	
款 04 経営管理費	円	円	円		
項 01 経営管理費	6,039,639	6,039,639	0		
目 01 一般総務費	6,039,639	6,039,639	0		
01 報酬	5,192,639	5,192,639	0		
03 非常勤職員報酬	3,479,053	3,479,053	0		
03 職員手当等	3,479,053	3,479,053	0		
01 その他の職員手当等	612,680	612,680	0		
04 共済費	612,680	612,680	0		
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	1,018,211	1,018,211	0		
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	212,890	212,890	0		
08 旅費	805,321	805,321	0		
01 その他の旅費	82,695	82,695	0		
目 05 資産経営費	82,695	82,695	0		
14 工事請負費	847,000	847,000	0		
款 06 スポーツ・文化観光費	847,000	847,000	0		
項 01 スポーツ・文化観光費	407,394,033	405,921,527	1,472,506		
目 01 スポーツ・文化観光総 務費	1,811,378	880,301	931,077		
01 報酬	1,720,000	790,173	929,827		
03 非常勤職員報酬	704,000	443,059	260,941		
03 職員手当等	704,000	443,059	260,941		
01 その他の職員手当等	717,000	299,902	417,098		
04 共済費	717,000	299,902	417,098		
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	299,000	47,212	251,788		
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	60,000	0	60,000		
目 02 スポーツ・文化観光企 画費	239,000	47,212	191,788		
11 役務費	91,378	90,128	1,250		
項 03 文化費	91,378	90,128	1,250		
目 01 文化事業費	404,578,655	404,051,226	527,429		
	18,321,000	18,319,962	1,038		

スポ文化観光部 県立美術館

ZIB0030
ZIRB0030

一般会計		(令和 6年度) (令和 7年 5月31日現在)			
区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要	
07 報償費	円	円	円		
01 その他の報償費	112,000	111,370	630		
08 旅費	112,000	111,370	630		
01 その他の旅費	16,000	16,000	0		
10 需用費	16,000	16,000	0		
01 その他の需用費	2,986,000	2,986,000	0		
02 食糧費	2,986,000	2,986,000	0		
11 役務費	0	0	0		
12 委託料	7,759,000	7,758,592	408		
18 負担金、補助及び交付 金	5,248,000	5,248,000	0		
目 04 美術館費	2,200,000	2,200,000	0		
01 報酬	386,257,655	385,731,264	526,391		
02 委員報酬	12,154,000	12,030,099	123,901		
03 非常勤職員報酬	68,000	67,500	500		
03 職員手当等	12,086,000	11,962,599	123,401		
01 その他の職員手当等	1,978,000	1,977,038	962		
04 共済費	1,978,000	1,977,038	962		
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	1,725,000	1,543,008	181,992		
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	400,000	321,768	78,232		
07 報償費	1,325,000	1,221,240	103,760		
01 その他の報償費	5,743,000	5,715,739	27,261		
02 買上金	5,693,000	5,665,933	27,067		
08 旅費	50,000	49,806	194		
01 その他の旅費	3,247,000	3,200,450	46,550		
02 普通旅費	1,616,000	1,570,284	45,716		
10 需用費	1,631,000	1,630,166	834		
01 その他の需用費	81,552,000	81,551,781	219		
02 食糧費	81,552,000	81,551,781	219		
	0	0	0		

スポ文化観光部 県立美術館

ZIB0030
ZIRB0030

一般会計

(令和 6年度)
(令和 7年 5月31日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
11 役務費	18,878,860	18,764,318	114,542	
12 委託料	205,839,635	205,809,964	29,671	
13 使用料及び賃借料	2,603,160	2,602,948	212	
14 工事請負費	1,936,000	1,936,000	0	
17 備品購入費	3,163,000	3,162,939	61	
18 負担金、補助及び交付金	47,420,000	47,419,880	120	
26 公課費	18,000	17,100	900	
項 04 観光交流費	1,004,000	990,000	14,000	
目 01 観光費	1,004,000	990,000	14,000	
14 工事請負費	1,004,000	990,000	14,000	
款 11 教育費	1,388,171	1,388,171	0	
項 09 社会教育費	1,388,171	1,388,171	0	
目 02 図書館費	1,388,171	1,388,171	0	
12 委託料	1,388,171	1,388,171	0	
計	414,821,843	413,349,337	1,472,506	

設置者の取組状況

令和6年度 設置者（県）の取組状況

1 文化振興の取組

これまで実施してきた文化プログラムや東アジア文化都市等の活動を踏まえ、あらゆる県民の創造的な活動の活性化と、県民が文化芸術に触れる機会の拡充を図りました。

（1）共生社会の実現に向けた取組

文化芸術を通じた共生社会の実現を目指し、県内最大の総合芸術祭「ふじのくに芸術祭」と「静岡県障害者芸術祭」を一体化し、ふじのくに芸術祭の1部門として「障害者文化芸術部門」を新設しました。「障害者文化芸術部門」をふじのくに芸術祭美術部門の展示と同時開催することで、県民が多様な表現活動に触れる機会を提供しました。

	会 期	会 場	備 考	来場者数等
西部	令和6年 9月28日(土) ～10月6日(日)	クリエート浜松 (アトリエ、講座室ほか)	美術部門美術展と 同時開催(同会場、 別フロア)	来場者：601人 一般公募作品出 品数：62点
中部	令和6年 11月27日(水) ～12月1日(日)	県立美術館 (県民ギャラリーA)	美術部門写真展と 同時開催(同フロ ア)	来場者：659人 一般公募作品出 品数：17点
東部	令和7年 1月22日(水) ～1月26日(日)	プラサヴェルデ (市民ギャラリー)	優秀作品展(美術 部門・障害者文化 芸術部門)と同時 開催(同フロア)	来場者：705人 一般公募作品出 品数：130点

（2）新文化施設（旧ヴァンジ彫刻庭園美術館）の利活用

令和6年2月に寄付受納した、旧ヴァンジ彫刻庭園美術館について、東部・伊豆地域の文化拠点の1つとなる県の新文化施設として、効果的な利活用を図るため、有識者への意見聴取及びサウンディング型市場調査の結果などを踏まえ、利活用計画を策定しました。また、モデル事業として、長泉町や民間企業等と連携したイベントを開催し、文学や音楽をテーマとしたマルシェイベントでは、約2,500人の来場者が訪れるなど、新たな賑わい創出の可能性を示すことができました。

今後、民間活力を最大限活用可能なコンセッション方式による運営を目指し各種必要な手続きを進めるとともに、運営開始までの間、施設を有効活用してまいります。

(3) 文化施設の新たな取組

令和7年度は、県文化施設や文化団体による、県内各地での文化体験の機会拡大関連事業を進めます。具体的には、インバウンドを含む県内外の誘客を図るため、文化施設の夜間活用や収蔵品のデジタルコンテンツ制作など、新たな体験機会の提供による魅力の発信に取り組んでまいります。

2 美術館の修繕

県立美術館は昭和61年4月に開館し、令和6年度で38年目となりました。そこで、文化政策課では、行政経営課と連携し、令和6年度に行った劣化診断業務委託の結果をもとに中期維持保全計画（5年間の修繕計画）を策定し、修繕工事などを計画的に進めています。

(1) 劣化診断の結果 (R6)

区分	部材・設備機器	症状	対応方針
建築	屋上防水	劣化	修繕
	屋外ベンチ	劣化	更新
	防火扉・防火シャッター	既存不適格	改修
	天井ボード	雨漏りにより撤去済	更新
	外壁	タイルに浮き	修繕
電気	受変電設備	耐用年数超過	更新
	照明器具	照明効率の低下	改修
	光電スポット感知器	劣化	更新
機械	貫流ボイラー	劣化	更新
	空調機インバータ	故障頻発	更新
	中央監視装置	耐用年数超過	更新

(2) 中期維持保全計画

(単位：千円)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
委託料	9,767	4,802	10,848	6,026	0	-	31,443
工事費	170,797	240,511	153,533	311,256	184,000	-	1,060,097
合計	180,564	245,313	164,381	317,282	184,000	-	1,091,540

※R7に次期計画を作成

(3) 令和6年度の美術館改修工事

項 目	内 容
工事期間	令和6年9月～令和6年12月（4か月）
金 額	149,677 千円
改修工事 の 内 容	本館講堂舞台音響更新、本館舞台照明更新、ロダン館非常用発電設備更新（R 6～7）

別添資料

令和 6 年度
静岡県立美術館評価業務
報 告 書

令和 7 年 3 月
静岡県立美術館

令和6年度 静岡県立美術館評価業務報告書

目 次

1	調査概要.....	1
	(1) 調査目的.....	1
	(2) 実施概要.....	1
	(3) 報告書内のデータ記述について.....	1
2	調査結果概要.....	2
	(1) 結果概要.....	2
	(2) 提言.....	2
3	美術館評価指標の現状値.....	3
4	展覧会アンケート結果.....	4
	(1) 回収状況.....	4
	(2) 観覧者の属性.....	6
	F 1 性別.....	6
	F 2 年齢.....	8
	F 3 居住地.....	10
	(3) 観覧者の行動.....	12
	Q 1 今回の来館回数.....	12
	Q 1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）.....	13
	Q 2 来館人数.....	14
	Q 2-1 当日の来館の同行者（複数回答可）.....	16
	Q 3 この展覧会への来館理由.....	19
	(4) 展覧会への評価.....	22
	Q 4 「風景とロダンの美術館」としての認知度.....	22
	Q 5① 作品やテーマへの興味・関心の深まり.....	24
	Q 5② 会場における観覧時の心地よさ.....	26
	Q 5③ スタッフの対応の適切さ.....	28
	Q 5④ 展覧会のことを勧めたいか.....	30
	Q 5⑤ 情報の入手しやすさ.....	32
	Q 5⑥ 来館の際の主な交通手段.....	34
	Q 5⑦ 交通機関の利用のスムーズさ.....	36
	Q 5⑧ 満足度.....	38
5	レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果.....	40
	Q 8① レストランの満足度.....	40
	Q 8② ミュージアム・ショップの満足度.....	44

6	追加設問アンケート結果.....	48
	Q 8 ③ 情報コーナーの満足度.....	48
7	自由意見.....	52
	Q 6 この展覧会または当美術館へのご意見等.....	52
	Q 7 当美術館で開催してほしい展覧の内容.....	73
	Q 9 レストランまたはミュージアム・ショップ、情報コーナーへのご意見等.....	85

1 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」(平成17年3月)を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

	テオ・ヤンセン展	カナレットと ヴェネツィアの輝き	無言館と、かつてありし 信濃デッサン館 —窪島誠一郎の眼
会期	令和6年4月13日 ～7月7日	令和6年7月27日 ～9月29日	令和6年10月12日 ～12月15日
開催日数	75 日	56 日	56 日
観覧者数	43,792 人	18,224 人	10,403 人
1日当たりの平均観覧者数	584人／日	325人／日	186人／日
アンケート実施数	548 件	458 件	267 件
回収率 ※観覧者数に占める実施の割合	1.3 %	2.5 %	2.6 %

展覧会開催中、調査票を出入り口付近に置き、来館者の自記式により調査を行った。

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率は全て百分率で表し、小数第2位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が100%にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える場合がある。

2 調査結果概要

(1) 結果概要

	テオ・ヤンセン展		カナレットと ヴェネツィアの輝き		無言館と、かつてありし 信濃デッサン館 ー窪島誠一郎の眼
①展覧会満足度（展覧会別）	94.9%		93.4%		92.9%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
②展覧会満足度（経年）	84.4%	88.0%	85.7%	87.9%	94.0%
③レストラン満足度	11.7%	9.4%	9.2%	10.4%	13.4%
④ミュージアム・ショップ満足度	49.1%	39.2%	19.2%	35.8%	50.2%
⑤ホームページ満足度	71.8%	70.6%	－	－	－

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

問	Q 5 ①	Q 5 ②	Q 5 ③	Q 5 ④	Q 5 ⑤	Q 5 ⑦
評価	作品やテーマ への興味・関 心の深まり	会場における 観覧時の心地 よさ	スタッフの 対応の適切さ	展覧会のこと を誰かに勧め たいか	美術館に関す る情報の入手 しやすさ	交通機関の利 用のスムーズ さ
テオ・ヤンセン展	0.448	0.553	0.599	0.470	0.363	0.326
カナレットと ヴェネツィアの輝き	0.439	0.635	0.610	0.573	0.344	0.364
無言館と、かつてありし 信濃デッサン館 —窪島誠一郎の眼	0.712	0.515	0.489	0.550	0.326	0.390
	0.501	0.580	0.579	0.534	0.336	0.356

※算出方法：展覧会の評価【Q 5 ①～⑦】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。欠損値は除いて計算した。

※相関係数：－1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、－1に近づくほど負の相関がある。（0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある）

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

テオ・ヤンセン展	1位	スタッフの対応の適切さ	0.599
	2位	会場における観覧時の心地よさ	0.553
	3位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.470
カナレットと ヴェネツィアの輝き	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.635
	2位	スタッフの対応の適切さ	0.610
	3位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.573
無言館と、かつてありし信濃デッサン館 —窪島誠一郎の眼	1位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.712
	2位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.550
	3位	会場における観覧時の心地よさ	0.515
全体	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.580
	2位	スタッフの対応の適切さ	0.579
	3位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.534

3 美術館評価指標の現状値

			R 5 実績	R 6 実績	展覧会		
					A *	B *	C *
A	2	展覧会リピート率	72.5%	68.4%	60.8%	71.4%	79.0%
	3	展覧会満足度	87.9%	94.0%	94.9%	93.4%	92.9%
	8	鑑賞環境満足度	91.7%	94.2%	93.6%	94.3%	95.1%
B	23	風景美術館認知度	66.8%	66.8%	65.0%	67.5%	69.3%
C	25	情報が「入手しやすい」	79.1%	81.6%	82.5%	85.4%	73.4%
	26	公共交通機関アクセス満足度	74.5%	79.8%	84.2%	76.6%	76.9%
	27	自家用車アクセス満足度	70.8%	73.1%	72.7%	75.4%	69.2%
	29	スタッフ対応満足度	87.9%	92.4%	95.3%	92.4%	86.5%
	34	レストラン満足度	47.2%	72.5%	68.8%	76.5%	72.6%
	36	ミュージアム・ショップ満足度	65.1%	83.9%	83.5%	85.5%	81.6%
D	46	ホームページ満足度	-	-			
	51	展覧会での新規観覧者の割合	26.8%	31.5%	39.2%	28.6%	20.6%
	52	展覧会での新規観覧者満足度	89.0%	94.8%	94.9%	95.4%	92.7%
	53	地域別利用者割合 東部	14.3%	15.2%	17.0%	15.1%	12.0%
		中部	53.0%	45.9%	42.3%	47.8%	49.8%
		西部	11.4%	13.7%	16.2%	14.0%	8.2%
		県外	20.0%	21.1%	21.2%	19.2%	24.0%
	54	2・3世代観覧割合	49.5%	56.0%	62.6%	53.6%	40.7%

*展覧会A・・・テオ・ヤンセン展

展覧会B・・・カナレットとヴェネツィアの輝き

展覧会C・・・無言館と、かつてありし信濃デッサン館—窪島誠一郎の眼

※公共交通機関アクセス満足度は、公共交通機関を利用した人を母数として集計をしています。同様に自家用車アクセス満足度は、自家用車を利用した人を母数として集計しています。

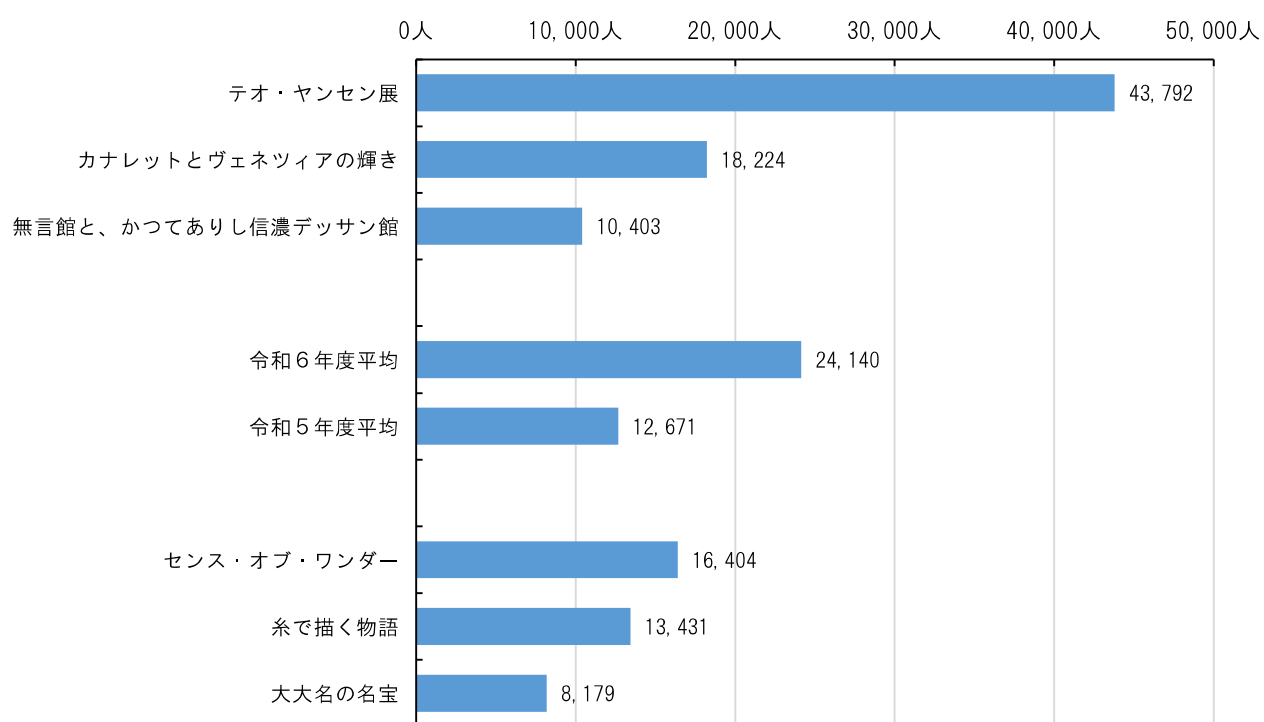
※レストラン満足度は、レストランを利用した人を母数として集計しています。同様にミュージアムショップ満足度は、ミュージアムショップを利用した人を母数として集計しています。

※2・3世代観覧割合は、同行者に親、子、孫、祖父母、その他親族を含んだ場合の人数を来館者の内同伴者がいた人数で割り、算出しています。

4 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数（人）	回収数（件）	回収率（％）
令和6年度	テオ・ヤンセン展	43,792	548	1.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	18,224	458	2.5
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	10,403	267	2.6
経年	令和6年度平均	24,140	424	2.1
	令和5年度平均	12,671	193	1.8
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	16,404	75	0.5
	糸で描く物語	13,431	268	2.0
	大大名の名宝	8,179	236	2.9



(2) 観覧者の属性

F 1 性別

全体

		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	32.8	62.6	1.5	3.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	36.2	60.0	1.1	2.6
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	31.1	62.2	2.2	4.5
経年	令和6年度	1,273	33.7	61.6	1.5	3.2
	令和5年度	579	32.8	64.8	1.2	1.2
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	28.0	65.3	2.7	4.0
	糸で描く物語	268	32.1	65.3	1.5	1.1
	大大名の名宝	236	35.2	64.0	0.4	0.4

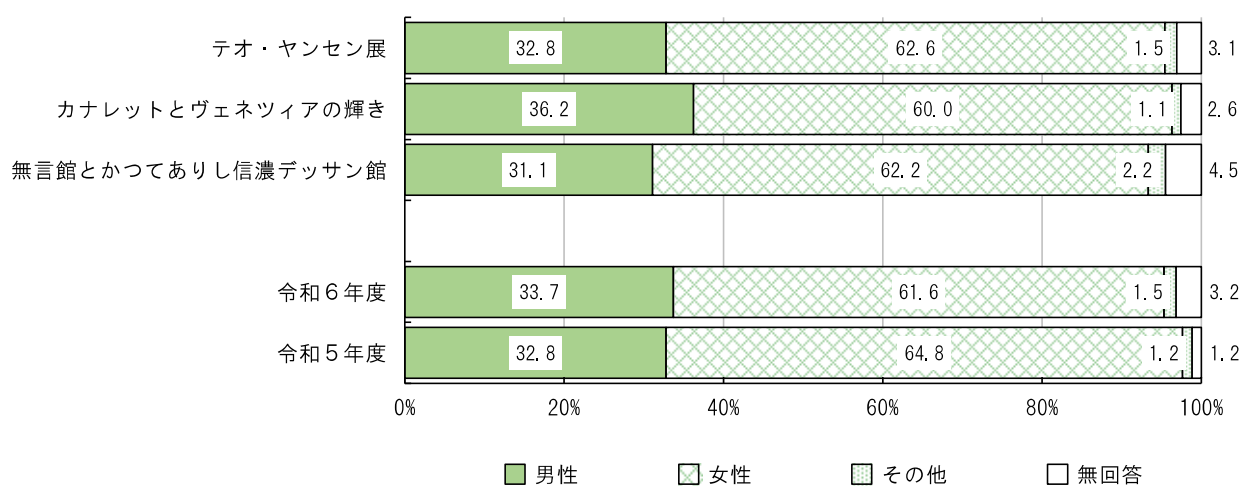
単位：％

新規来館者

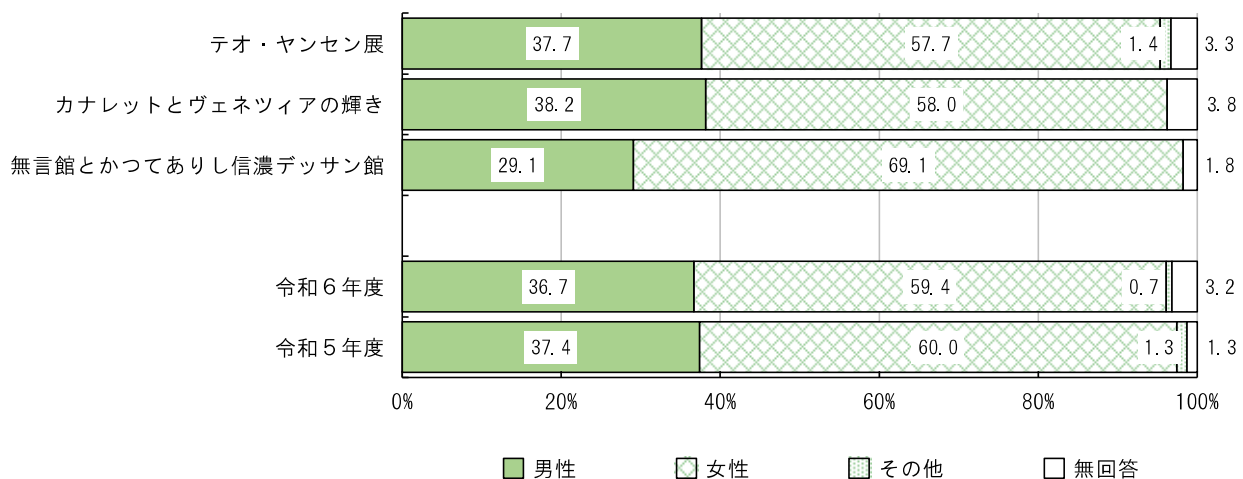
		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	37.7	57.7	1.4	3.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	38.2	58.0	0.0	3.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	29.1	69.1	0.0	1.8
経年	令和6年度	401	36.7	59.4	0.7	3.2
	令和5年度	155	37.4	60.0	1.3	1.3
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	38.5	46.2	7.7	7.7
	糸で描く物語	88	35.2	62.5	1.1	1.1
	大大名の名宝	54	40.7	59.3	0.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



性別について、令和6年度全体では、「男性」33.7%、「女性」61.6%、「その他」1.5%となっている。
 展覧会別でみると、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では「男性」が36.2%と他の展覧会と比べ高くなっている。一方、「女性」はどの展覧会でも6割程度となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「男性」36.7%、「女性」59.4%、「その他」0.7%となっている。

展覧会別でみると、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「女性」が69.1%と他の展覧会と比べ高くなっている。

F 2 年齢

全体

		件数 (件)	12歳以下	13歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	17.9	4.9	9.5	13.5	17.2	15.3	13.5	4.9	3.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	8.1	7.6	11.6	10.7	12.9	22.7	15.9	7.9	2.6
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	3.4	2.2	4.9	7.5	8.2	22.5	24.7	21.3	5.2
経年	令和6年度	1,273	11.3	5.3	9.3	11.2	13.7	19.5	16.7	9.4	3.5
	令和5年度	579	9.0	9.0	9.8	7.8	12.4	18.8	18.8	13.3	1.0
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	12.0	9.3	17.3	8.0	13.3	14.7	13.3	9.3	2.7
	糸で描く物語	268	12.3	12.3	10.1	8.6	11.9	17.2	17.5	9.0	1.1
	大大名の名宝	236	4.2	5.1	7.2	6.8	12.7	22.0	22.0	19.5	0.4

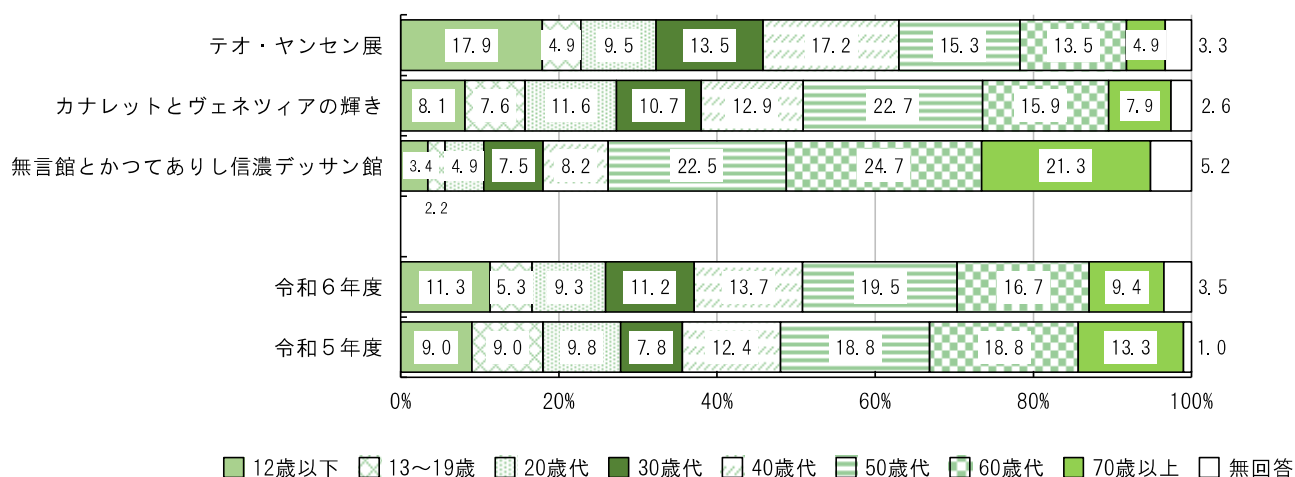
単位：％

新規来館者

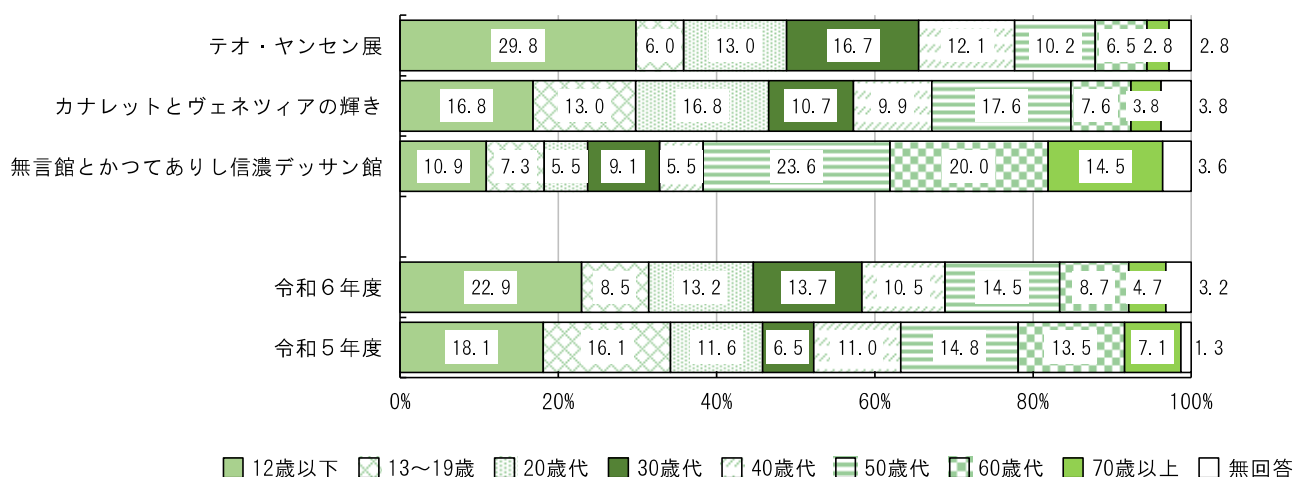
		件数 (件)	12歳以下	13歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	29.8	6.0	13.0	16.7	12.1	10.2	6.5	2.8	2.8
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	16.8	13.0	16.8	10.7	9.9	17.6	7.6	3.8	3.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	10.9	7.3	5.5	9.1	5.5	23.6	20.0	14.5	3.6
経年	令和6年度	401	22.9	8.5	13.2	13.7	10.5	14.5	8.7	4.7	3.2
	令和5年度	155	18.1	16.1	11.6	6.5	11.0	14.8	13.5	7.1	1.3
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	30.8	15.4	15.4	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7
	糸で描く物語	88	20.5	23.9	10.2	6.8	9.1	14.8	10.2	3.4	1.1
	大大名の名宝	54	11.1	3.7	13.0	7.4	13.0	16.7	20.4	14.8	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



年齢について、令和6年度全体では、「50歳代」19.5%が最も高く、以下「60歳代」16.7%、「40歳代」13.7%、「12歳以下」11.3%、「30歳代」11.2%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「12歳以下」が他の展覧会に比べて高く、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「70歳以上」が他の展覧会に比べて高くなっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「12歳以下」22.9%が最も高く、以下「50歳代」14.5%、「30歳代」13.7%、「20歳代」13.2%、「40歳代」10.5%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「12歳以下」29.8%と最も高く、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では「50歳代」17.6%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「50歳代」23.6%と最も高くなっている。

F 3 居住地

全体

		件数 (件)	静岡市	(中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	(県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	35.9	6.4	16.2	16.8	0.2	0.2	21.2	3.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	41.3	6.6	14.0	14.0	1.1	1.1	19.2	2.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	44.9	4.9	8.2	11.2	0.7	1.1	24.0	4.9
経年	令和6年度	1,273	39.7	6.1	13.7	14.6	0.6	0.7	21.1	3.4
	令和5年度	579	44.6	8.5	11.4	14.2	0.2	0.0	20.0	1.2
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	50.7	12.0	8.0	13.3	1.3	0.0	12.0	2.7
	糸で描く物語	268	44.4	7.8	9.7	15.3	0.0	0.0	21.6	1.1
	大大名の名宝	236	42.8	8.1	14.4	13.1	0.0	0.0	20.8	0.8

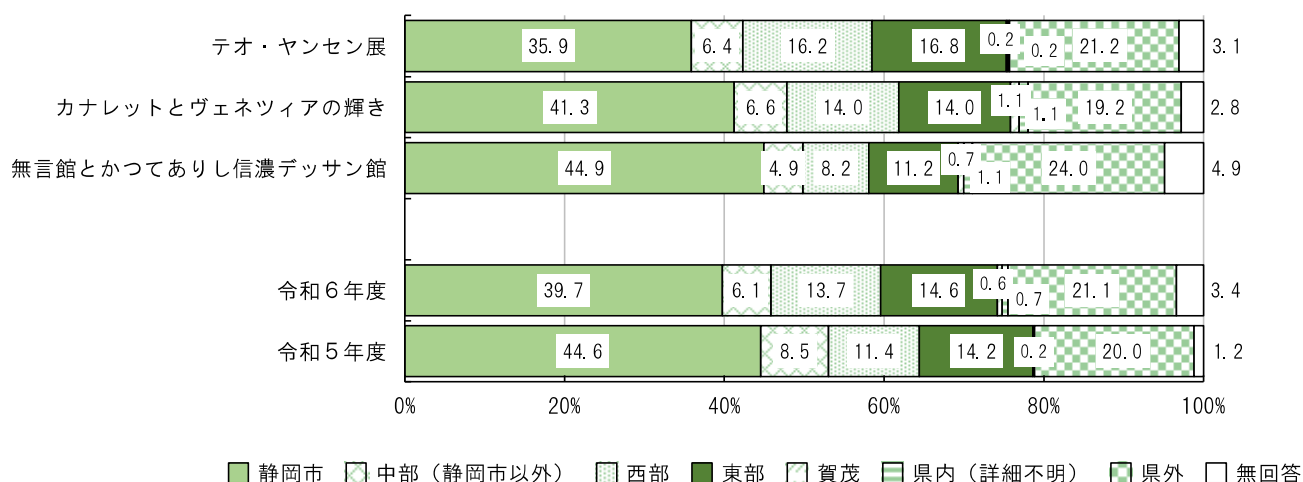
単位：％

新規来館者

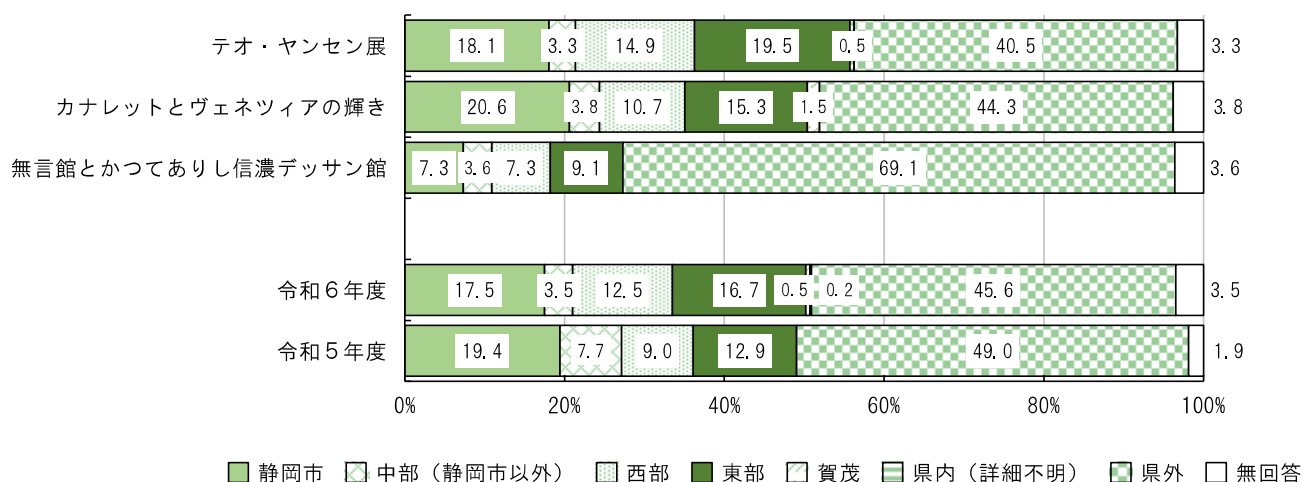
		件数 (件)	静岡市	(中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	(県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	18.1	3.3	14.9	19.5	0.0	0.5	40.5	3.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	20.6	3.8	10.7	15.3	1.5	0.0	44.3	3.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	7.3	3.6	7.3	9.1	0.0	0.0	69.1	3.6
経年	令和6年度	401	17.5	3.5	12.5	16.7	0.5	0.2	45.6	3.5
	令和5年度	155	19.4	7.7	9.0	12.9	0.0	0.0	49.0	1.9
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	38.5	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7
	糸で描く物語	88	15.9	6.8	9.1	17.0	0.0	0.0	50.0	1.1
	大大名の名宝	54	20.4	3.7	11.1	9.3	0.0	0.0	53.7	1.9

単位：％

<全体>



<新規来館者>



居住地について、令和6年度全体では、「静岡市」39.7%が最も高く、以下「県外」21.1%、「東部」14.6%、「西部」13.7%、「中部（静岡市以外）」6.1%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「東部」16.8%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「県外」24.0%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「県外」45.6%が最も高く、以下「静岡市」17.5%、「東部」16.7%、「西部」12.5%、「中部（静岡市以外）」3.5%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「東部」19.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「県外」69.1%と他の展覧会と比べ高くなっている。

(3) 観覧者の行動

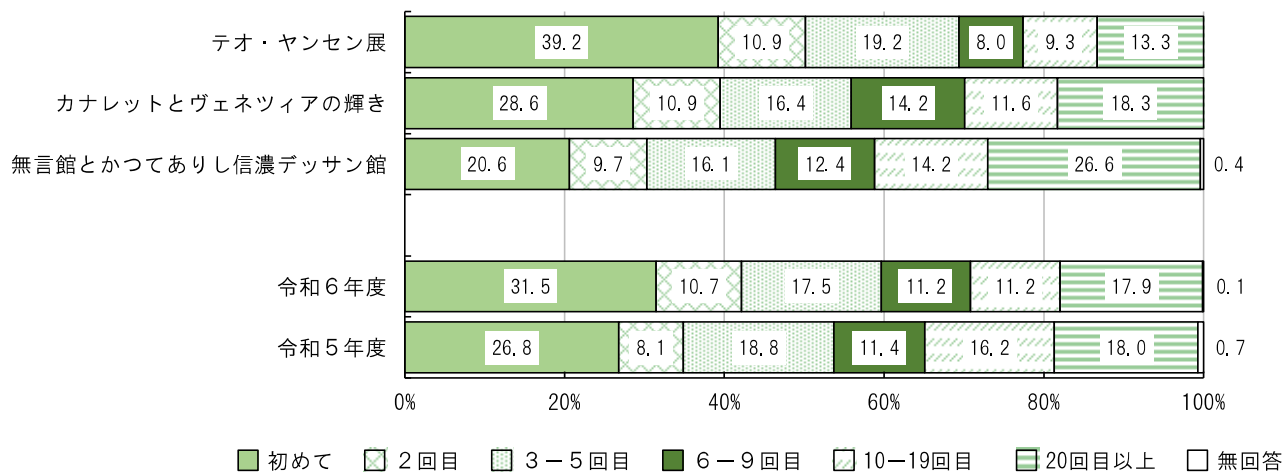
Q 1 今回の来館回数

全体

		件数 (件)	初 め て	2 回 目	3 ・ 5 回 目	6 ・ 9 回 目	10 ・ 19 回 目	20 回 目 以 上	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	39.2	10.9	19.2	8.0	9.3	13.3	0.0
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	28.6	10.9	16.4	14.2	11.6	18.3	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	20.6	9.7	16.1	12.4	14.2	26.6	0.4
経 年	令和6年度	1,273	31.5	10.7	17.5	11.2	11.2	17.9	0.1
	令和5年度	579	26.8	8.1	18.8	11.4	16.2	18.0	0.7
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	17.3	13.3	25.3	9.3	18.7	16.0	0.0
	糸で描く物語	268	32.8	6.7	16.8	9.7	16.4	16.0	1.5
	大大名の名宝	236	22.9	8.1	19.1	14.0	15.3	20.8	0.0

単位：％

<全体>



今回の来館回数について、令和6年度全体では、「初めて」31.5%が最も高く、以下「20回目以上」17.9%、「3-5回目」17.5%、「6-9回目」「10-19回目」11.2%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「初めて」39.2%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「20回目以上」26.6%と他の展覧会と比べ高くなっている。

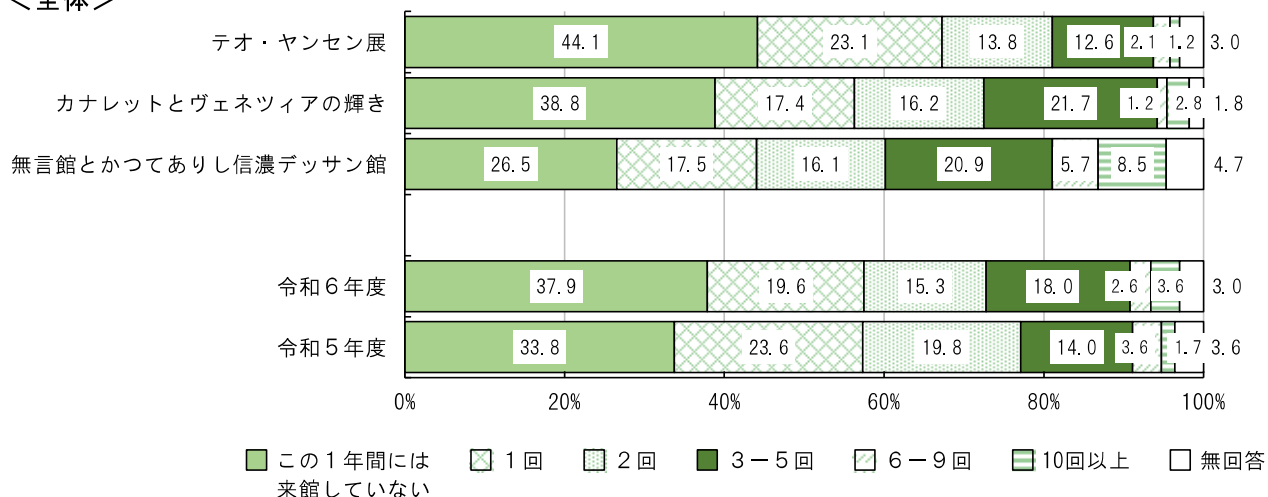
Q 1－1 1年以内の来館回数（今回を除く）

全体

		件数 (件)	来館の 1年 間には ない	1 回	2 回	3 ・ 5 回 目	6 ・ 9 回 目	10 回 目 以上	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	333	44.1	23.1	13.8	12.6	2.1	1.2	3.0
	カナレットとヴェネツィアの輝き	327	38.8	17.4	16.2	21.7	1.2	2.8	1.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	211	26.5	17.5	16.1	20.9	5.7	8.5	4.7
経 年	令和6年度	871	37.9	19.6	15.3	18.0	2.6	3.6	3.0
	令和5年度	420	33.8	23.6	19.8	14.0	3.6	1.7	3.6
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	62	41.9	24.2	17.7	9.7	0.0	0.0	6.5
	糸で描く物語	176	36.4	19.3	19.3	15.3	4.0	1.7	4.0
	大大名の名宝	182	28.6	27.5	20.9	14.3	4.4	2.2	2.2

単位：％

<全体>



1年以内の来館回数（今回を除く）について、令和6年度全体では、「この1年間には来館していない」37.9％が最も高く、以下「1回」19.6％、「3－5回」18.0％、「2回」15.3％、「10回以上」3.6％となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「この1年間には来館していない」44.1％と他の展覧会に比べ高くなっている。

Q 2 来館人数

全体

		件数 (件)	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	24.5	38.0	15.1	10.9	4.7	5.8	0.9
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	38.2	38.2	10.7	8.7	1.3	1.7	1.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	47.9	35.2	7.9	3.7	1.5	2.2	1.5
経年	令和6年度	1,273	34.3	37.5	12.0	8.6	2.8	3.6	1.1
	令和5年度	579	36.6	36.8	12.6	8.5	1.6	3.8	0.2
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	40.0	37.3	10.7	4.0	1.3	5.3	1.3
	糸で描く物語	268	31.7	32.8	14.9	13.4	2.2	4.9	0.0
	大大名の名宝	236	41.1	41.1	10.6	4.2	0.8	2.1	0.0

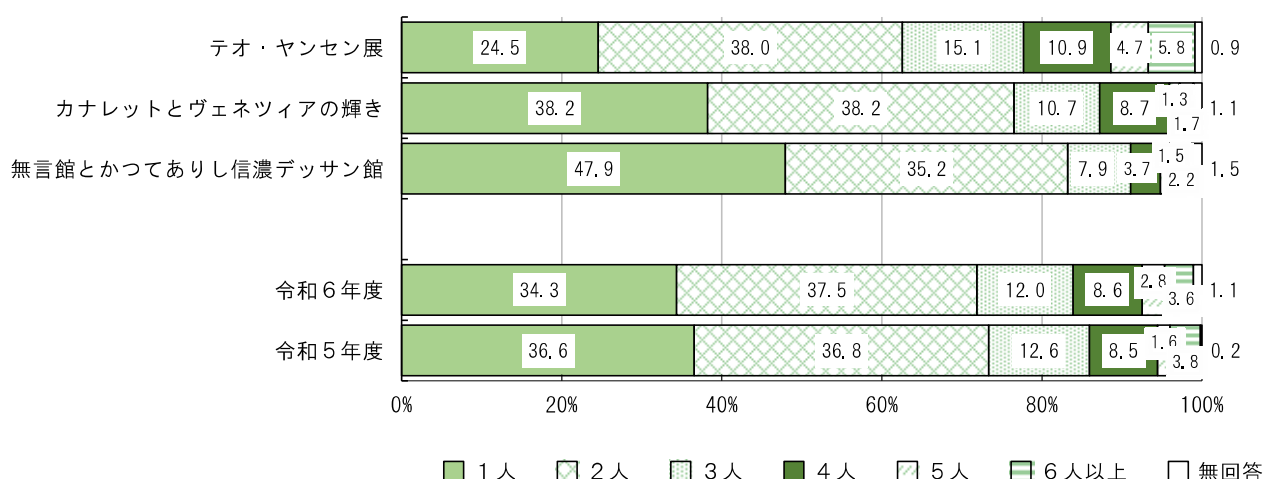
単位：％

新規来館者

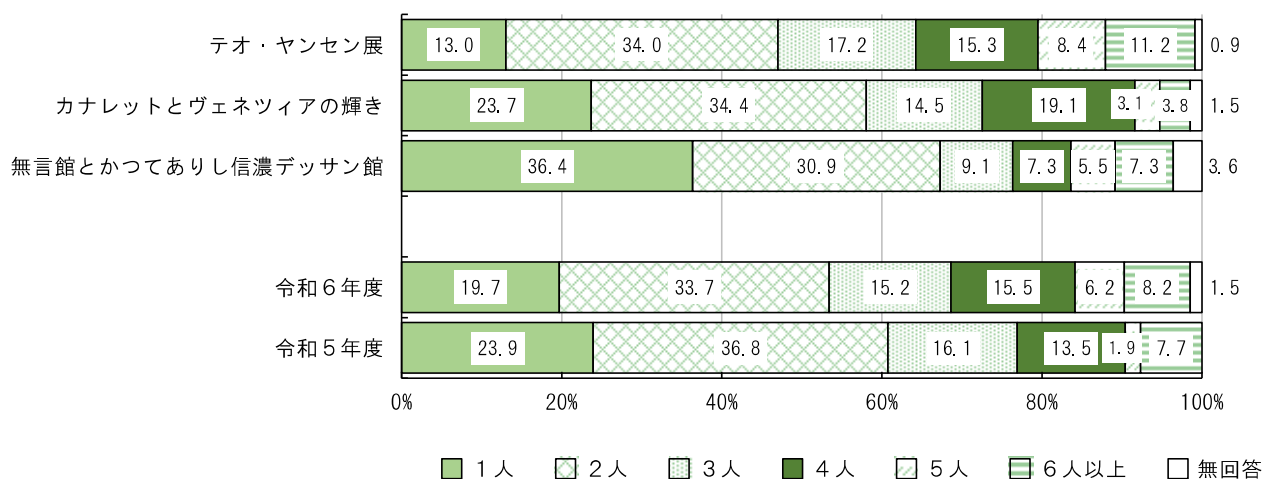
		件数 (件)	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	13.0	34.0	17.2	15.3	8.4	11.2	0.9
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	23.7	34.4	14.5	19.1	3.1	3.8	1.5
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	36.4	30.9	9.1	7.3	5.5	7.3	3.6
経年	令和6年度	401	19.7	33.7	15.2	15.5	6.2	8.2	1.5
	令和5年度	155	23.9	36.8	16.1	13.5	1.9	7.7	0.0
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	46.2	30.8	0.0	0.0	15.4	0.0
	糸で描く物語	88	22.7	33.0	11.4	21.6	3.4	8.0	0.0
	大大名の名宝	54	29.6	40.7	20.4	3.7	0.0	5.6	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館人数について、令和6年度全体では、「2人」37.5%が最も高く、以下「1人」34.3%、「3人」12.0%、「4人」8.6%、「6人以上」3.6%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「3人」15.1%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「1人」47.9%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「2人」33.7%が最も高く、以下「1人」19.7%、「4人」15.5%、「3人」15.2%、「6人以上」8.2%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「3人」17.2%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では「4人」19.1%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「1人」36.4%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q 2－1 当日の来館の同行者（複数回答可）

来館時人数で、2人以上で来館したと回答した方のみ

全体

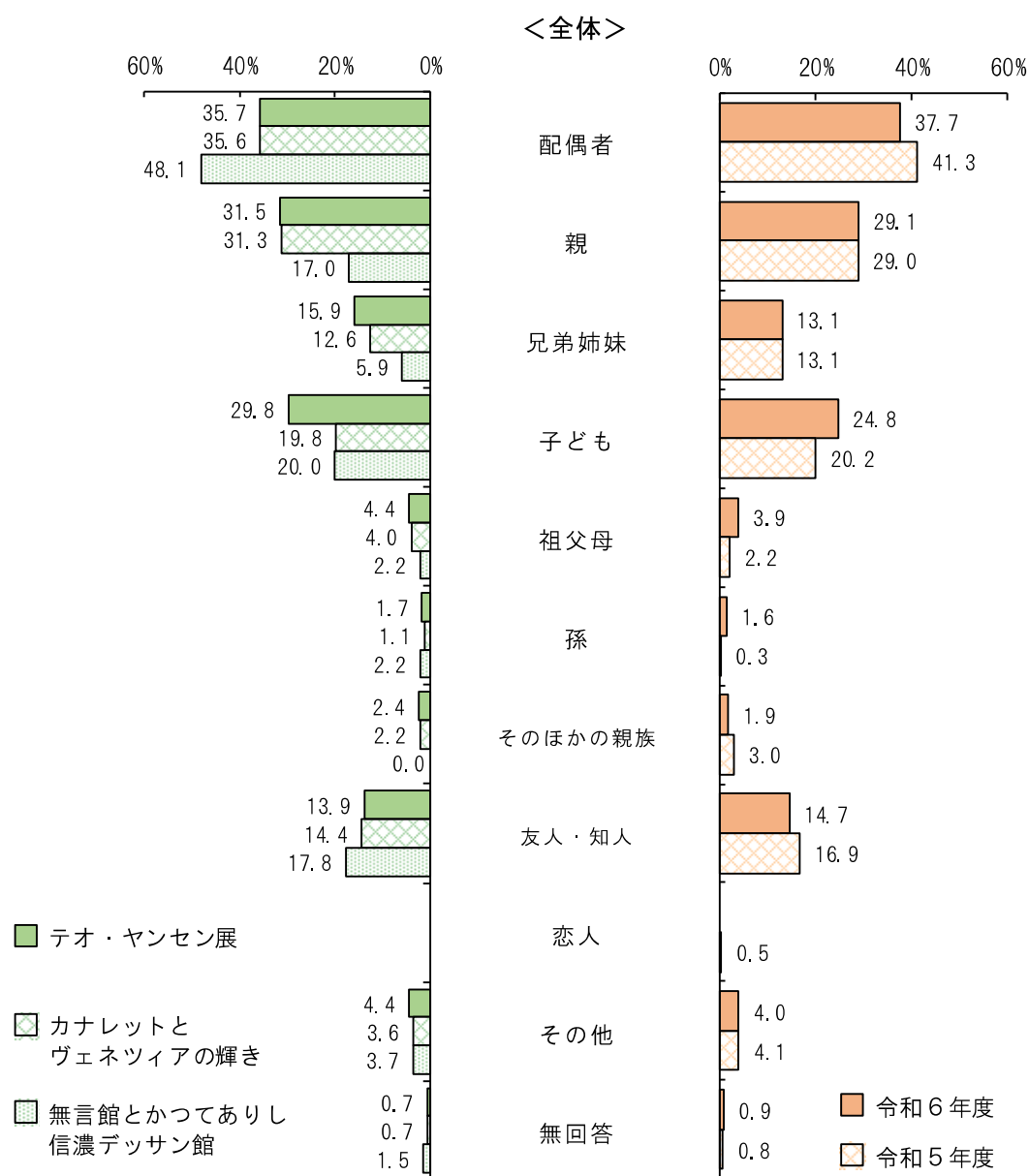
		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	そのほかの親族	友人・知人	その他	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	409	35.7	31.5	15.9	29.8	4.4	1.7	2.4	13.9	4.4	0.7
	カナレットとヴェネツィアの輝き	278	35.6	31.3	12.6	19.8	4.0	1.1	2.2	14.4	3.6	0.7
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	135	48.1	17.0	5.9	20.0	2.2	2.2	0.0	17.8	3.7	1.5
経年	令和6年度	822	37.7	29.1	13.1	24.8	3.9	1.6	1.9	14.7	4.0	0.9
	令和5年度	366	41.3	29.0	13.1	20.2	2.2	0.3	3.0	16.9	4.1	0.8
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	44	34.1	25.0	6.8	9.1	2.3	0.0	2.3	25.0	4.5	4.5
	糸で描く物語	183	35.5	34.4	15.8	26.2	2.7	0.0	2.2	16.9	5.5	0.0
	大大名の名宝	139	51.1	23.0	11.5	15.8	1.4	0.7	4.3	14.4	2.2	0.7

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	そのほかの親族	友人・知人	その他	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	185	31.4	34.1	20.0	28.6	5.4	1.1	1.6	13.5	7.6	1.6
	カナレットとヴェネツィアの輝き	98	21.4	45.9	21.4	22.4	8.2	1.0	4.1	15.3	5.1	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	33	45.5	21.2	9.1	27.3	9.1	3.0	0.0	12.1	6.1	3.0
経年	令和6年度	316	29.7	36.4	19.3	26.6	6.6	1.3	2.2	13.9	6.6	1.3
	令和5年度	118	35.6	33.9	18.6	16.1	3.4	0.0	4.2	13.6	8.5	2.5
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	12	25.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	8.3	16.7
	糸で描く物語	68	30.9	41.2	23.5	20.6	5.9	0.0	2.9	16.2	8.8	0.0
	大大名の名宝	38	47.4	26.3	15.8	10.5	0.0	0.0	7.9	5.3	7.9	2.6

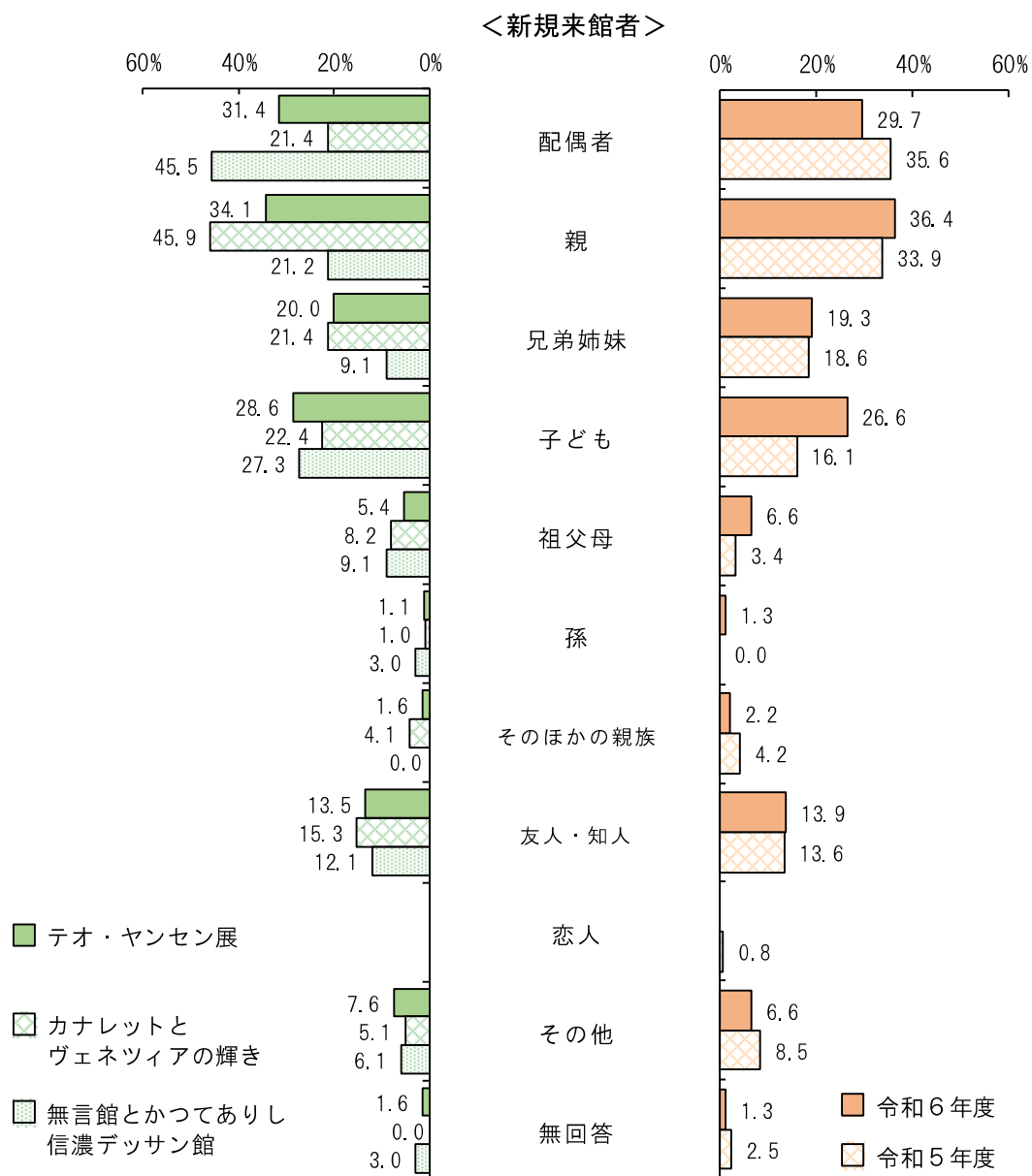
単位：％



※「恋人」は令和5年度までの選択肢

当日の来館の同行者について、令和6年度全体では、「配偶者」37.7%が最も高く、以下「親」29.1%、「子ども」24.8%、「友人・知人」14.7%、「兄弟姉妹」13.1%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「子ども」29.8%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「配偶者」48.1%と他の展覧会と比べ高くなっている。



新規来館者の令和6年度全体は、「親」36.4%が最も高く、以下「配偶者」29.7%、「子ども」26.6%、「兄弟姉妹」19.3%、「友人・知人」13.9%となっている。

展覧会別でみると、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では「親」45.9%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「配偶者」45.5%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q 3 この展覧会への来館理由

全体

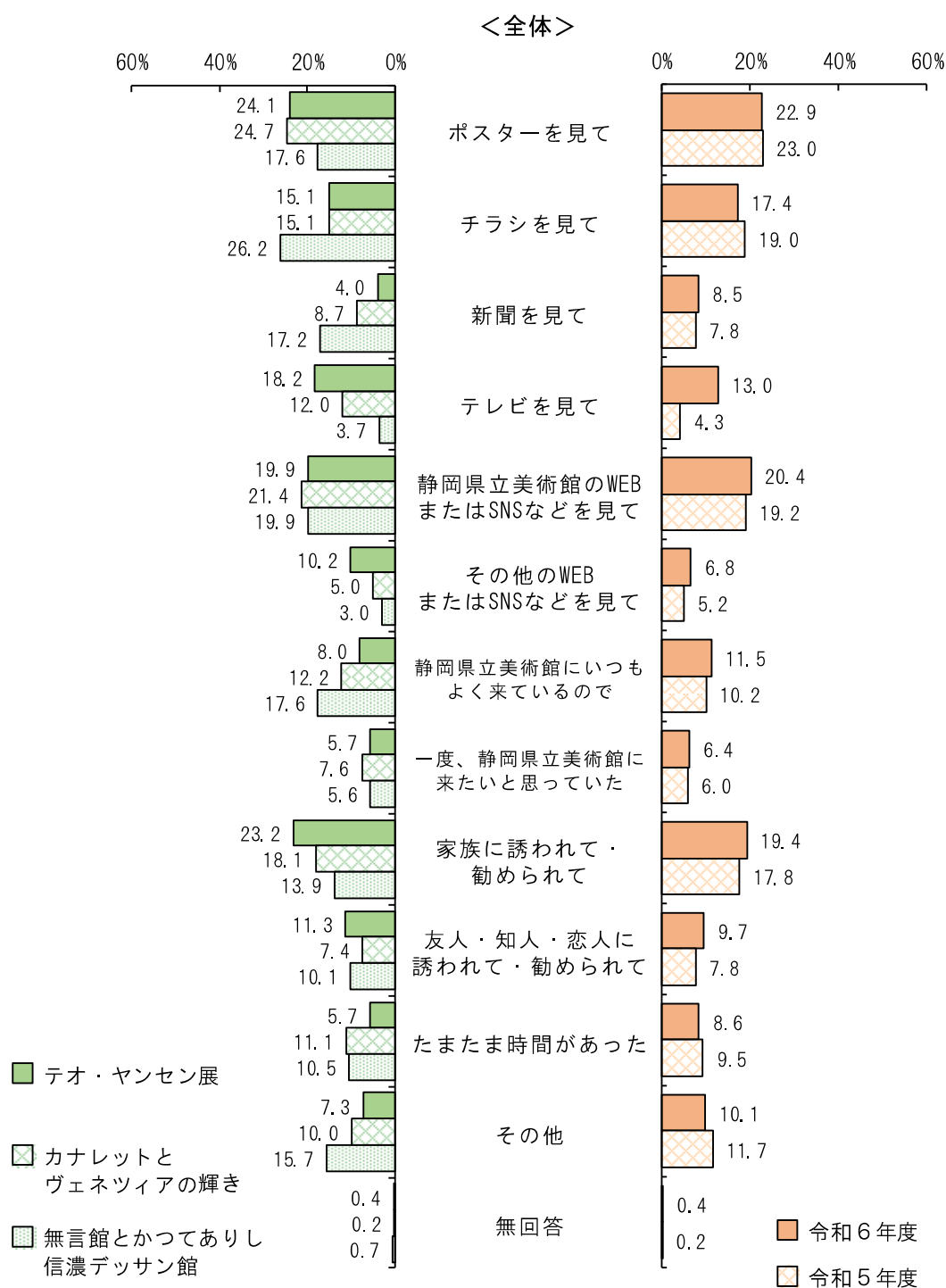
		件数 (件)	ポ ス タ ー を 見 て	チ ラ シ を 見 て	新 聞 を 見 て	テ レ ビ を 見 て	静 岡 県 立 美 術 館 の W E B ま た は S N S な ど を 見 て	そ の 他 の W E B ま た は S N S な ど を 見 て	よ く 来 て い る の で	静 岡 県 立 美 術 館 に い つ も	一 度、 静 岡 県 立 美 術 館 に 来 た い と 思 っ て い た	家 族 に 誘 わ れ て ・ 勧 め ら れ て	誘 わ れ て ・ 知 人 ・ 恋 人 に て	た ま た ま 時 間 が あ つ た	そ の 他	無 回 答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	24.1	15.1	4.0	18.2	19.9	10.2	8.0	5.7	23.2	11.3	5.7	7.3	0.4	
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	24.7	15.1	8.7	12.0	21.4	5.0	12.2	7.6	18.1	7.4	11.1	10.0	0.2	
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	17.6	26.2	17.2	3.7	19.9	3.0	17.6	5.6	13.9	10.1	10.5	15.7	0.7	
経年	令和6年度	1,273	22.9	17.4	8.5	13.0	20.4	6.8	11.5	6.4	19.4	9.7	8.6	10.1	0.4	
	令和5年度	579	23.0	19.0	7.8	4.3	19.2	5.2	10.2	6.0	17.8	7.8	9.5	11.7	0.2	
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	32.0	24.0	5.3	9.3	9.3	8.0	5.3	1.3	10.7	8.0	21.3	13.3	0.0	
	糸で描く物語	268	17.9	15.3	5.2	3.4	19.4	6.3	10.4	7.5	22.4	8.6	9.0	14.2	0.4	
	大大名の名宝	236	25.8	21.6	11.4	3.8	22.0	3.0	11.4	5.9	14.8	6.8	6.4	8.5	0.0	

単位：％

新規来館者

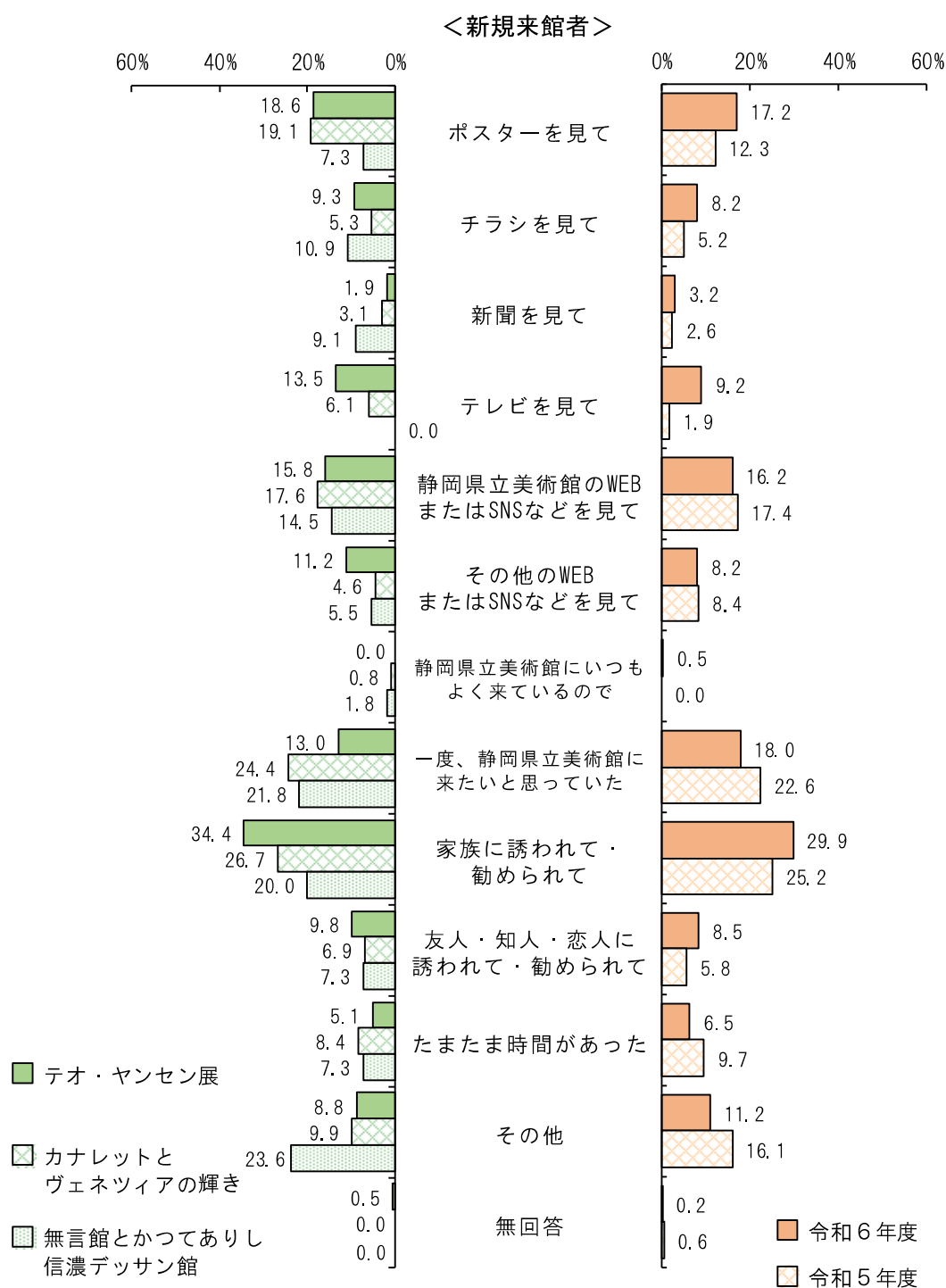
			件数 (件)	ポ ス タ ー を 見 て	チ ラ シ を 見 て	新 聞 を 見 て	テ レ ビ を 見 て	静 岡 県 立 美 術 館 の W E B ま た は S N S な ど を 見 て	そ の 他 の W E B ま た は S N S な ど を 見 て	よ く 来 て い る の で	静 岡 県 立 美 術 館 に い つ も	一 度、 静 岡 県 立 美 術 館 に 来 た い と 思 っ て い た	家 族 に 誘 わ れ て ・ 勧 め ら れ て	友 人 ・ 知 人 ・ 恋 人 に 誘 わ れ て ・ 勧 め ら れ て	た ま た ま 時 間 が あ つ た	そ の 他	無 回 答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	18.6	9.3	1.9	13.5	15.8	11.2	0.0	13.0	34.4	9.8	5.1	8.8	0.5		
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	19.1	5.3	3.1	6.1	17.6	4.6	0.8	24.4	26.7	6.9	8.4	9.9	0.0		
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	7.3	10.9	9.1	0.0	14.5	5.5	1.8	21.8	20.0	7.3	7.3	23.6	0.0		
経年	令和6年度	401	17.2	8.2	3.2	9.2	16.2	8.2	0.5	18.0	29.9	8.5	6.5	11.2	0.2		
	令和5年度	155	12.3	5.2	2.6	1.9	17.4	8.4	0.0	22.6	25.2	5.8	9.7	16.1	0.6		
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	15.4	15.4	38.5	7.7	0.0		
	糸で描く物語	88	6.8	4.5	1.1	1.1	18.2	8.0	0.0	22.7	29.5	3.4	8.0	21.6	1.1		
	大大名の名宝	54	18.5	7.4	5.6	3.7	20.4	7.4	0.0	25.9	20.4	7.4	5.6	9.3	0.0		

単位：％



この展覧会への来館理由について、令和6年度全体では、「ポスターを見て」22.9%が最も高く、以下「静岡県立美術館のWEB またはSNS などを見て」20.4%、「家族に誘われて・勧められて」19.4%、「チラシを見て」17.4%、「静岡県立美術館にいつもよく来ているので」11.5%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「テレビを見て」18.2%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「チラシを見て」26.2%と他の展覧会と比べ高くなっている。



新規来館者の令和6年度全体は、「家族に誘われて・勧められて」29.9%が最も高く、以下「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」18.0%、「ポスターを見て」17.2%、「静岡県立美術館のWEB またはSNS などを見て」16.2%、「その他」11.2%となっている。

展覧会別でみると、『テオ・ヤンセン展』では「家族に誘われて・勧められて」34.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では「その他」23.6%と他の展覧会と比べ高くなっている。

(4) 展覧会への評価

Q4 「風景とロダンの美術館」としての認知度

全体

		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	548	29.7	65.0	5.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	29.3	67.5	3.3
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	22.1	69.3	8.6
経年	令和6年度	1,273	28.0	66.8	5.3
	令和5年度	579	31.4	66.8	1.7
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	32.0	66.7	1.3
	糸で描く物語	268	33.6	64.9	1.5
	大大名の名宝	236	28.8	69.1	2.1

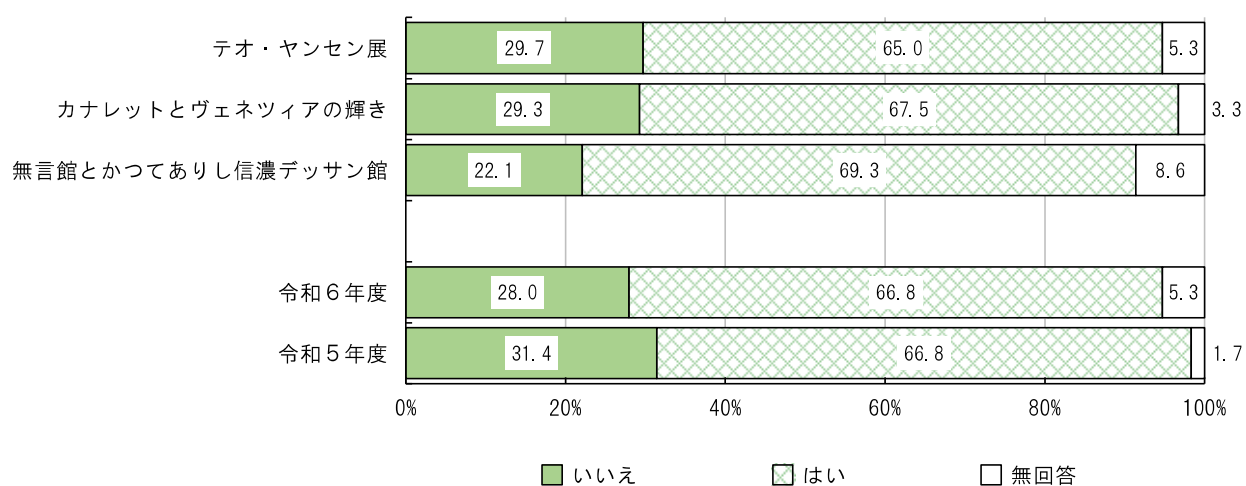
単位：％

新規来館者

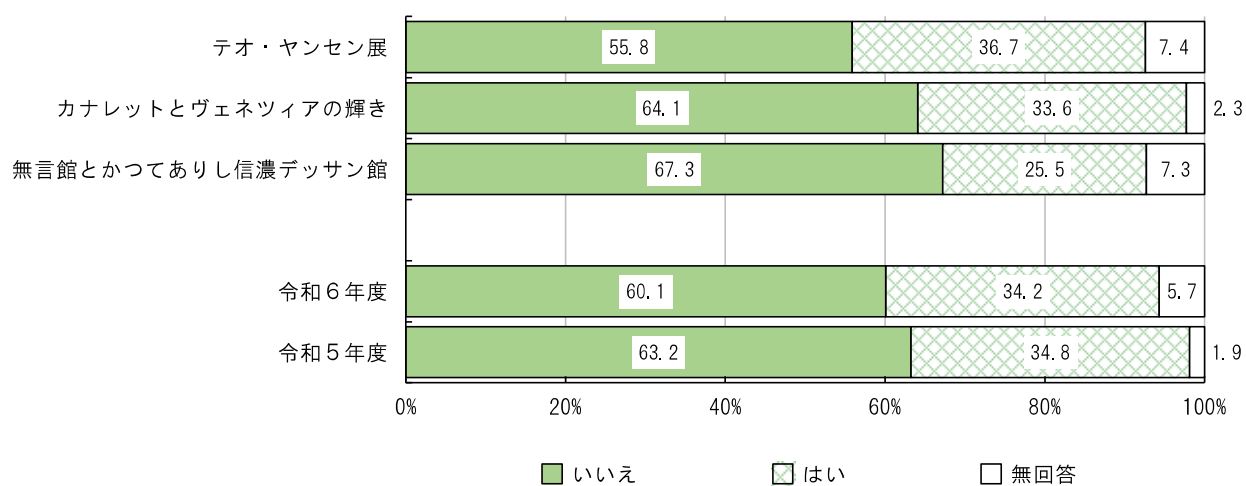
		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和6年度	テオ・ヤンセン展	215	55.8	36.7	7.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	64.1	33.6	2.3
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	67.3	25.5	7.3
経年	令和6年度	401	60.1	34.2	5.7
	令和5年度	155	63.2	34.8	1.9
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	53.8	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	62.5	35.2	2.3
	大大名の名宝	54	66.7	31.5	1.9

単位：％

<全体>



<新規来館者>



「風景とロダンの美術館」としての認知度について、令和6年度全体では、「はい」66.8%、「いいえ」28.0%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「いいえ」60.1%、「はい」34.2%となっている。

Q5① 作品やテーマへの興味・関心の深まり

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	ない どちら でも	どちら はかと い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.2	0.0	3.6	19.3	75.7	1.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	0.2	0.7	3.5	26.2	68.8	0.7
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.4	0.4	1.9	24.0	70.8	2.6
経 年	令和6年度	1,273	0.2	0.3	3.2	22.8	72.2	1.3
	令和5年度	579	1.0	1.0	4.7	26.8	65.3	1.2
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	2.7	0.0	9.3	24.0	60.0	4.0
	糸で描く物語	268	1.1	1.1	3.4	26.5	67.5	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	1.3	4.7	28.0	64.4	1.3

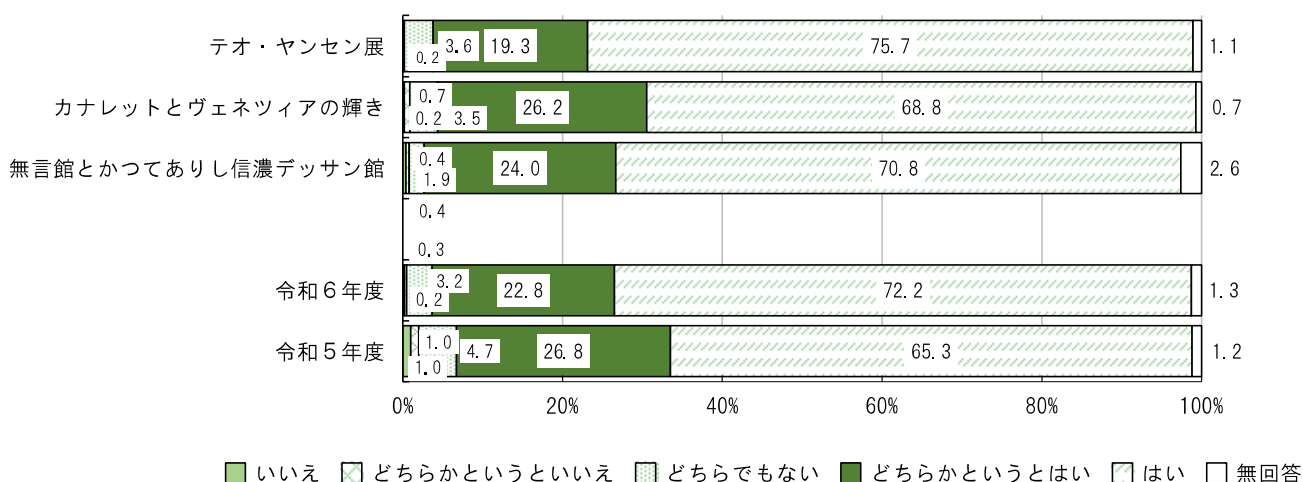
単位：％

新規来館者

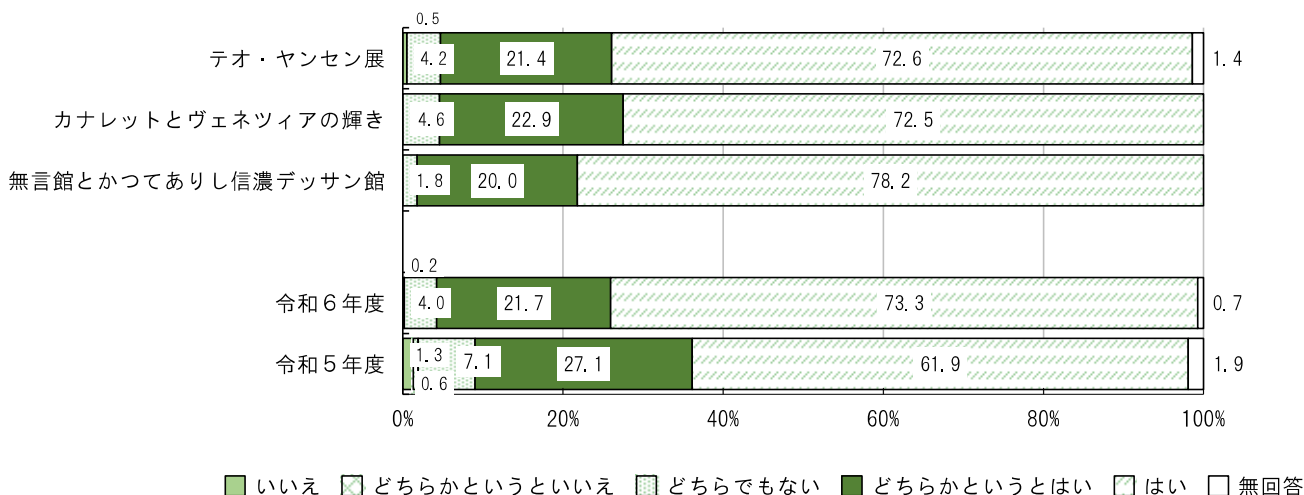
		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	ない どちら でも	どちら はかと い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.5	0.0	4.2	21.4	72.6	1.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	0.0	0.0	4.6	22.9	72.5	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	0.0	0.0	1.8	20.0	78.2	0.0
経 年	令和6年度	401	0.2	0.0	4.0	21.7	73.3	0.7
	令和5年度	155	1.3	0.6	7.1	27.1	61.9	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	23.1	23.1	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	1.1	1.1	2.3	27.3	67.0	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	0.0	11.1	27.8	57.4	3.7

単位：％

<全体>



＜新規来館者＞



作品やテーマへの興味・関心が深まりについて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が95.0%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が0.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が95.1%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が95.0%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が94.8%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が95.0%となっている。一方、否定的評価が0.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が94.0%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が95.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が98.2%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ② 会場における観覧時の心地よさ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.2	1.5	3.6	16.1	77.6	1.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	1.3	0.7	3.1	16.8	77.5	0.7
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.4	0.7	1.9	19.5	75.7	1.9
経 年	令和6年度	1,273	0.6	1.0	3.1	17.0	77.1	1.1
	令和5年度	579	2.1	1.6	3.6	17.8	73.9	1.0
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	5.3	2.7	5.3	21.3	62.7	2.7
	糸で描く物語	268	2.6	0.7	3.7	18.3	74.3	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	2.1	3.0	16.1	77.1	1.3

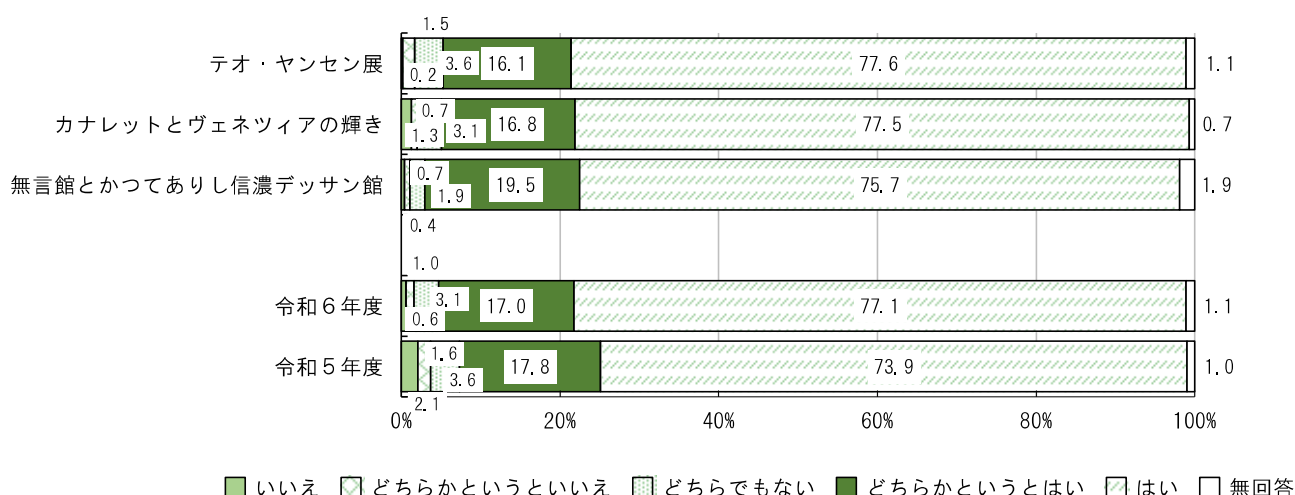
単位：％

新規来館者

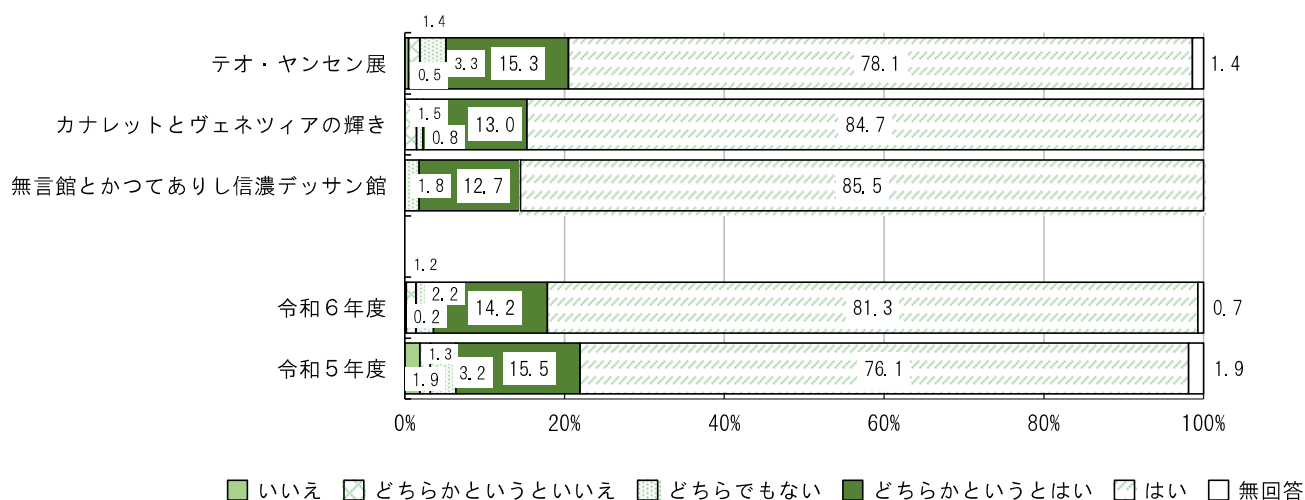
		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.5	1.4	3.3	15.3	78.1	1.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	0.0	1.5	0.8	13.0	84.7	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	0.0	0.0	1.8	12.7	85.5	0.0
経 年	令和6年度	401	0.2	1.2	2.2	14.2	81.3	0.7
	令和5年度	155	1.9	1.3	3.2	15.5	76.1	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	7.7	23.1	61.5	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	0.0	3.4	14.8	78.4	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	3.7	1.9	14.8	75.9	3.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



会場における観覧時の心地よさについて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が94.2%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が1.6%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が93.6%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が94.3%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が95.1%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が95.5%となっている。一方、否定的評価が1.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が93.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が97.7%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が98.2%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ③ スタッフの対応の適切さ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.7	0.4	2.6	13.9	81.4	1.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	0.7	1.1	5.0	18.1	74.2	0.9
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.4	0.0	9.4	15.7	70.8	3.7
経 年	令和6年度	1,273	0.6	0.5	4.9	15.8	76.6	1.6
	令和5年度	579	2.1	1.6	7.3	14.5	73.4	1.2
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	4.0	2.7	8.0	16.0	68.0	1.3
	糸で描く物語	268	2.6	1.1	7.5	13.8	74.3	0.7
	大大名の名宝	236	0.8	1.7	6.8	14.8	74.2	1.7

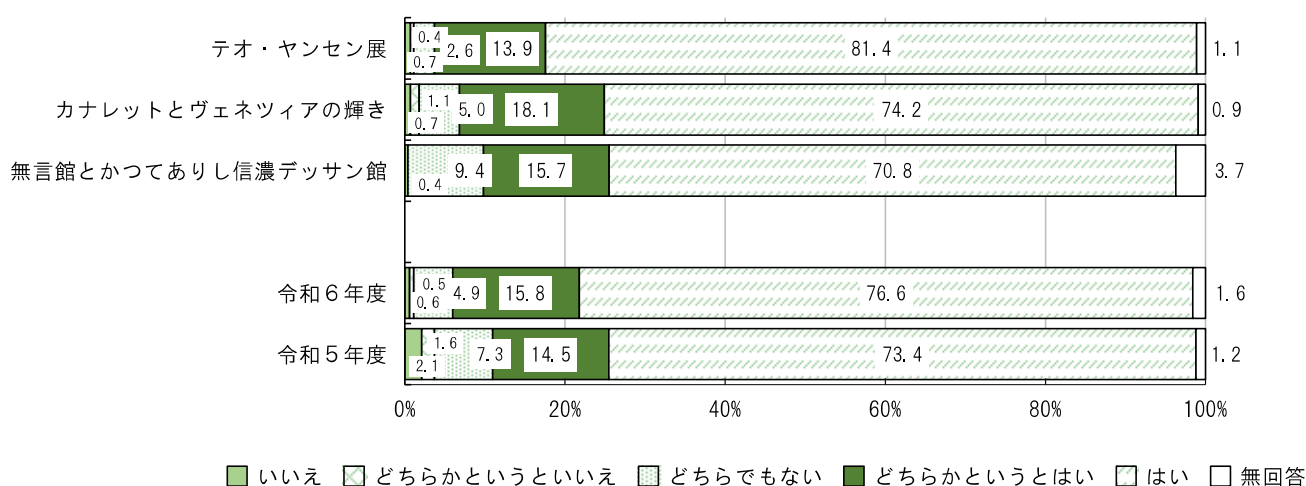
単位：％

新規来館者

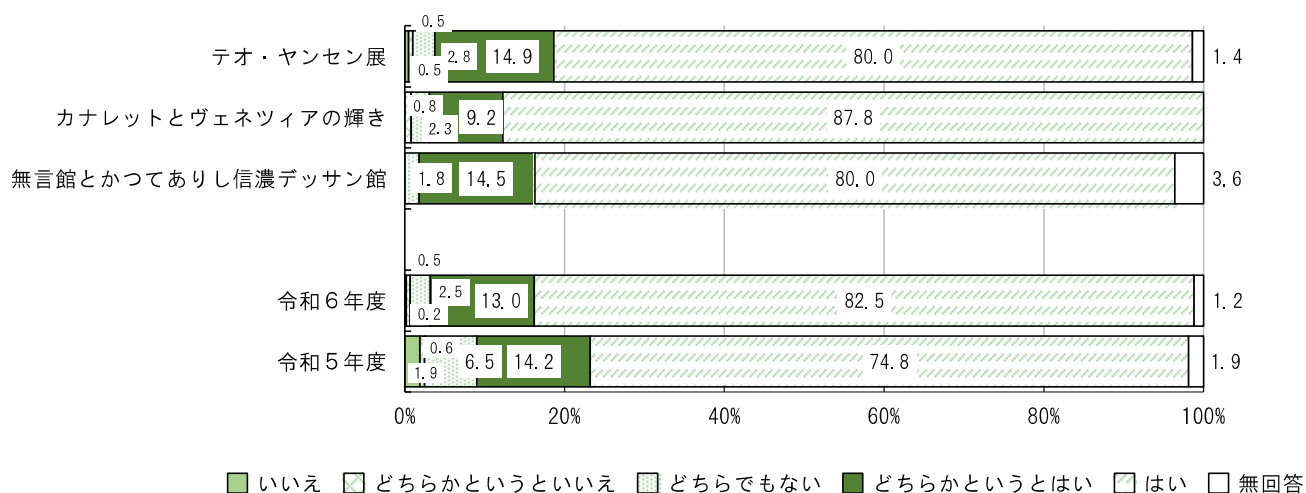
		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.5	0.5	2.8	14.9	80.0	1.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	0.0	0.8	2.3	9.2	87.8	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	0.0	0.0	1.8	14.5	80.0	3.6
経 年	令和6年度	401	0.2	0.5	2.5	13.0	82.5	1.2
	令和5年度	155	1.9	0.6	6.5	14.2	74.8	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	7.7	15.4	69.2	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	1.1	5.7	13.6	75.0	2.3
	大大名の名宝	54	0.0	0.0	7.4	14.8	75.9	1.9

単位：％

<全体>



<新規来館者>



美術館スタッフの対応の適切さについて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が92.4%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が1.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が95.3%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が92.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が86.5%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が95.5%となっている。一方、否定的評価が0.7%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が94.9%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が96.9%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が94.5%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ④ 展覧会のことを勧めたいか

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	ない ちら でも	どちら はか い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.5	0.0	7.7	20.8	69.7	1.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	1.1	0.7	9.4	28.6	59.2	1.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.4	1.5	9.4	22.8	62.9	3.0
経 年	令和6年度	1,273	0.7	0.5	8.6	24.0	64.5	1.6
	令和5年度	579	2.4	0.9	14.2	25.0	56.1	1.4
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	6.7	0.0	17.3	22.7	50.7	2.7
	糸で描く物語	268	3.0	0.7	11.6	24.6	59.7	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	1.3	16.1	26.3	53.8	2.1

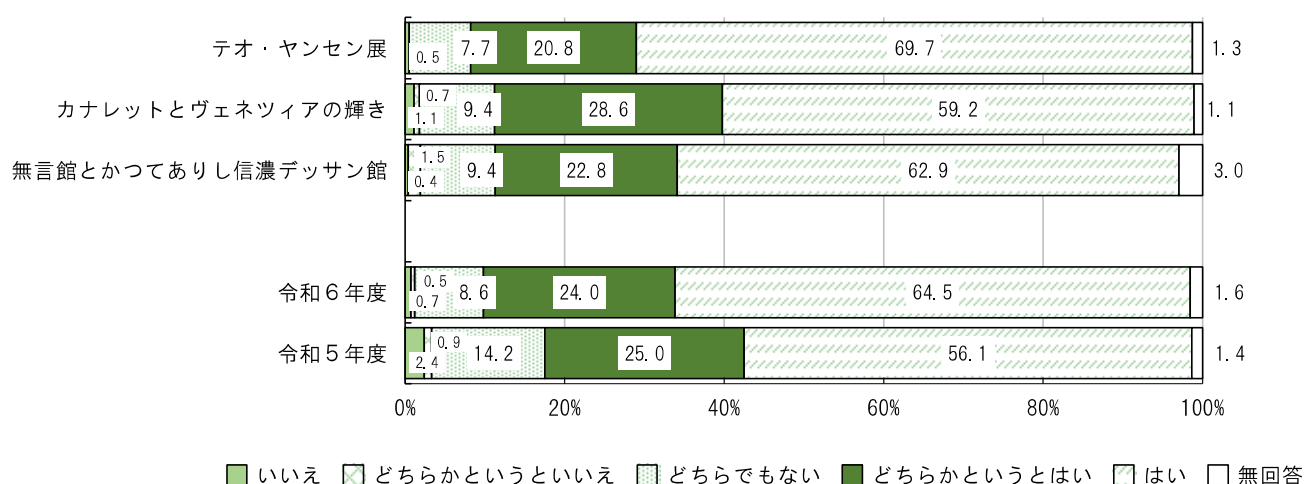
単位：％

新規来館者

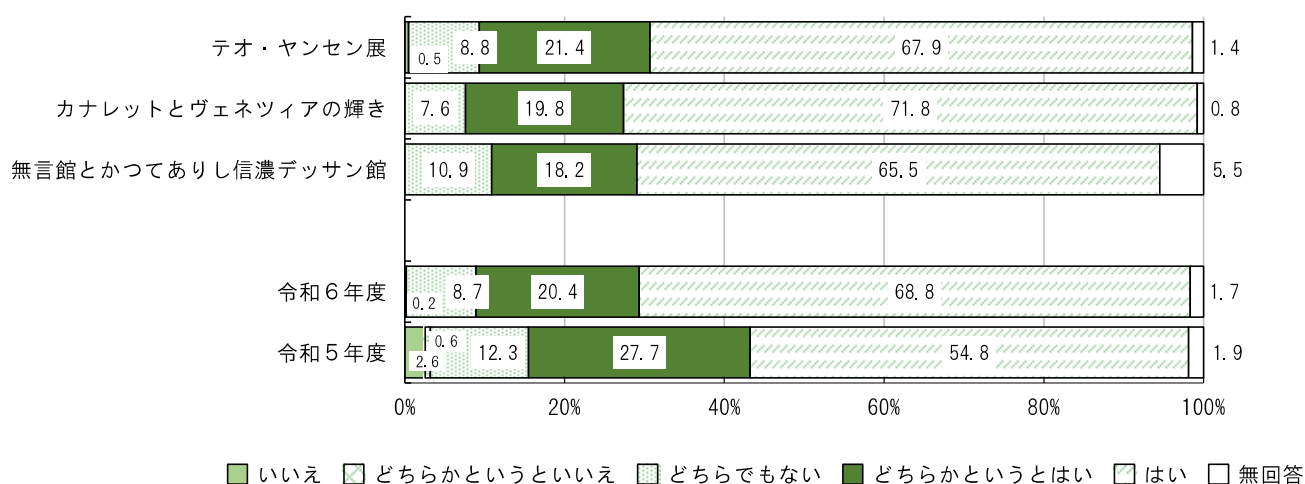
		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	ない ちら でも	どちら はか い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.5	0.0	8.8	21.4	67.9	1.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	0.0	0.0	7.6	19.8	71.8	0.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	0.0	0.0	10.9	18.2	65.5	5.5
経 年	令和6年度	401	0.2	0.0	8.7	20.4	68.8	1.7
	令和5年度	155	2.6	0.6	12.3	27.7	54.8	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	15.4	30.8	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	3.4	0.0	6.8	31.8	56.8	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	1.9	20.4	20.4	53.7	3.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



展覧会の推奨意向ついて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が88.5%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が1.3%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が90.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が87.8%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が85.8%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が89.3%となっている。一方、否定的評価が0.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が89.3%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が91.6%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が83.6%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ⑤ 情報の入手しやすさ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.7	2.4	12.6	26.6	55.8	1.8
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	0.7	1.5	10.0	28.2	57.2	2.4
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.7	6.7	13.1	27.7	45.7	6.0
経 年	令和6年度	1,273	0.7	3.0	11.8	27.4	54.2	2.9
	令和5年度	579	1.7	4.3	13.3	24.7	54.4	1.6
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	2.7	5.3	14.7	21.3	54.7	1.3
	糸で描く物語	268	2.6	2.6	11.9	26.5	56.0	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	5.9	14.4	23.7	52.5	3.0

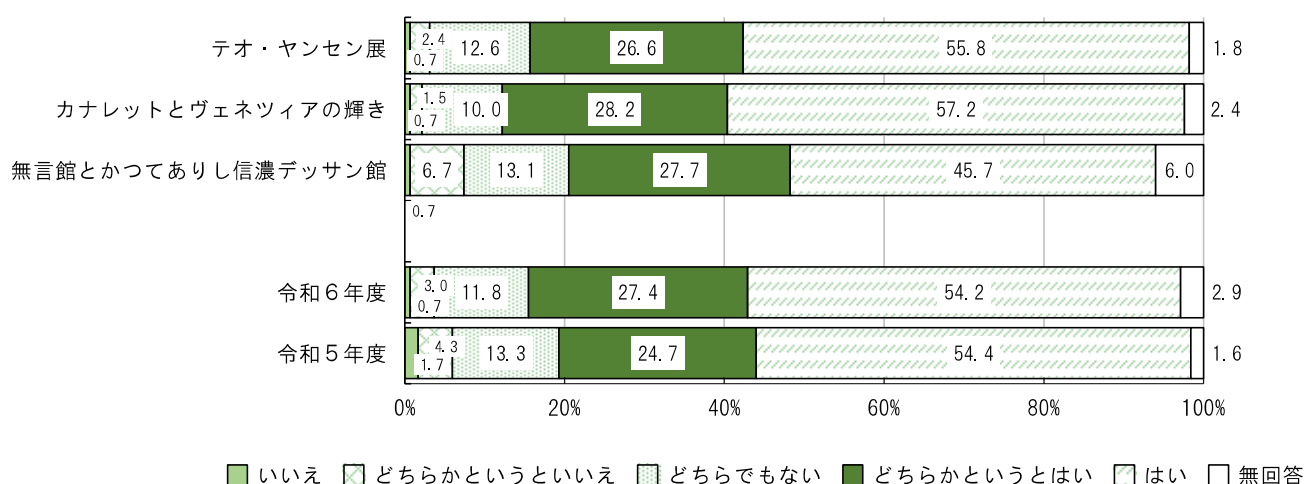
単位：％

新規来館者

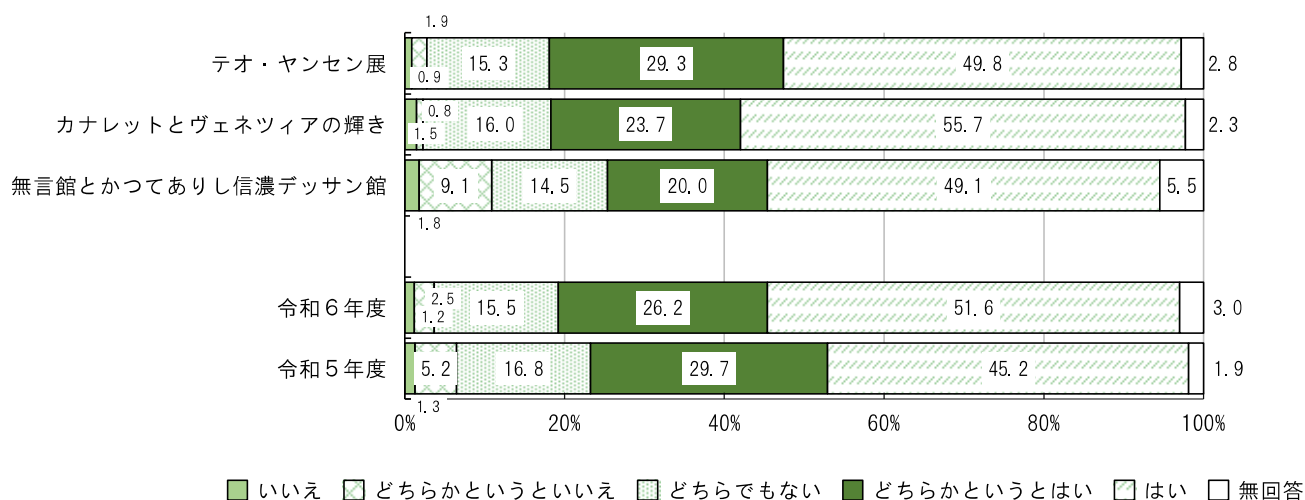
		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.9	1.9	15.3	29.3	49.8	2.8
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	1.5	0.8	16.0	23.7	55.7	2.3
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	1.8	9.1	14.5	20.0	49.1	5.5
経 年	令和6年度	401	1.2	2.5	15.5	26.2	51.6	3.0
	令和5年度	155	1.3	5.2	16.8	29.7	45.2	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	0.0	15.4	23.1	7.7	53.8	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	2.3	12.5	36.4	45.5	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	7.4	22.2	24.1	42.6	3.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



美術館に関する情報の入手しやすさについて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が81.6%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が3.7%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が82.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が85.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が73.4%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が77.8%となっている。一方、否定的評価が3.7%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が79.1%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が79.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が69.1%となっている。

※「どちらかという」と「はい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかという」と「いいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ⑥ 来館の際の主な交通手段

全体

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	12.0	6.4	5.7	1.3	66.1	4.0	4.6
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	14.0	6.8	2.6	0.9	67.5	4.1	4.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	19.1	7.9	5.6	1.5	54.7	5.6	5.6
経 年	令和6年度	1,273	14.2	6.8	4.6	1.2	64.2	4.4	4.6
	令和5年度	579	11.4	6.4	6.0	0.5	66.3	8.1	1.2
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	12.0	8.0	4.0	0.0	68.0	5.3	2.7
	糸で描く物語	268	9.7	9.0	6.3	1.1	63.1	9.7	1.1
	大大名の名宝	236	13.1	3.0	6.4	0.0	69.5	7.2	0.8

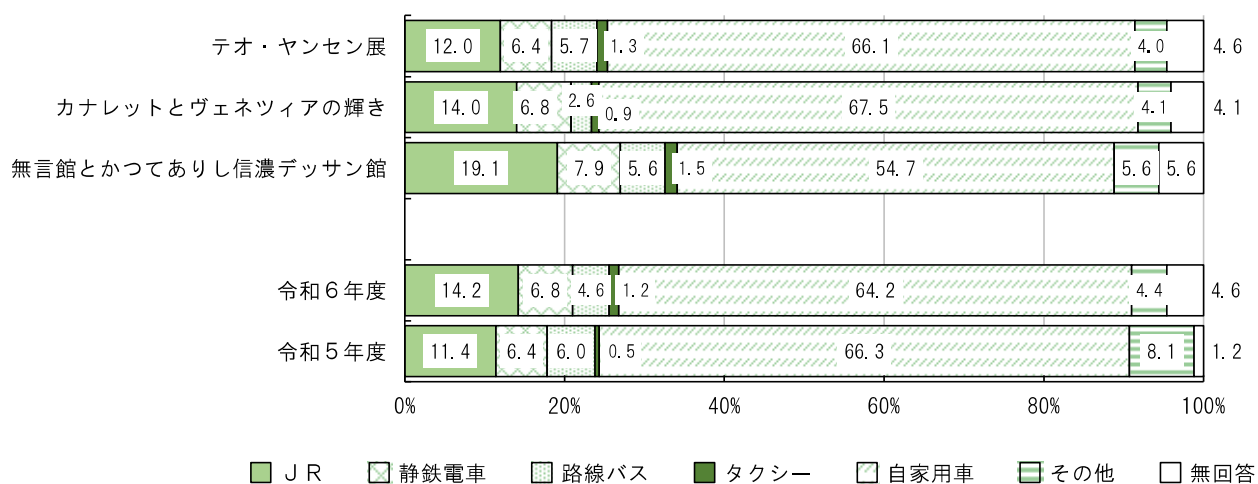
単位：％

新規来館者

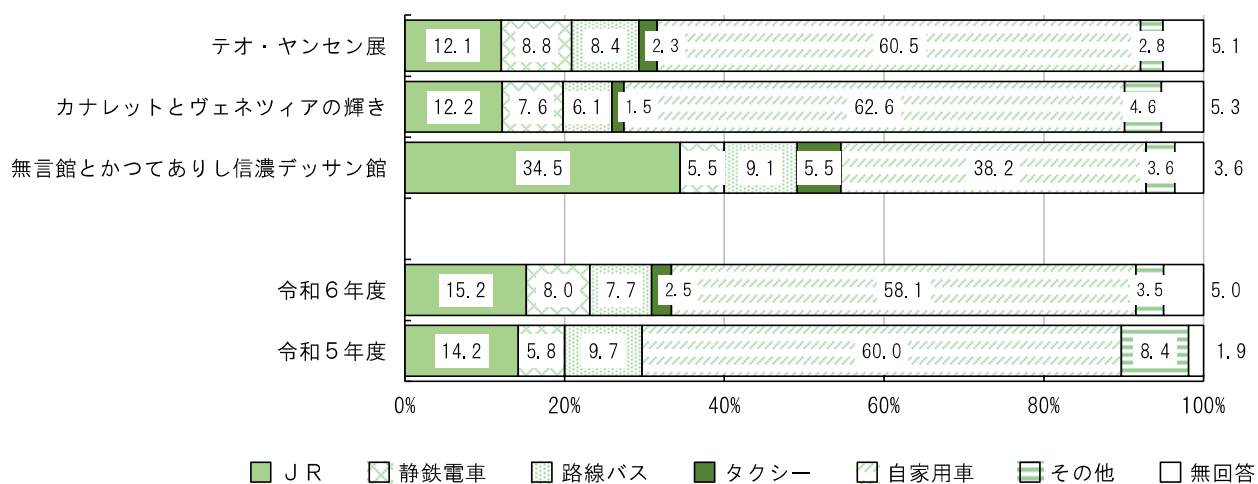
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	12.1	8.8	8.4	2.3	60.5	2.8	5.1
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	12.2	7.6	6.1	1.5	62.6	4.6	5.3
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	34.5	5.5	9.1	5.5	38.2	3.6	3.6
経 年	令和6年度	401	15.2	8.0	7.7	2.5	58.1	3.5	5.0
	令和5年度	155	14.2	5.8	9.7	0.0	60.0	8.4	1.9
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	15.4	15.4	0.0	61.5	0.0	0.0
	糸で描く物語	88	15.9	6.8	6.8	0.0	60.2	9.1	1.1
	大大名の名宝	54	13.0	1.9	13.0	0.0	59.3	9.3	3.7

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館の際の主な交通機関について、令和6年度全体では、「自家用車」64.2%が最も高く、以下「JR」14.2%、「静鉄電車」6.8%、「路線バス」4.6%、「その他」4.4%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「自家用車」58.1%が最も高く、以下「JR」15.2%、「静鉄電車」8.0%、「路線バス」7.7%、「その他」3.5%となっている。

Q 5 ⑦ 交通機関の利用のスムーズさ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	どちら でも	どちら は い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	139	0.7	2.2	12.2	26.6	57.6	0.7
	カナレットとヴェネツィアの輝き	111	2.7	5.4	13.5	23.4	53.2	1.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	91	4.4	4.4	11.0	28.6	48.4	3.3
経 年	令和6年度	341	2.3	3.8	12.3	26.1	53.7	1.8
	令和5年度	141	4.3	9.9	8.5	22.0	52.5	2.8
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	18	0.0	16.7	0.0	33.3	44.4	5.6
	糸で描く物語	70	4.3	5.7	8.6	25.7	51.4	4.3
	大大名の名宝	53	5.7	13.2	11.3	13.2	56.6	0.0

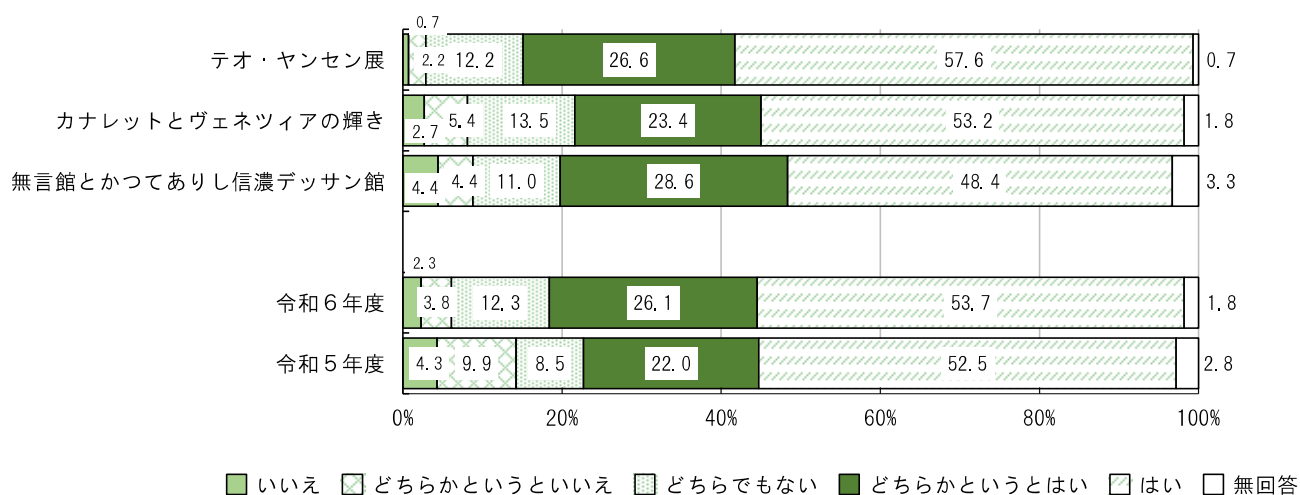
単位：％

新規来館者

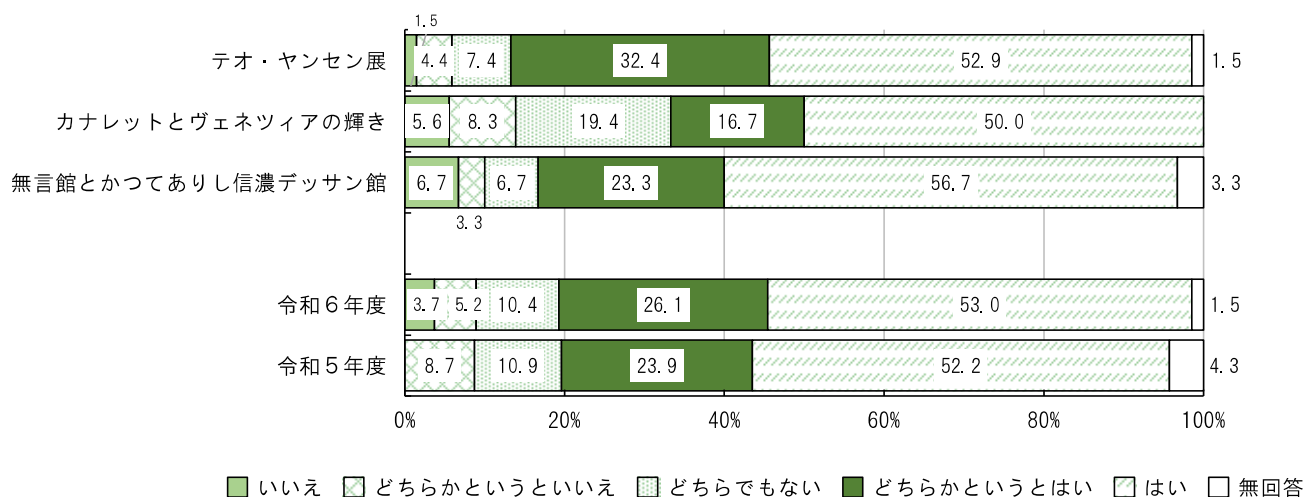
		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	どちら でも	どちら は い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	68	1.5	4.4	7.4	32.4	52.9	1.5
	カナレットとヴェネツィアの輝き	36	5.6	8.3	19.4	16.7	50.0	0.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	30	6.7	3.3	6.7	23.3	56.7	3.3
経 年	令和6年度	134	3.7	5.2	10.4	26.1	53.0	1.5
	令和5年度	46	0.0	8.7	10.9	23.9	52.2	4.3
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	5	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0
	糸で描く物語	26	0.0	3.8	11.5	38.5	42.3	3.8
	大大名の名宝	15	0.0	13.3	13.3	6.7	66.7	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



公共交通機関の利用のスムーズさについて、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が79.8%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が6.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が84.2%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が76.6%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が76.9%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が79.1%となっている。一方、否定的評価が9.0%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が85.3%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が66.7%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が80.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q 5 ⑧ 満足度

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	0.0	0.4	2.4	13.0	81.9	2.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	0.7	0.7	2.2	18.1	75.3	3.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	0.4	0.4	3.0	11.6	81.3	3.4
経 年	令和6年度	1,273	0.3	0.5	2.4	14.5	79.4	2.8
	令和5年度	579	1.7	1.4	4.8	19.9	68.0	4.1
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	4.0	4.0	5.3	22.7	58.7	5.3
	糸で描く物語	268	1.5	1.1	6.0	18.3	70.1	3.0
	大大名の名宝	236	1.3	0.8	3.4	20.8	68.6	5.1

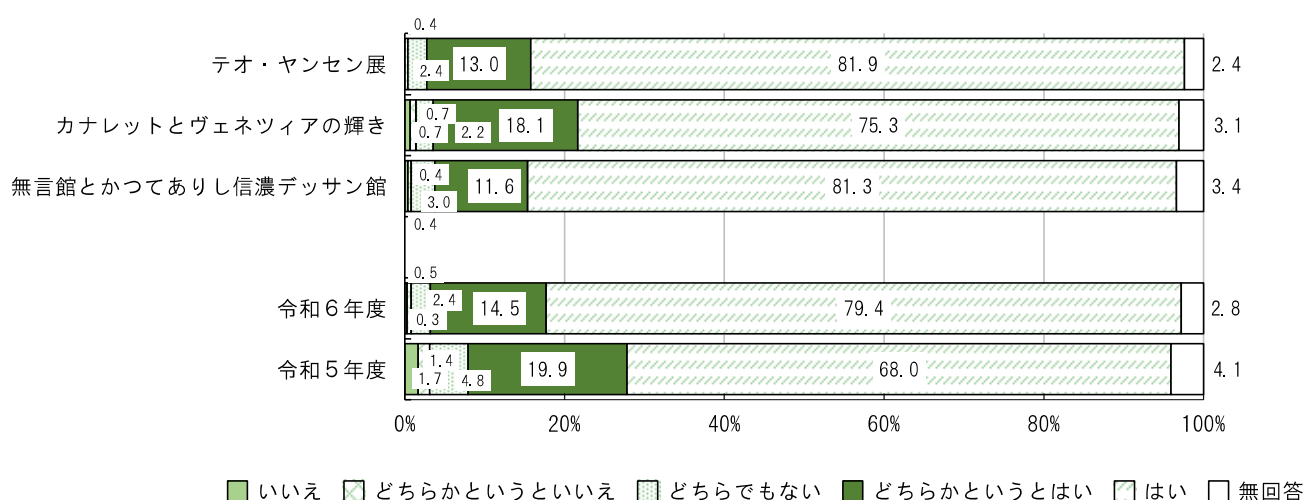
単位：％

新規来館者

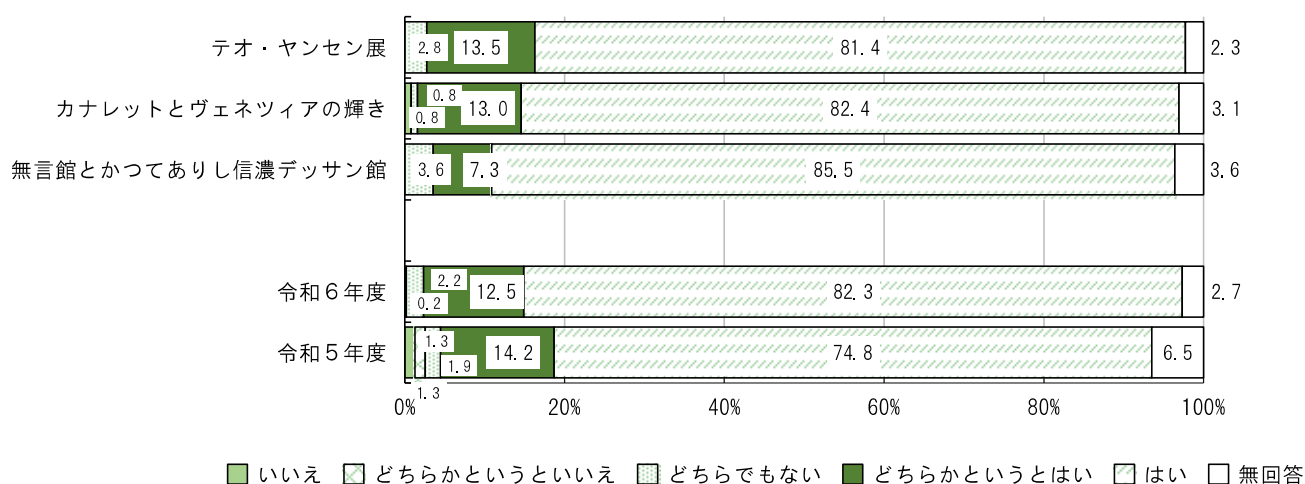
		件数 (件)	いいえ	どちら いか い	ない どちら でも	どちら は か い	はい	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	0.0	0.0	2.8	13.5	81.4	2.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	0.8	0.0	0.8	13.0	82.4	3.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	0.0	0.0	3.6	7.3	85.5	3.6
経 年	令和6年度	401	0.2	0.0	2.2	12.5	82.3	2.7
	令和5年度	155	1.3	1.3	1.9	14.2	74.8	6.5
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	0.0	0.0	7.7	15.4	69.2	7.7
	糸で描く物語	88	1.1	1.1	1.1	15.9	76.1	4.5
	大大名の名宝	54	1.9	1.9	1.9	11.1	74.1	9.3

単位：％

<全体>



<新規来館者>



全体的な満足度について、令和6年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が94.0%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が0.8%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が94.9%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が93.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が92.9%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が94.8%となっている。一方、否定的評価が0.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』が94.9%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』が95.4%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』が92.7%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

5 レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果

Q8① レストランの満足度

全体

		件数 (件)	利用 レストラン	利用 しない	無 回答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	17.0	64.6	18.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	17.7	64.4	17.9
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	23.2	55.8	21.0
経 年	令和6年度	1,273	18.5	62.7	18.8
	令和5年度	579	21.9	59.1	19.0
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	18.7	54.7	26.7
	糸で描く物語	268	21.6	60.1	18.3
	大大名の名宝	236	23.3	59.3	17.4

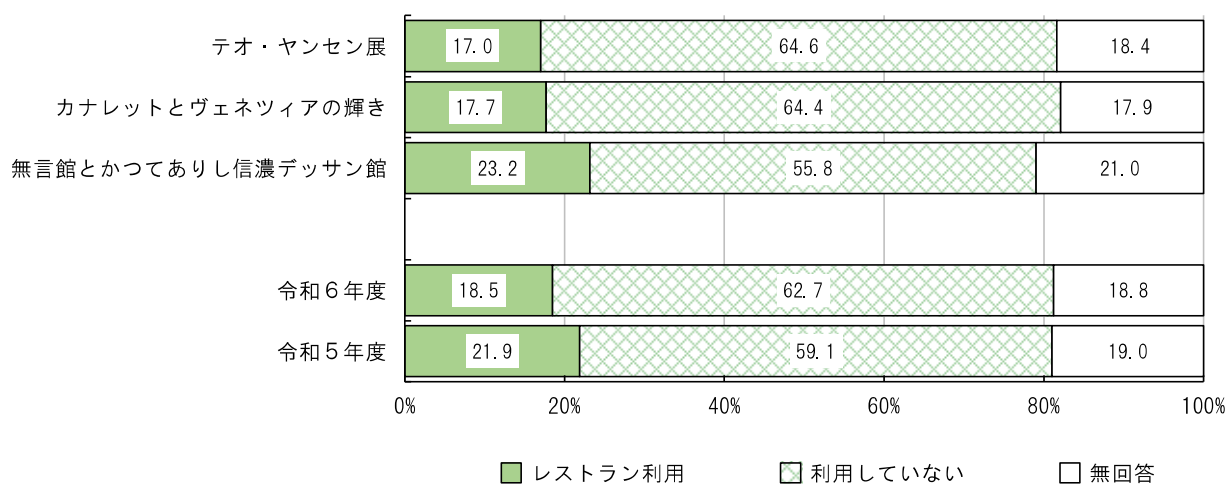
単位：％

新規来館者

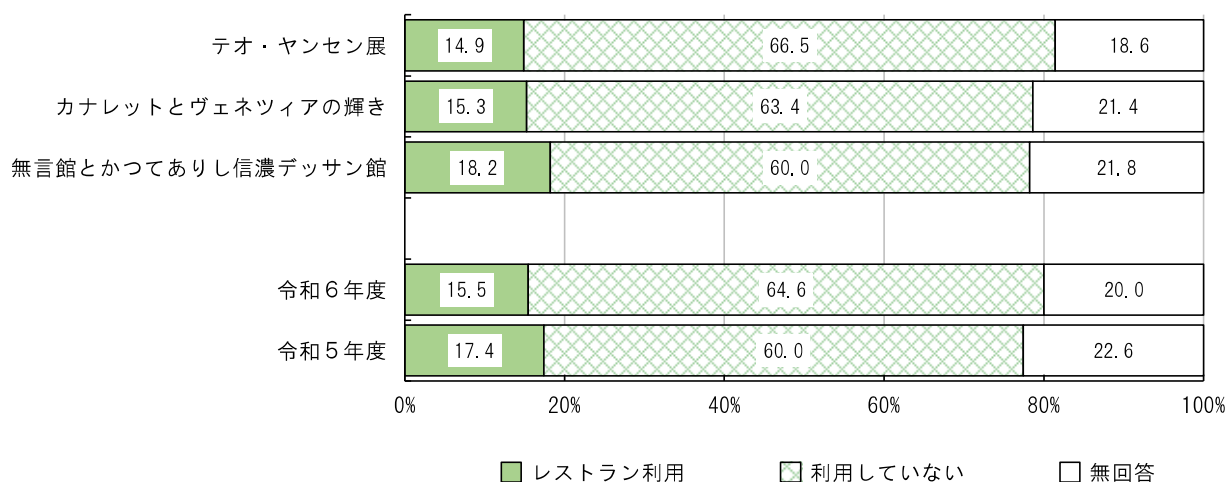
		件数 (件)	利用 レストラン	利用 しない	無 回答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	14.9	66.5	18.6
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	15.3	63.4	21.4
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	18.2	60.0	21.8
経 年	令和6年度	401	15.5	64.6	20.0
	令和5年度	155	17.4	60.0	22.6
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	15.4	53.8	30.8
	糸で描く物語	88	15.9	65.9	18.2
	大大名の名宝	54	20.4	51.9	27.8

単位：％

<全体>



<新規来館者>



レストラン利用の有無について、令和6年度全体では、「レストラン利用」18.5%、「利用していない」62.7%となっている。

展覧会別にみると、「レストラン利用」は『テオ・ヤンセン展』では17.0%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では17.7%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では23.2%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「レストラン利用」15.5%、「利用していない」64.6%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、「レストラン利用」は『テオ・ヤンセン展』では14.9%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では15.3%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では18.2%となっている。

レストランを利用された人の満足度
全体

		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	93	0.0	3.2	28.0	19.4	49.5
	カナレットとヴェネツィアの輝き	81	0.0	1.2	22.2	35.8	40.7
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	62	0.0	1.6	25.8	21.0	51.6
経 年	令和6年度	236	0.0	2.1	25.4	25.4	47.0
	令和5年度	127	1.6	3.9	47.2	15.0	32.3
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	14	0.0	0.0	50.0	7.1	42.9
	糸で描く物語	58	3.4	5.2	50.0	13.8	27.6
	大大名の名宝	55	0.0	3.6	43.6	18.2	34.5

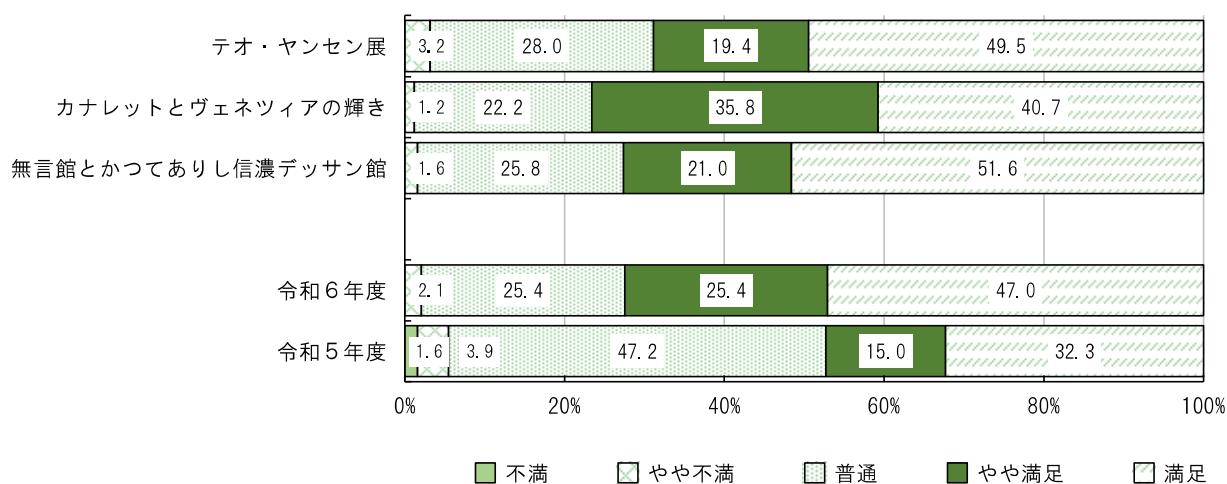
単位：％

新規来館者

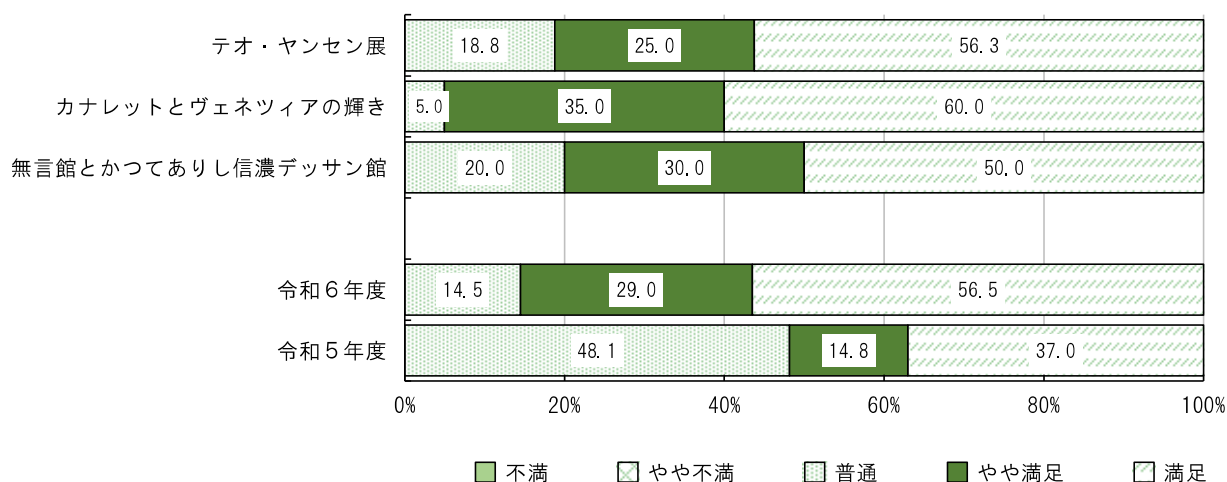
		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	32	0.0	0.0	18.8	25.0	56.3
	カナレットとヴェネツィアの輝き	20	0.0	0.0	5.0	35.0	60.0
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	10	0.0	0.0	20.0	30.0	50.0
経 年	令和6年度	62	0.0	0.0	14.5	29.0	56.5
	令和5年度	27	0.0	0.0	48.1	14.8	37.0
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	糸で描く物語	14	0.0	0.0	42.9	21.4	35.7
	大大名の名宝	11	0.0	0.0	63.6	9.1	27.3

単位：％

<全体>



<新規来館者>



レストランを利用された人の満足度について、令和6年度全体では、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が72.5%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的評価が2.1%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』68.8%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』76.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』72.6%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が85.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』81.3%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』95.0%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』80.0%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「やや不満」と「不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q8② ミュージアム・ショップの満足度

全体

		件数 (件)	シミュ ー ッ プ ジ リ ア 用 ム	い な い 利 用 し て	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	548	60.9	24.1	15.0
	カナレットとヴェネツィアの輝き	458	60.3	24.7	15.1
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	56.9	24.0	19.1
経 年	令和6年度	1,273	59.9	24.3	15.9
	令和5年度	579	54.9	28.8	16.2
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	50.7	26.7	22.7
	糸で描く物語	268	57.8	27.6	14.6
	大大名の名宝	236	53.0	30.9	16.1

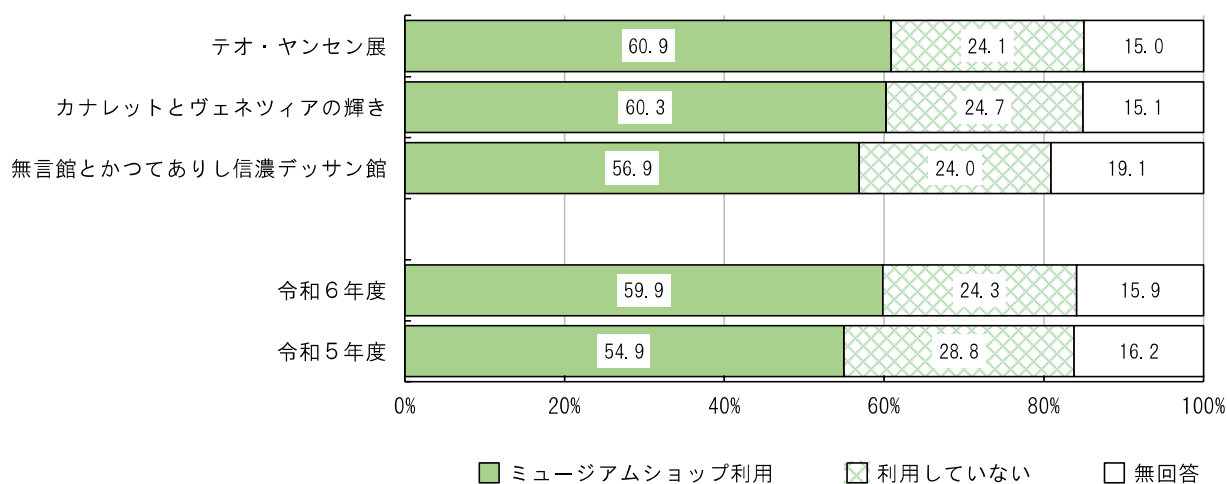
単位：％

新規来館者

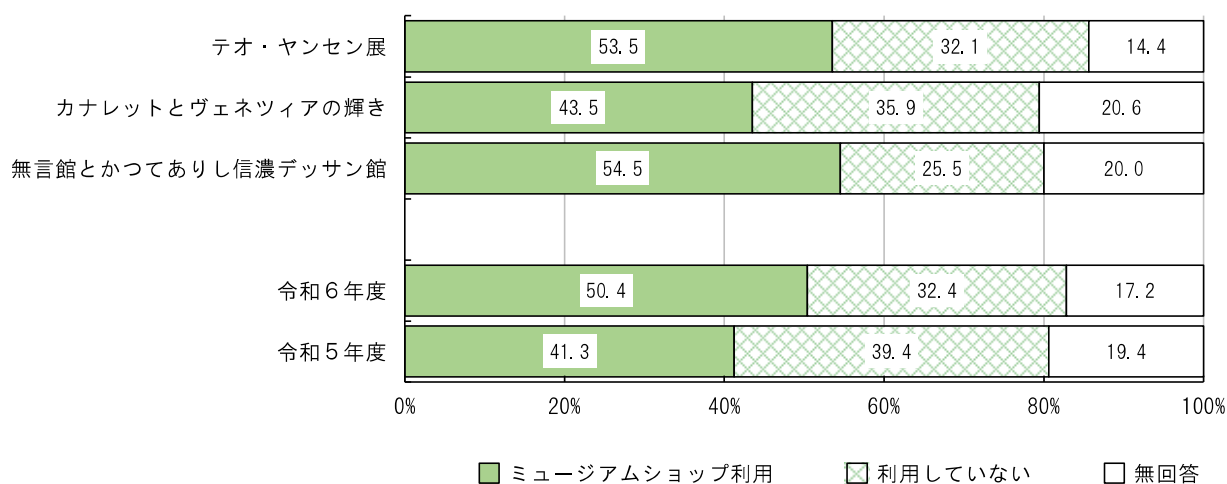
		件数 (件)	シミュ ー ッ プ ジ リ ア 用 ム	い な い 利 用 し て	無 回 答
令和 6 年 度	テオ・ヤンセン展	215	53.5	32.1	14.4
	カナレットとヴェネツィアの輝き	131	43.5	35.9	20.6
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	54.5	25.5	20.0
経 年	令和6年度	401	50.4	32.4	17.2
	令和5年度	155	41.3	39.4	19.4
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	46.2	30.8	23.1
	糸で描く物語	88	43.2	43.2	13.6
	大大名の名宝	54	37.0	35.2	27.8

単位：％

<全体>



<新規来館者>



ミュージアム・ショップ利用の有無について、令和6年度全体では、「ミュージアムショップ利用」59.9%、「利用していない」24.3%となっている。

展覧会別にみると、「ミュージアムショップ利用」は『テオ・ヤンセン展』では60.9%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では60.3%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では56.9%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「ミュージアムショップ利用」50.4%、「利用していない」32.4%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、「ミュージアムショップ利用」は『テオ・ヤンセン展』では53.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では43.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では54.5%となっている。

ミュージアムショップを利用された人の満足度
全体

		件数 (件)	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
令和6年度	テオ・ヤンセン展	334	0.6	0.6	15.3	23.7	59.9
	カナレットとヴェネツィアの輝き	276	0.0	0.0	14.5	29.7	55.8
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	152	0.0	0.7	17.8	21.1	60.5
経年	令和6年度	762	0.3	0.4	15.5	25.3	58.5
	令和5年度	318	0.6	1.9	32.4	20.1	45.0
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	38	5.3	5.3	21.1	21.1	47.4
	糸で描く物語	155	0.0	1.9	34.8	20.0	43.2
	大大名の名宝	125	0.0	0.8	32.8	20.0	46.4

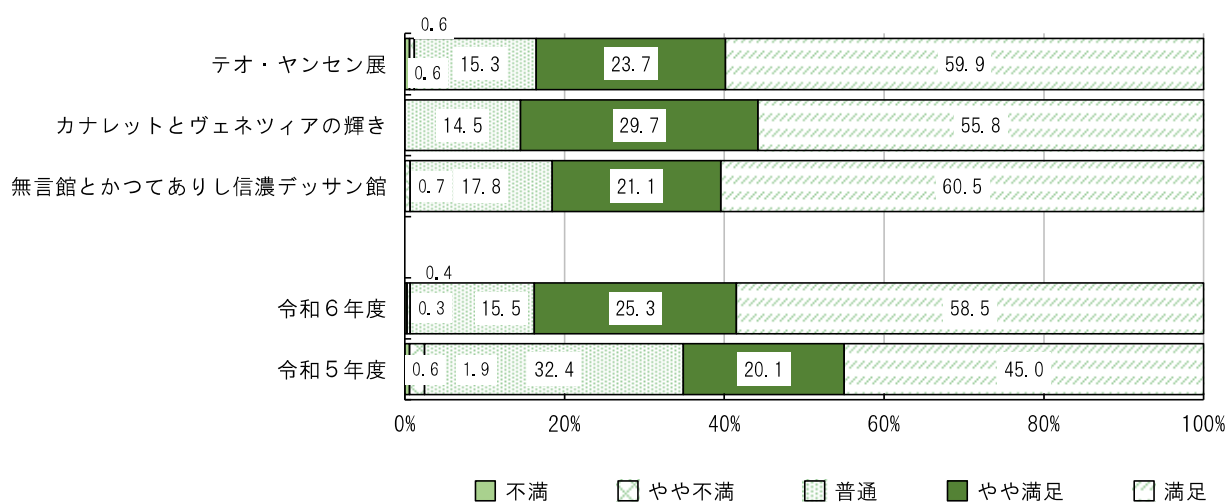
単位：％

新規来館者

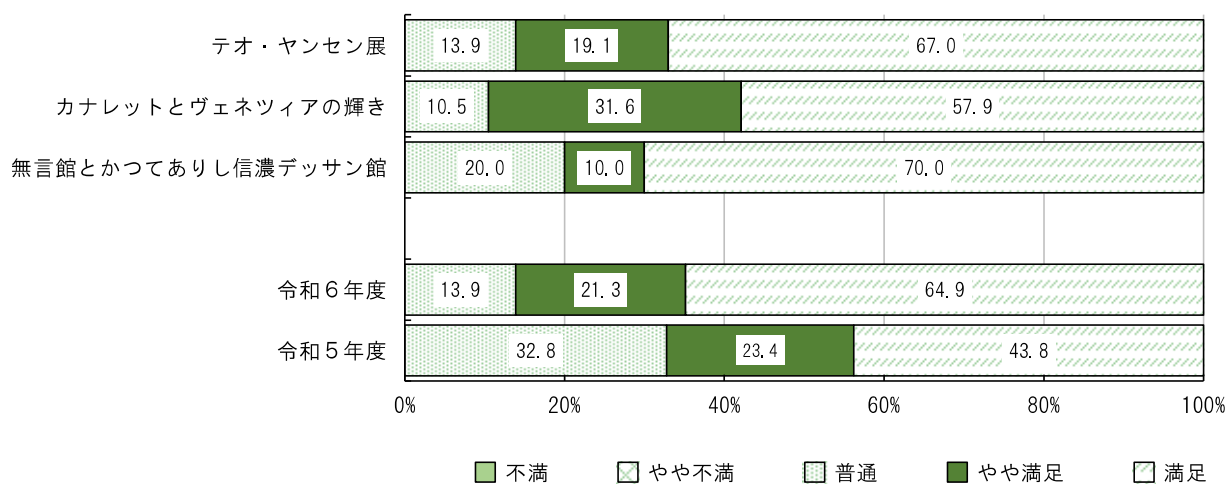
		件数 (件)	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
令和6年度	テオ・ヤンセン展	115	0.0	0.0	13.9	19.1	67.0
	カナレットとヴェネツィアの輝き	57	0.0	0.0	10.5	31.6	57.9
	無言館と、かつてありし信濃デッサン館	30	0.0	0.0	20.0	10.0	70.0
経年	令和6年度	202	0.0	0.0	13.9	21.3	64.9
	令和5年度	64	0.0	0.0	32.8	23.4	43.8
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	6	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3
	糸で描く物語	38	0.0	0.0	31.6	26.3	42.1
	大大名の名宝	20	0.0	0.0	45.0	20.0	35.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



ミュージアムショップを利用された人の満足度について、令和6年度全体では、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が83.9%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的評価が0.7%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』83.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』85.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』81.6%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が86.1%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』86.1%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』89.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』80.0%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「やや不満」と「不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

6 追加設問アンケート結果

Q8③ 情報コーナーの満足度

全体

	件数 (件)	情報 利用 コー ナー	利用 しない	無 回 答
テオ・ヤンセン展	548	49.5	34.7	15.9
カナレットとヴェネツィアの輝き	458	52.2	31.4	16.4
無言館と、かつてありし信濃デッサン館	267	54.3	24.0	21.7
令和6年度 全体	1,273	51.5	31.3	17.3

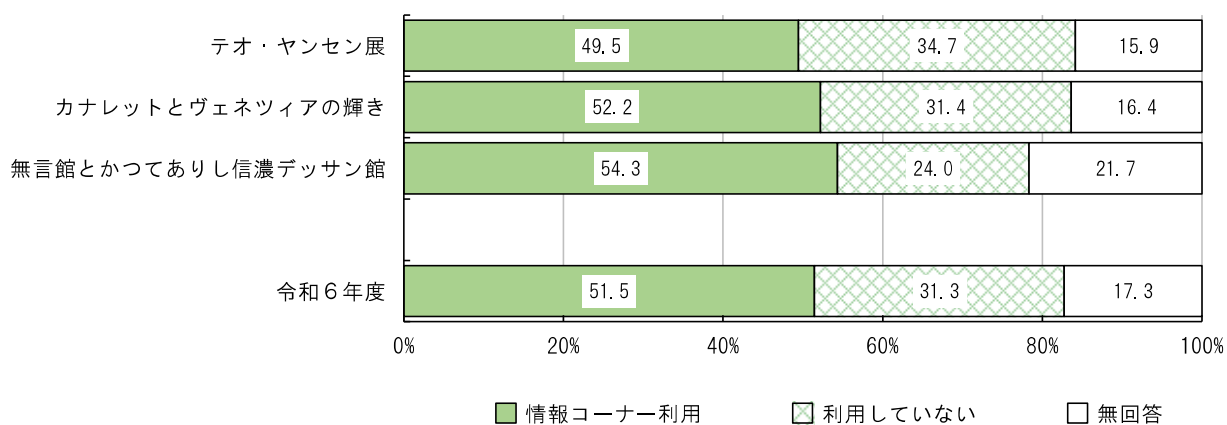
単位：％

新規来館者

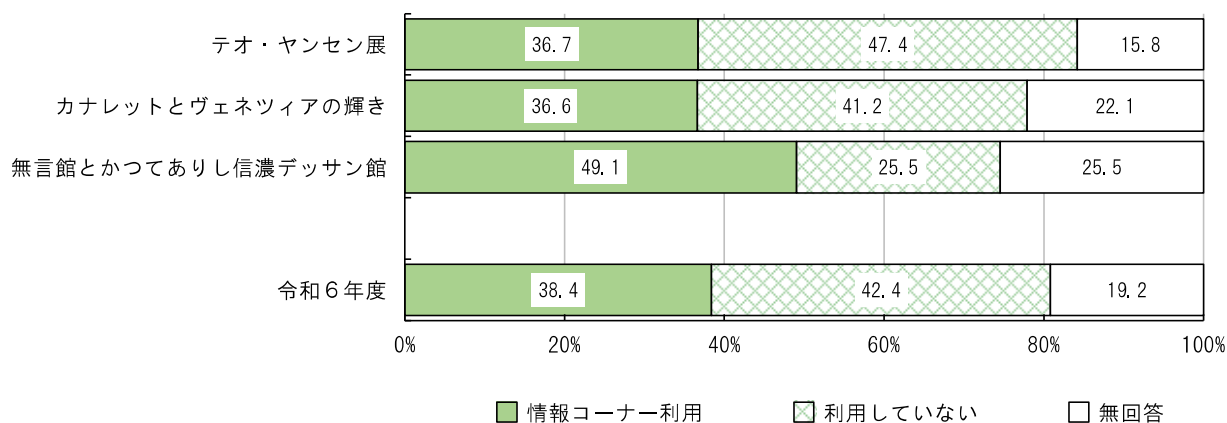
	件数 (件)	情報 利用 コー ナー	利用 しない	無 回 答
テオ・ヤンセン展	215	36.7	47.4	15.8
カナレットとヴェネツィアの輝き	131	36.6	41.2	22.1
無言館と、かつてありし信濃デッサン館	55	49.1	25.5	25.5
令和6年度 全体	401	38.4	42.4	19.2

単位：％

<全体>



<新規来館者>



情報コーナー利用の有無について、令和6年度全体では、「情報コーナー利用」51.5%、「利用していない」31.3%となっている。

展覧会別にみると、「情報コーナー利用」は『テオ・ヤンセン展』では49.5%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では52.2%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では54.3%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、「情報コーナー利用」38.4%、「利用していない」42.4%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、「情報コーナー利用」は『テオ・ヤンセン展』では36.7%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』では36.6%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』では49.1%となっている。

情報コーナーを利用された人の満足度
全体

	件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
テオ・ヤンセン展	271	0.0	1.5	25.1	21.4	52.0
カナレットとヴェネツィアの輝き	239	0.0	0.4	18.4	25.9	55.2
無言館と、かつてありし信濃デッサン館	145	0.0	2.1	19.3	18.6	60.0
令和6年度 全体	655	0.0	1.2	21.4	22.4	55.0

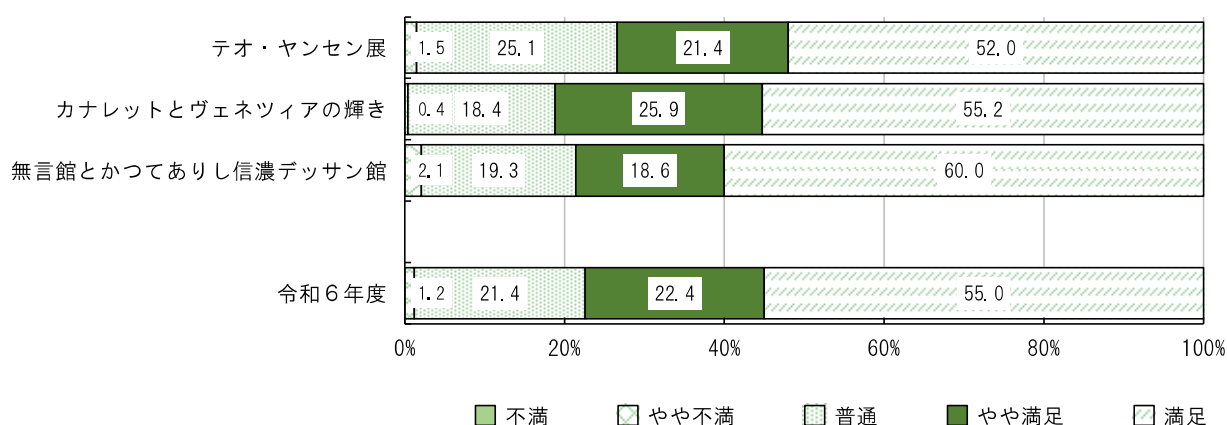
単位：％

新規来館者

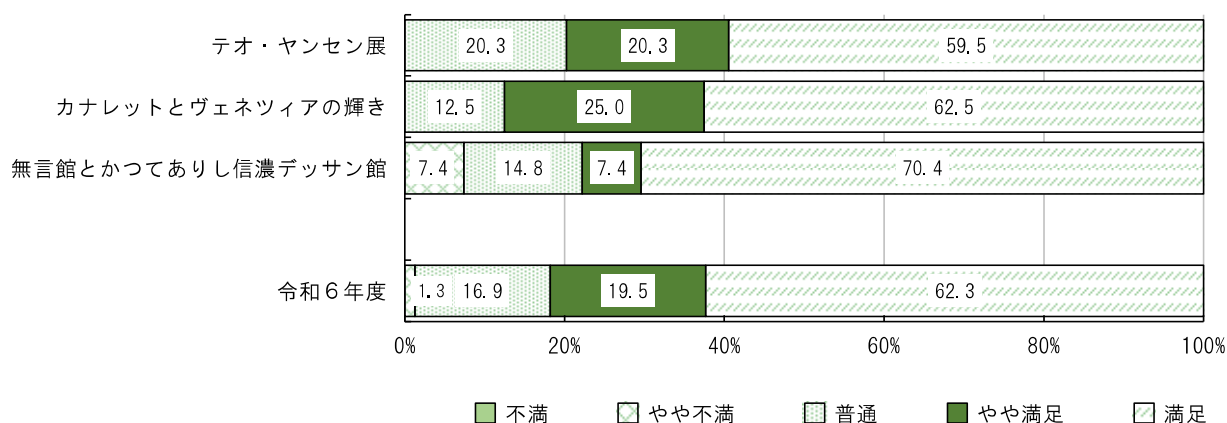
	件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
テオ・ヤンセン展	79	0.0	0.0	20.3	20.3	59.5
カナレットとヴェネツィアの輝き	48	0.0	0.0	12.5	25.0	62.5
無言館と、かつてありし信濃デッサン館	27	0.0	7.4	14.8	7.4	70.4
令和6年度 全体	154	0.0	1.3	16.9	19.5	62.3

単位：％

<全体>



<新規来館者>



情報コーナーを利用された人の満足度について、令和6年度全体では、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が77.4%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的評価が1.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』73.4%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』81.2%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』78.6%となっている。

新規来館者の令和6年度全体は、肯定的評価が81.8%となっている。一方、否定的評価が1.3%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『テオ・ヤンセン展』79.7%、『カナレットとヴェネツィアの輝き』87.5%、『無言館とかつてありし信濃デッサン館』77.8%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「やや不満」と「不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

7 自由意見

Q6 この展覧会または当美術館へのご意見等

この展覧会または当美術館へのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、506 件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
テオ・ヤンセン展	103	12	9	7	7	1	7	1	0	18	15	11	16	8	7
カナレットとヴェネツィアの輝き	54	6	2	2	14	0	6	3	4	22	13	13	8	13	12
無言館とかつてありし信濃デッサン館	58	5	3	3	4	0	0	1	2	15	8	3	3	4	3
全体	215	23	14	12	25	1	13	5	6	55	36	27	27	25	22

単位：件

< A 感想 >

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
どうして動くのかを考えたりするのが楽しかった。写真も撮れた。	男性	12 歳以下
楽しかった。	男性	12 歳以下
動くビーストが迫力があって楽しかった。版画がきれいにできたのでうれしかったし、絵がきれい だった。	男性	12 歳以下
しっぽをふるやつがおもしろかった。	男性	12 歳以下
とても楽しかったです。	男性	12 歳以下
テオ・ヤンセンの動くところがすごいです。	男性	12 歳以下
動くのが見れて良かった。	男性	12 歳以下
女の子が母の手を引いて「こわい」と言っていたのが、生き物としての実感を確保しました。	男性	13～19 歳
20 年ぶりに来ましたが、とても感動しました。	男性	20 歳代
動体展示、その際の説明がすばらしかった。	男性	30 歳代
今日は楽しかったです。	男性	30 歳代
とても来て良かったです。	男性	40 歳代
テオ・ヤンセンを一度見てみたいと思っていたので、感動！	男性	40 歳代
リ・アニメーションがすばらしかった。	男性	40 歳代
隣の県（愛知）から来たかいました。	男性	40 歳代
今回、フリートーク（ひとりで来てしまいましたが）を企画してもらい、うれしかったです。スタッフの方と話すことができました。	男性	50 歳代

内容	性別	年代
見に来て良かったです。	男性	50 歳代
楽しかったです。	男性	50 歳代
活動については日曜美術館で拝見しましたが、日本ではあまり知られていないテオ・ヤンセン氏の個展が当館で行われていたことはすばらしいと思います。	男性	60 歳代
SDGs への関心が高まる中、タイムリーな企画でした。	男性	60 歳代
実演があったのでとても良かったです。	男性	60 歳代
楽しく鑑賞させてもらいました。	男性	60 歳代
もっと動くところを長時間見たかった。	男性	60 歳代
とても良かったです。	男性	60 歳代
実際に動いたのが見れて楽しかった。	女性	12 歳以下
実際に動いたのが見れて楽しかった。	女性	12 歳以下
すごく楽しかったです。絵の参考になりました。	女性	12 歳以下
勉強になった。作品の内容がわかった。	女性	12 歳以下
とても楽しかったです。	女性	12 歳以下
楽しかったです。	女性	12 歳以下
おもしろかったです。動かしてくれてありがとう。	女性	12 歳以下
また来たいです。	女性	12 歳以下
テオ・ヤンセン氏の動物たちが動くところを近くで見れて楽しかったです。	女性	12 歳以下
独特な世界観でおもしろかった。	女性	12 歳以下
ありがとう。	女性	12 歳以下
すごかった。また来たい。	女性	12 歳以下
おもしろかった。また来たい。	女性	12 歳以下
楽しかったです。	女性	12 歳以下
また来たいです。	女性	13～19 歳
とても興味深い内容でした。	女性	13～19 歳
ビーストを動かすことができてうれしかったです。久しぶりに県美に来ました。	女性	13～19 歳
とっても子どもでも見やすくてよかったです。	女性	13～19 歳
おもしろかった。	女性	13～19 歳
とってもおもしろかったです。	女性	20 歳代
子どもと一緒に楽しめる展覧会で、とても良かったです。	女性	20 歳代
今日のテオ・ヤンセン展は、映像と風の動きがおもしろかったです。次回の展覧会も楽しみです。	女性	20 歳代
テオ・ヤンセンの思考・思想は天才のそれだと感じました。実際、動くところを見れたのはおもしろかったです。	女性	20 歳代
テオ・ヤンセン展で実際に動くところが見られたり、自分で動かすことができたのが、とても良かったです。	女性	20 歳代

内容	性別	年代
実際に動いたり、自分で動かして、大変興味深かった。斬新な展示で良かった。	女性	20 歳代
展示会、とても楽しかった。	女性	20 歳代
り・アニメーションに立ち会うことができ感動しました。	女性	20 歳代
実際に動いているシーンが見れて、とても楽しかったです。	女性	20 歳代
テオ・ヤンセンの展示会を企画した方、センス良すぎます。	女性	30 歳代
体験できたり、動いているところが見れて良かった。	女性	30 歳代
また来たいです。	女性	30 歳代
体験できるものが多く、とても楽しめた。都内だこういった展示はできないと思う。	女性	30 歳代
動かして良かったです。生で見るとなお良かったです。	女性	30 歳代
実際に作品を動かして楽しめました。	女性	30 歳代
テオ・ヤンセンの作品が動いているのを見られて良かったです。	女性	30 歳代
楽しかったです。また来ます。	女性	30 歳代
動かして楽しかったです。	女性	30 歳代
とても素敵な展示をゆっくりと楽しめました。ありがとうございます。	女性	30 歳代
テオ・ヤンセンが見られて良かったです。展示もゆったりしていて見やすいです。	女性	30 歳代
テオ・ヤンセンの映像だけでなく、野外での実演を期待していた。	女性	40 歳代
テオ・ヤンセンさんの美術が素敵で子どもたちと楽しめました。	女性	40 歳代
とても見やすい展示でした。	女性	40 歳代
おもしろかったです。	女性	40 歳代
子どもも楽しめ、説明もよく、わかり良かった。	女性	40 歳代
ビーストが実際に動く姿が見られて良かったです。	女性	40 歳代
昨年の千葉でのテオ・ヤンセン展を逃したので、地元で見られて、とても幸せ！新収蔵作品も良かった。	女性	40 歳代
実演や映像も多く、鑑賞の助けとなりました。迫力のある作品を間近に見られて楽しかったです。	女性	40 歳代
子どもが楽しく見られ、良かったです。	女性	40 歳代
テオ・ヤンセン展、楽しかったです。	女性	40 歳代
動いているのが見れて良かった。	女性	40 歳代
見応えがあった。	女性	40 歳代
動く映像が見れたり、実物を動かすのが見れたり、自分で動かせたり、楽しかったです。	女性	40 歳代
動いているのがやはり面白いものなんだというのがわかった。	女性	40 歳代
楽しかった。	女性	40 歳代
おもしろかったです。	女性	40 歳代
見やすい。落ち着いて観覧できる。	女性	40 歳代
部屋ギリギリ入るような展示で、ビーストの大きさが感じられて良かった。	女性	50 歳代
屋外での展示（テオ・ヤンセンのイベント？）が良かった。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
おもしろかったです。ありがとうございました。	女性	50 歳代
作品を自分の手でさわれたのが良かった。	女性	50 歳代
実際に動かすことができて、おもしろかったです。	女性	50 歳代
ありがとうございました。	女性	50 歳代
実演がとても楽しかったです。	女性	50 歳代
実際にビーストが動く様子がわかって楽しかったです。	女性	50 歳代
地元でこんなに素晴らしい作品に出合えるのがうれしいです。	女性	60 歳代
テオ・ヤンセンの作品を直で見ることができて、とてもうれしいです。	女性	60 歳代
大人も子どもも体験できるのが楽しい。	女性	60 歳代
動くのが（10：30の回）見られて良かった。動かすこともさせてもらいました。	女性	60 歳代
とても楽しかった。会話が許され、カメラが使えたのが良かった。	女性	60 歳代
是非来たいと思っていたので、とても満足です。	女性	60 歳代
ずいぶん前ですが、テレビでテオ・ヤンセンのストランドビーストを見たことがあり、実際にビーストを生で、さらに動くところを見れたり、自分で動かしたりでき、来てすごく良かったです。	女性	60 歳代
立体を魅力的に展示していて、すばらしい。	女性	60 歳代
とても興味があり来たかった展覧会でしたので、間に合って良かった。	女性	60 歳代
リ・アニメーションが良かった。	女性	60 歳代
楽しい展示でした。	女性	60 歳代
久しぶりにうれしい展覧会でした。	女性	70 歳以上
とてもおもしろかったです。	女性	70 歳以上
テオ・ヤンセンのストランドビーストがおもしろかった。	無回答	12 歳以下
地獄の門とテオ・ヤンセン作品と一緒に見られるのがうれしかったです。	無回答	無回答
カナレットとヴェネツィアの輝き		
ヴェネツィアについて知れた。Movie 良かった。カナレットの絵の理解が深まった。	男性	20 歳代
楽しかったです。	男性	20 歳代
ヴェネツィアに訪れたような気分になれる素敵な展覧会でした。	男性	20 歳代
大変すばらしい展示で、心がすがすがしくなりました。	男性	30 歳代
カナレット目的でしたが、ピラネージ、ロダンと予想外の収穫がありました。	男性	30 歳代
美術品の数が多く、とても興味深かったです。	男性	30 歳代
ヴェネツィアの水の表現が美しかった。	男性	30 歳代
展示内容に大満足です。	男性	30 歳代
見やすかった。	男性	50 歳代
良いと思います。	男性	50 歳代
とても見応えのある内容でした。	男性	50 歳代
ロダン館も企画展も、とても良かったです。	男性	50 歳代

内容	性別	年代
質の高い展示で、とても満足です。	男性	50 歳代
写真撮影が可であるのが良かった。ただし、すべてではないのは当然です。	男性	60 歳代
カナレットの作品はあまり知らなかったのですが、技術・表現共にすばらしい作品がいっぱいでした。	男性	60 歳代
今回は、絵の隣の説明文が長かったなあ。	男性	60 歳代
海外の美術館から借用した作品が多くあり、二度と見るできない美しい作品ばかりでした。ぜひ生徒諸君に勧めたいと思います。	男性	60 歳代
ヴェネツィアが良かった。モネもあった。	男性	60 歳代
ボリュームを感じる展示で、解説も丁寧でした。	男性	60 歳代
多過ぎて、またゆっくりと見に来る。	男性	70 歳以上
見たことのある県美の所蔵品も展示されており、カナレットとの関連を改めて知りました。	男性	70 歳以上
楽しかったです。	女性	12 歳以下
また来たいです。	女性	12 歳以下
とても作品がすごかった。	女性	12 歳以下
ヴェネツィアの町が水でたくさんだったので、とてもいい絵を見れて良かったです。	女性	12 歳以下
企画展、すごく良かったです。	女性	20 歳代
とてもおもしろかったです。キャプションがわかりやすく、とても勉強になりました。	女性	20 歳代
とても良かったです。	女性	30 歳代
空間の使い方がいつもと違っていて、とても新鮮でした。	女性	30 歳代
子どもと一緒に版画ができて楽しかったです。	女性	30 歳代
すばらしかったです。イタリアに行ったことがあるので、絵のすばらしさがわかりました。	女性	30 歳代
ヴェネツィア、ローマ関連の絵画が展示されていて、おもしろかったです。	女性	30 歳代
落ち着いて見れて良かったです。	女性	30 歳代
作品への説明も詳しく、とても良かったです。	女性	30 歳代
初めは絵本みたいだと思った。とても細かい描写と一つの画面に情報を実際に見えない風景も入れて描くのは面白いと思った。	女性	40 歳代
良かった。	女性	40 歳代
ゆっくり鑑賞できました。また来館したいです。	女性	40 歳代
とても良かったです。	女性	40 歳代
とてもすばらしかったです。時間があればまた来たいです。	女性	50 歳代
ヴェネツィアは行ったことがあるので楽しめた。	女性	50 歳代
ヴェネツィアの風景が旅行に行ったみたいに楽しめた。	女性	50 歳代
1F から 2F へ上がる階段がゆるやかで、イタリア、ローマの博物館を思い出しました。ヴェネツィア展、すばらしかった。	女性	50 歳代
今日の企画展はキュレーターの方の趣味の良さが伺えてすばらしかったと思います。ウェールズ美術館に行ってみたいと思いました。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
ゆったりと鑑賞させていただきました。	女性	50 歳代
大学の卒論がヴェネツィアの仮面パウタだったので、今回の企画展はとても興味深く拝見しました。ありがとうございました。	女性	50 歳代
とても勉強になりました。解説が興味深かったです。	女性	50 歳代
予習としてビデオを先に見れたら良かった。家で少しは勉強してくれば良かった。	女性	60 歳代
とても良い観賞をさせていただき、ありがとうございます。企画展も大満足でしたが、思いの外、ロダンが良かったです。展示がとても良い。	女性	60 歳代
今回、すぐく見応えがありました。じっくり見過ぎたのでぎりぎりになってしまいました。すみません。	女性	60 歳代
ゆったり見ることができて大変すばらしかったです。	女性	70 歳以上
カナレットとピラネージが推しなので、両方楽しめて良かった。	その他	50 歳代
大変楽しかった。感謝いたします。ありがとうございました。	無回答	無回答
いっぱい作品が見れて、楽しかったです。	無回答	無回答
市立美術館の内容と一部かぶっていたため、理解が深まり良かった。	無回答	無回答
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
無言館展、とても良かったです。	男性	30 歳代
無言館の 1920 年前半生まれの画家たちに加えて、藤岡嗣治、小磯良平という一世代上の作品もあり、画家が直面した戦争を多面的に知ることができました。特に印象に残ったのは、中村萬平の作品でした。	男性	30 歳代
久しぶりに作品をじっくり鑑賞できた。	男性	50 歳代
国立近代美術館の協力に感謝です。	男性	60 歳代
私を含めて、すべての入場者が一言も話さずに作品を見つめていました。まさに「無言館」になっていました。	男性	60 歳代
作品を拝見すると確かな技量のある方も大勢いらっしゃいました。戦争で命を落とさなければ、画家として活躍できたであろうと思います。無念だったでしょう。	男性	60 歳代
大変見応えがあった。信濃美術館や無言館のことを初めて知った。	男性	70 歳以上
前山寺には 51 年から何回も行っていて、前山「ゴキブリホイホイ」の形の美術館ができてから何回も入り、館長さんとお話をしたこともあり、懐かしかった。村山槐多の「尿をする裸僧」のポスターは家に飾っています。	男性	70 歳以上
すばらしい展示、ありがとうございました。	男性	70 歳以上
ヘビーで深い感銘を受けました。	男性	70 歳以上
“無言館へいらっしゃい”を読んで興味があったから。	男性	70 歳以上
また来たいです。	女性	12 歳以下
ロダン目当てで来館しましたが、「無言館と、かつてありし信濃デッサン館ー窪島誠一郎の眼」展に深く感銘を受けました。展示を見て涙がこらえられなかったのは人生で初めてです。非常に良い展示でした。ありがとうございました。	女性	20 歳代

内容	性別	年代
展示の仕方が良かった。無言館の良さを引き出せていた。	女性	20 歳代
他でなかなか見られないテーマで、見入ってしまいました。	女性	30 歳代
静岡で見られるようにしてくださってありがとうございました。「きけ わだつみの声」などぜひ読もうと思いました。戦争のむごさと彼らの人生を思い、胸がいっぱいになりました。	女性	30 歳代
無言館展を拝見しに伺いました。大正、昭和初期を経た時代に画家としての活躍を志した若者たちの作品には強い自意識が感じられ、一人の心ある者たちが死んでいったことを実感しました。ときに言葉よりも“人”を伝える絵画というメディアの迫力を感じました。的を絞った章編成、解説のおかげだと思います。ありがとうございました。	女性	30 歳代
戦争で亡くなった画学生の無言館は以前から知っていて、興味があった。今日、日帰りで行けるとところで展覧会が行われていて良かった。亡くなったことに注目しがちだが、残った作品や生きた証に注目することが大事だと思った。「遺品から作品へ」という言葉が印象に残った。	女性	30 歳代
無言館はなぜ敵であった国の宗教施設を模した？建物にしたのかなあとと思いました。	女性	40 歳代
とても良かった。	女性	40 歳代
勉強になりました。	女性	40 歳代
ゆっくりと見られて良かったです。本日、無料で驚きました。	女性	50 歳代
講演会を観覧しました。私も「無言館」は重苦しく怪しささえ感じ正直、興味はありませんでしたが、実際に戦争によって亡くなった方たちの気持ちがとても伝わり、泣きたくるほどでした。重苦しくも怪しくもなく、「戦争」を伝えるのには、とてもストレートに伝わる展示で、窪島さんの活動はすばらしい。亡くなった方たち、ご家族も救われているように思えました。講演会はとても良かったです。これからも色々な講演会を楽しみにしています。ありがとうございました。	女性	50 歳代
鼎談での窪島さんのお話しがとても興味深く感動しました。上田の残照館、無言館をぜひ訪れたいと思いました。	女性	50 歳代
水木しげる氏の「片腕は失くしましたが、帰国します」（家族にショックを与えないように自画像入りのハガキを）を思い出した。	女性	50 歳代
無言館には行ってみたかったものの機会がなかったので、見ることで良かったです。多くの才能のある若い方の作品に圧倒されました。	女性	50 歳代
上田の無言館、実家に近いのに行っていなかった。今度行こうと思います。	女性	50 歳代
この企画そのものがすばらしい。かつて無言館に訪れた時にはわからなかった背景がとてもよくわかり、鑑賞の質が高まったように思う。企画を考えた方に御礼を言いたい。ありがとう。	女性	50 歳代
無言館の各作品の解説、概説に心を揺さぶられた。「見過ごしてよいわけない」という気概→熱が感じられて、今年見た展覧会の中でも大変心に残る展覧会内容だった。	女性	50 歳代
誰もが一度は見ておくべきと思いました。絵を残して亡くなった人は「遺品」として見てほしいのか「作品」として見てほしいのか、どう見ればよいのか悩みました。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
現代ARTや体感型のももぜひ。洋画の自画像の展示？というくらいの前情報で来館しましたが、戦死された若者たち（美大生）の作品ということで見入りました。チラシやポスターでそれが伝わっていればもう少し多くの方に見てもらえたかも。	女性	50 歳代
重いながらもテーマが明確で見応えがありました。ありがとうございます。	女性	50 歳代
無言館、信濃デッサン館をつなぎ、その作品を美術館にまた展示し直すことで示されるもの…。最初の関根正三の自画像から最後の村山槐多の「手」まで、とても見応えがありました。譚光の「眼のある自画像」と藤田嗣治の「アッツ島玉砕」が並んでいるのも圧巻でした。	女性	60 歳代
見応えあり、時間が十分ほしい。フリートークの日でしたが、とても静かで話せなかった。	女性	60 歳代
今後、日本が戦争のない世の中であることを切に願いました。	女性	60 歳代
とてもすばらしい企画だったと思います。初めて松本竣介を見ました。感動です。	女性	60 歳代
今度（一人でゆっくり）またぜひ来館したい。	女性	60 歳代
今回は地味目でしたが、見応えはありました。	女性	60 歳代
とても良い展示でした。この展覧会を行った美術館の強い意思を感じました。静岡出身の画家の展示も良かったです。	女性	60 歳代
無言館に興味があったので、とても良い展示だったと思う。	女性	60 歳代
画学生の絵を描きたいが戦地に赴かなければならない無念さを感じた。各室の学芸員の方の思いが文章から熱く伝わってきた。文章を読んでさらに画学生の無念さが伝わる。良い文章でした。	女性	60 歳代
すろ～かるを見て来てみたいと思いました。平日でも多くの方が来館していて、来て良かったと思いました。	女性	60 歳代
Q4にあるコレクションについて、本日は「無言館～」鑑賞を目的に来館しました。興味ありますので、また来たいと思います。ありがとうございました。	女性	60 歳代
「無言館と、かつてありし信濃一窪島誠一郎の眼」（長野の上田で無言館に行って来たけれど、今日の方が見るものが多かったです。）も「ロダン」も見るものいっぱいでした。大満足です。	女性	60 歳代
信州の無言館に若い頃に行きましたが、年と共に設立者と命をささげた若人の思いの深さに心痛み、生への尊さを深く感じています。	女性	60 歳代
すばらしいです。	女性	70 歳以上
また伺います。	女性	70 歳以上
天満敦子さんのコンサートすばらしかったです。チャームングで音色が素敵で感謝です。ありがとうございました。上田の無言館に前に一度、訪れました。その作品にお会いでき良かったです。ありがとうございました。	女性	70 歳以上
入口で体験もやらせていただき良かったです。	女性	70 歳以上
「無言館」に行っているの、どうしても来館したかった。	女性	70 歳以上
多くの才能が惜しくも失われ、戦争は悪の最たるものと胸に刻まれました。	女性	70 歳以上
93 歳になり、無言館他の見学、大満足感謝です。	女性	70 歳以上

内容	性別	年代
無言館をだいぶ以前テレビで見て心に残っていた。チラシを見てどうしても来てみたかった。	女性	無回答
このような歴史や文化を後々の人たちに伝える展示は、“県立”でなくてはできないものだと思います。常設展、見やすくおもしろかったです。	女性	無回答
書も展示があるかと期待していたが、書画の収集はなかったのでしょうか？	その他	30 歳代
第 1 室ですでに涙が出そうになりました。感情が揺り動かされました。	その他	50 歳代
窪島誠一郎氏は素晴らしい人だが、木下館長も同様、素晴らしい人だ。今回の展をよく開いてくれました。ありがとう。	無回答	無回答
とても見応えのある展示だった。解説の文章もよくわかり、それを読むと見る意識も変わり、充実した時間だった。	無回答	無回答

【2 企画全般】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
クイズが楽しかった。勉強になった。	男性	12 歳以下
前回の展示も今回の展示も良かった。作品の存在感や世界観など。	男性	30 歳代
作品、アーティストの説明、展示の様子、すべて良かった。	男性	40 歳代
今回のような動きのある展示をお願いします。	男性	40 歳代
勉強になった。	女性	12 歳以下
今後の展示が楽しみです。	女性	60 歳代
以前より興味のある展示が減った。	女性	70 歳以上
カナレットとヴェネツィアの輝き		
いつも有意義です。	男性	50 歳代
どの展示会も興味深かった。	女性	13～19 歳
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
面白い企画です。ロダンの小企画展も良くて見応えがあります。	男性	20 歳代
これからの企画展も見に来たいです。	女性	50 歳代
講演会がとても有意義でした。	女性	60 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
展示内容の分量、展示順が適切でスムーズに見られた。	男性	50 歳代
「考える人」が間近で見れるのはすごい。	男性	50 歳代
世界史の資料集で見たロダンの作品を生で見れておもしろかったです。	女性	20 歳代
ロダン館の展示が良かったです。	女性	30 歳代
子どもが興味を持って見ることができました。ねこのめ美じゅつかん（E テレ）でロダンは見	女性	40 歳代

て知っていたので。		
ロダンの作品が迫力があって良かった。展示の方法も良い。	女性	60 歳代
ロダン館、最高でした。	女性	70 歳以上
カナレットとヴェネツィアの輝き		
収蔵品展を通常時と異なるレイアウトで展示しているのに驚きました。ワンテーマでの展示に興味深く見ることができました。	男性	50 歳代
展示も見やすく良かった。	女性	13～19 歳
見やすかった。展示スペースが広々していて、ゆったり鑑賞できた。	女性	20 歳代
モネ、ブーダン、ターナー、シニヤックすばらしく、V&A やテートからの作品多く楽しめた。照明◎。	女性	40 歳代
説明もわかりやすく、聞きやすかったです。解説文も読みやすく良かったです。	女性	50 歳代
とても良い展示の仕方でした。見やすかったです。	女性	60 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
やっぱり涼しくて良い。	男性	40 歳代
地獄の門の迫力がすごい。	男性	40 歳代
きれいに管理されていて良かった。	男性	50 歳代
地獄の門が大きくて驚きました。	女性	12 歳以下
初めて来ましたが、館内外ともに楽しめて最高でした。また来たいです。	女性	13～19 歳
館内がとてもきれいだった。	女性	20 歳代
建物自体も素敵で楽しめました。	女性	30 歳代
とても静かで自然豊かな場所にあるので、リラックスできて良かったです。	女性	40 歳代
混雑具合も良く、とてもスムーズに観覧できました。版画も楽しかったです。“ねんど” “絵具” の催し物があることを初めて知り、子どもが小さいころに知りたかったです。	女性	40 歳代
平日はゆったり観覧できるので、心が整いました。ありがとう。	女性	40 歳代
本日はとてもすいていたのでゆっくり見れた。	女性	40 歳代
ショップも楽しみの1つです。	女性	40 歳代
いつもきれいで心地よくいられます。	女性	50 歳代
東京はいつも混んでいるので、ゆったり見れてとても良かった。	女性	50 歳代
久しぶりにロダン館を見ました。今回のように開催展示品をロダン館に設置するというのは足を運ぶのにとても良かったです。	女性	50 歳代
静かでゆっくりできて良かった。	女性	60 歳代
初めて来ましたが、ロダンがすばらしかった。	女性	60 歳代
新収蔵展もとても良かった。ロダンもテオ・ヤンセン展で2回目。ロダン設計が悪くて、一度見たのみで、それ以降ロダンを感じられない展示なのでもったいない。	女性	70 歳以上

内容	性別	年代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
ロダン展に入館しましたが、作品が多く良かった。	男性	20 歳代
久しぶりのロダンはとても楽しいところでした。	男性	30 歳代
ロダンの彫刻館が期待以上に良かったです。	男性	30 歳代
ロダンの展示はすばらしいので、是非、維持して続けてください。	男性	50 歳代
とても良かったです。ロダンの良さがわかってきました。	男性	60 歳代
静かで広さもちょうど良い。	男性	60 歳代
美術館がとてもきれいでした。	女性	12 歳以下
ロダン館の収蔵品の配置や建物のデザインが美しく、とても感動した。	女性	13～19 歳
晩年のモネの絵があつてうれしかった。	女性	20 歳代
ロダンの展示ブースが良かった。	女性	20 歳代
企画展もロダン展も見応えがありました。	女性	20 歳代
傘のロックがわかりにくい。一丁寧に対応いただきました。	女性	30 歳代
ロダン館が見応えがありました。	女性	30 歳代
ねんどや絵具、開放日にまた来てみたいです。	女性	30 歳代
ロダン館を見て、とても感動した。日本に数少ないと聞き、とてもびっくりした。	女性	40 歳代
トイレもすごくきれいでした。	女性	40 歳代
エッチングコーナーで、こちら所有のものは色合い（モノトーンだけど）がきれいに見えました。地図、地理や景色の写真もあり、楽しめました。	女性	40 歳代
初めて来ましたが、大きくてきれいでした。もっと人が足を運んでくれるスポットになればいいですね。	女性	50 歳代
モネがあつて良かった。	女性	50 歳代
落ち着いた。また、ソファもやわらかく気持ち良かった。	女性	60 歳代
とても美しく心地良かった。上りがきついので老人は来づらいという声を聞いた。	女性	60 歳代
前から好きな美術館で、久しぶりに訪ねました。	女性	70 歳以上
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
地獄の門の中身が見たいと思ってしまうくらいすごかった。	男性	12 歳以下
目的だった樹花～が見られなかったのが残念でした。	男性	30 歳代
伊藤若冲を所蔵されているとは知らなかった。	男性	40 歳代
一人で、家族で、再び一人で、ここは思い出のつまった場所です。大切にしたいと願っています。	男性	50 歳代
東京から来館すると交通の不便さを感じるが、ロダン館をはじめゆつたりと鑑賞できるのが良い。	男性	60 歳代
今回は空いた時間に来たが、しっかりと時間をとって、ゆっくりと見たかったです。	男性	60 歳代
設備がとても良くて快適でした。	女性	20 歳代
とても良かった。ロダン館がかび臭いのは気のせいかな？	女性	40 歳代

内容	性別	年代
休日、しかし、まるで平日のように空いていて、じっくり見られるので大満足。	女性	50 歳代
とても静かですばらしいです。	女性	60 歳代
気持ち良く過ごせました。お茶もいただけて良かった。	女性	70 歳以上
景色も良くて、満足できる場所です。	女性	70 歳以上
静岡にも立派な美術館があり、誇らしいです。	女性	70 歳以上
ギャラリーツアー、ロダンの作品についてだと思っていたのですが、最初にクロード・モネの絵だったのでびっくりした。	その他	50 歳代
美術館までの道中、犬の散歩姿がある中で、放尿時の対応をされない方が見られ、残念でした。	無回答	無回答

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
とても楽しく見れました。スタッフの対応がとても良かったです。	男性	12 歳以下
がんばって。	男性	13～19 歳
スタッフの対応、すべて良かった。	男性	40 歳代
係員の方もとても親切に説明していただき、好感が持てました。	男性	50 歳代
美術館の方がとっても親切だった。	女性	12 歳以下
スタッフのみなさん、優しくて、丁寧だった。	女性	20 歳代
実演の時の観覧者（特に子ども）への対応がとても良く、見やすかった。	女性	20 歳代
ロダン館のアプリが大変使いやすかったです。	女性	20 歳代
テオ・ヤンセン展のスタッフさんが丁寧でした。	女性	30 歳代
スタッフさんの愛のある解説も面白かったです。	女性	30 歳代
スタッフの方の丁寧で親切な対応、とてもありがたかったです。居心地も良く、つい長居してしまいました。	女性	40 歳代
美術館の方が親切で、案内もわかりやすかったです。	女性	50 歳代
スタッフの方の説明が丁寧で詳しく、とても勉強になりました。	女性	50 歳代
説明のスタッフさんがすばらしかった。あのＴシャツほしいです。	女性	50 歳代
家族連れが多く、子どもがたくさんいたので驚きました。幼い頃から芸術に親しむ地域性があるのでしょうか。ほほえましく見ておりました。無料の音声ガイダンス良かったです。もっとみんなが使うと良いのと思いました。	女性	50 歳代
スタッフが質問に答えてくれたのが良かった。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
写真撮影が可能なのは珍しいと思った。	男性	30 歳代
とても静かで温度もちょうど良かった。学芸員さんのお話も聞けて良かったです。	男性	40 歳代
学芸員さんの解説がおもしろく興味深かったです。	男性	40 歳代

内容	性別	年代
学芸員の方の説明が良かった。	男性	50 歳代
学芸員の説明がすごく良かった。	女性	40 歳代
満足しているので、これからもがんばってください。	女性	50 歳代
市美術館の半券の割引が使えて良かった。	女性	60 歳代
たくさんの方に来てほしいと思っています。	女性	70 歳以上
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
以前要望した目録の紙での配布を実現していただき、良かったです。自由配布でなく、希望者への配布（受付で申し出ていただく）が良いと思います。ありがとうございました。	男性	60 歳代
70 歳以上で半額に驚きました。感謝。	男性	70 歳以上
無料日だったのでありがたかった。一度見た展示を何回も見ると理解が深まる。	その他	50 歳代

<B 要望>

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
テオ・ヤンセン展、またやってほしい。	男性	12 歳以下
また、テオ・ヤンセン展をしてほしい。昔から知っている展示が見れて本当に良かったし、うれしかった。	男性	40 歳代
テオ・ヤンセンの作品を動かすときに、もっとはっきりアナウンスしてほしい。	男性	50 歳代
動画の再生時間を表示してほしい。	男性	60 歳代
絵の解説がもっと書いてくれるとうれしい。	女性	13～19 歳
「リ・アニメーション」が動画だと思ったので、叶うなら「本物が～」って書いてほしい。	女性	30 歳代
外での展示があるなら、もっと宣伝してほしいです。	女性	30 歳代
テオ・ヤンセン、実際に砂浜で見たいです。	女性	40 歳代
とてもおもしろいので、またお願いしたい。	女性	40 歳代
実演を観覧中、座らなければならないのが、足が痛くて大変でした。シートを敷いてくださるなど、もう少し工夫をしていただけたらありがたいです。	女性	50 歳代
実演がもっと回数が多いと良かった。	女性	50 歳代
アレルギー、咳をおこす可能性を考えて、テオ・ヤンセンなど座って動きを見るのは？	女性	70 歳以上
カナレットとヴェネツィアの輝き		
解説のパネルについて、今回の企画展のような風景画について、それぞれの作品の現在その場所についての画像や説明があるとよりわかりやすいと思った。	女性	13～19 歳
映像に音が少し出るといいなと思いました。	女性	40 歳代
映像（ベネチア）があったが、場所の案内がわかりにくい。とてもいい映像だったので、もう少し案内した方がよい。	女性	40 歳代
当時、どんな人がこういう絵をほしがったのかもっと知りたかった。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
映像を見る時、イスがあると助かります。	女性	50 歳代
映像の部屋に音声があった方が良かった。	女性	70 歳以上
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
野見山氏追悼展が郷里、福岡近隣でも行われているだけに、本展関連企画も福岡にて行ってほしいと強く願う。	男性	50 歳代
無言館の展示、引き続き見てみたいです。	男性	60 歳代
今回の展示のポスターはあまり見かけませんでした。作品リストが用意されているとやはりありがたいです。	女性	60 歳代
継続して無言館のような美術館を紹介してください。	女性	60 歳代
私は東京在住で新聞の美術館の催し欄で知り、以前行ったことのある無言館がテーマだったので来訪したが、もっと大々的に宣伝しても良いと思う。	女性	70 歳以上

【2 企画全般】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
定期的に浮世絵の展示をお願いします。	男性	40 歳代
ロダン館で室内楽コンサートを希望。	男性	50 歳代
ポジティブになれるような明るい作品展を望みます。	男性	60 歳代
また、イベントなどをやってほしい。	女性	12 歳以下
現代アート展が見たいです。	女性	20 歳代
芝公園でのイベントをまたやってほしい。	女性	60 歳代
できたら、日本平動物園に2～3頭展示してほしい。	無回答	無回答
カナレットとヴェネツィアの輝き		
ミラノの展示（風景画）	男性	20 歳代
以前のミュシャ展は良くて3回来ましたが、そういう他からしても珍しい良い展示物を待っています。	男性	40 歳代
お金を払ってもみたいと思う展示をお願いします。	男性	50 歳代
西洋と共に日本画の特集もあるとうれしい。	男性	60 歳代
perfume 初の大規模衣裳展開催と、きゃりーぱみゅぱみゅの展覧会を開催してほしいと思います。	女性	20 歳代
西洋美術の展覧会に興味があるので、また企画があったらうれしいです。	女性	20 歳代
子ども用の作品がもっとあったらいいな。	女性	30 歳代
子ども向け（一緒に楽しめる）の企画もぜひお願いします。	女性	40 歳代
エジプト展をまた開催してほしい。	女性	50 歳代
色々なジャンルのワークショップを企画していただけるとうれしいです。	女性	50 歳代
有名作品で客を呼ぼう。	女性	60 歳代

内容	性別	年代
2：30 ロダン作品ツアー、とても楽しかった。説明型ではなく、今後もやってほしい。いいツアー。企画展はすばらしかった。ゆっくり見れた。説明書が多くてわかりやすかった。	女性	60 歳代
持病もあり遠出ができず、ずっとこの静岡市で生きていくことしかできない私にとって、外国の絵が見られる場所がとてもありがたい。もっと外国の美術館から絵画を取り寄せてください。	その他	30 歳代
現代絵画や現代美術（アンディ・ウォーホル以降）	無回答	無回答
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
すばらしい活動です。企画展をこれからも力を入れてほしい。	男性	40 歳代
フロアトーク等、増やしてほしい。	男性	60 歳代
ワークショップ開催（色んな技法を試せるもの）	女性	40 歳代
フロアレクチャーの回数を増やしてほしい。	女性	60 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
作家名表示を統一されてはいかがですか？オーギュスト・ロダン→（対して）→ムーア・ヘンリー、ジャコモッティ・アルベルト	女性	70 歳以上
カナレットとヴェネツィアの輝き		
あとほんの少し字が大きい方がうれしいかもです。	男性	20 歳代
作品の足下にテープなどで近づきすぎないように対策をした方が良いのでは？	男性	50 歳代
ロダンのビデオを見たかったです。	女性	12 歳以下
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
雲愛←何と読むのか知識が乏しくて読めなかった。人名にかなを振っていただけないか。	女性	70 歳以上

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
敷地を広くしてほしいです。	男性	12 歳以下
見る順番がわかりにくかったため、番号を振ってほしい。	男性	20 歳代
ソファの数を増やしてほしい。	男性	30 歳代
少し暑いので、もう少し温度を下げてください。	男性	30 歳代
ソファの整備は必要かも。	男性	40 歳代
駐車場の満車表示があると良い。	男性	50 歳代
イスを増やしてください。あとは、エレベーターとか。←無茶ぶりですね。	女性	12 歳以下
企画展をしている間も普段の収蔵品が見たいです。ポール・シニャックが置いてある美術館は少ないので。	女性	30 歳代

内容	性別	年代
座る場所を増やしてほしい。	女性	40 歳代
山梨の県立美術館みたいにしてほしい。	女性	40 歳代
高齢者も来るため、イスがもう少しほしいと思った。	女性	50 歳代
近くの駐車場の拡大がうれしいです。	女性	50 歳代
ロダン館も建物が素晴らしいので、もう少し有効活用して入館者が増えると良いです。	女性	50 歳代
アクセスに関して、美術館前でバスを降りるより、プロムナードで降りる方が風景など楽しめることも WEB サイトに表示されると良い。	女性	60 歳代
どこの美術館でも感じるのですが、展覧会場内のイスが柔らかすぎるような気がします。静岡駅前バス停はすぐにわかりましたが、県美行きのバスの案内が今一つわかりにくいと思いました。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
樹花鳥獣図屏風が見たい。	男性	12 歳以下
夏場は駐車場を拡充してほしいです。	男性	40 歳代
プロムナードの整備に期待しています。	男性	40 歳代
駐車スペースを増やしてほしい。	男性	40 歳代
駐車場の空き情報が第一駐車場でわかるといいと思った。	男性	50 歳代
館内で携帯電話を使わせてもらえるようになって非常にありがたいし、メモを取ったり、調べ物をしたり、鑑賞する上で理解を深めやすいのですが、電波の弱さがとても不便です。Wi-Fi を設置してほしいです。	男性	50 歳代
ユベール・ロベールとパニーニもほしかった。	女性	40 歳代
ロダンが 4 体ある。日本のどこにあるかも知りたい。	女性	40 歳代
バスが 1 時間に 1 本とってなかったため、タクシーを利用しました。1 時間に 2 本ぐらいあるといいです。	女性	40 歳代
水分をとれる場所を多くしてほしい。	女性	50 歳代
P3 の駐車場が少ないので広げたら広くしてほしい。	女性	50 歳代
Wi-Fi を入れてほしい。	女性	60 歳代
外のオブジェの手入れができるといいですね。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
座りたい。	男性	50 歳代
照明をもう少し明るくしてほしい。	男性	60 歳代
草薙からのバスが 1 時間に 1 本なので増便してほしい。	女性	40 歳代
駐輪場が図書館と一緒に記入しておきます。夕方、ライトが付いていない時間（閉館中）があり、正直こわかったです。数台しか止まっていない時もあり、もったいないのかもしれませんが、もう少し照明を付けていただきたいです。	女性	50 歳代
第 3 駐車場が狭く、遠くの第 1 へ駐車することになった。庭や作品群の興味のある方は良いが、天候のことを考えると第 3 駐車場を広くした方が良いと思う。	女性	60 歳代

内容	性別	年代
1 階の県民ギャラリーの黒い皮のイスがくたびれているので交換か修理したらいかがでしょうか。	女性	70 歳以上
会場がとても暗く見づかった。もっともっと明るくしてください。	女性	70 歳以上
全体的に会館内が暗すぎる。外から入ると暗くて歩けません。1 階はもっと明るくしてほしい。	女性	70 歳以上

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
子育て支援の割引は、決済後にも適用できるようにしてほしい。	男性	30 歳代
順路があった方が良かった。	男性	40 歳代
内容はおもしろそうですが、料金が高いです。気軽に见れる金額にしてください。	男性	60 歳代
知り合いに教えてもらって今回の展覧会について初めて知ったので、もっと情報を広く周知しても良いのではと思いました。	女性	20 歳代
テオ・ヤンセン展に限らず、もう少し早く情報を SNS で発信していただけたらと思います。	女性	20 歳代
オンラインチケットが利用できるといいなと思いました。	女性	30 歳代
HP の充実。	女性	50 歳代
子どもたちが館内を走り回るのを注意できるといいですね。	女性	50 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
写真撮影可能なのは良いですが、もう少し入口で明示した方が良くと思います。	男性	40 歳代
パンフレットを市立図書館や市役所にも置いてほしい。	男性	40 歳代
京セラ美術館のようなフレンドサポートがあったらいいと考えた。	男性	40 歳代
話し声が大きい人にきちんと注意してほしい。	男性	40 歳代
企画展の出品リストはやはり紙が良い。	男性	50 歳代
「ご意見用紙」に書きました。紙の目録を希望する方に渡すようにしてください。スマホ利用もいいですが、人の意見や環境は多様です。少数者を切り捨てるのはやめてください。	男性	60 歳代
作品リストを印刷しておいてほしい。	女性	30 歳代
県民割引の制度がほしい。	女性	50 歳代
目録が紙でよかった。せめて QR コードを展示室にもいくつか掲示してほしい。入口にしかないとなれば。	女性	50 歳代
スマホ（QR コードで）で展示作品を確認するより、紙があった方が良かったです。	女性	60 歳代
学芸員さんの説明の日を増やしてほしい。	女性	60 歳代
出品リストは紙媒体のものがほしい。	女性	70 歳以上
撮影できない作品こそ、ポスカにしてください。	その他	50 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
ICOM カードが使えないのは意外でした。がんばってほしいです。	女性	30 歳代

内容	性別	年代
ポガニー嬢Ⅱのミニチュアを考える人ぐらいのサイズや価格で作っていただけらうれしいです。	女性	50 歳代
県立美術館オリジナル商品がほしかった。	女性	50 歳代
本日のアイワ不動産の無料の日の PR をもっとすべき。	女性	60 歳代

<C 苦情>

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
展示物が少ないのは仕方がないと思う。構造や動く仕組みに関して、もう少し説明があつてほしかった。	男性	60 歳代
展示説明の音声聞き取りにくいところが多かった（反響？）。	男性	70 歳以上
ペットボトル部分の仕組みがいまいちわからなかった。美術というより工学の部分だから、詳しく解説する必要がなかったのでしょうか？	女性	20 歳代
ネットの解説番号と彫刻の下の番号のずれが難しかったです。	女性	20 歳代
展示数がかなり少ないと思いました。	女性	30 歳代
テオ・ヤンセンのワークショップの人と被ってしまい、展示がよく見えなかった。	女性	30 歳代
15：00～のビーストの見学では、2ヶ所目への移動後、ガイドランスが聞こえにくかったことが残念でした。	女性	40 歳代
テオ・ヤンセン作品のリ・アニメーションを見せていただいて、大変楽しめましたが、座ったままの待ち時間が長く、足がしびれました。	その他	20 歳代
リ・アニメーション時の人の誘導が不親切に感じた。	その他	30 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
展示数の少なかったことが残念です。	男性	60 歳代
スタート地点の矢印はどこから見ていいのかよくわからなかったのでスタッフに聞きました。各セクションの解説が文字の数が多くて読むのに疲れました。	女性	50 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
「尿する裸僧」照明が暗すぎ or 壁が明るすぎて非常に見づらい。	男性	70 歳以上
作品説明がわかりにくいです。知らない画像ばかりで何か知らないことをバカにされているみたいで。	男性	70 歳以上
年齢層が高い展示会にしては説明文の文字が小さく、低い位置で見づかったです。とても暗かった。	女性	50 歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		

内容	性別	年代
2023 年度企画展は楽しなかった。	男性	70 歳以上

【3 展示方法】

内容	性別	年代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
企画展ゾーンとの仕切りがわかりづらい。	男性	50 歳代
文字が小さい。	男性	60 歳代
絵の説明の位置が低いので読むのが大変。字も小さい。	女性	13～19 歳
順路がいつも迷ってしまう。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
視力が悪いので細かい字が読めません。	女性	60 歳代
説明書きが小さく読みにくかった。	女性	70 歳以上

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
駐車場が狭かった。	男性	30 歳代
駐車場の満車情報がわかりにくい。	男性	40 歳代
自転車置き場がわかりにくい。	男性	40 歳代
入口のパーテーションがわかりづらい。	男性	60 歳代
駐車場が遠い。	男性	60 歳代
駐車場のスペースを広げてほしい。高齢者は止めづらい。下の駐車場に置くと坂道が大変。	男性	60 歳代
駐車場がちょっとわかりにくかったです。	女性	13～19 歳
駐車場の場所がわかりづらい。	女性	30 歳代
チケット売り場が少なく、かなり並びました。	女性	40 歳代
車で来たのですが、案内看板がわかりにくかったです。	女性	50 歳代
チケット売場が2 Fのため、ロッカー（1 F）の使い勝手が良くない。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
JR からバスが少ない。	男性	70 歳以上
駐輪場の看板が下にあったら良かった。わかりづらかった。	女性	20 歳代
ロダン館がなぜかとてもタバコ臭かったです。	女性	30 歳代
順路が少しわかりにくかった。	女性	30 歳代
駐車場が狭い、遠い。	女性	40 歳代
館内の Wi-Fi の入りが悪く、目録が見れなかった。カメラが利用できるのは良いことですが、操作音がうるさく感じた。	女性	50 歳代
冷房が効きすぎて寒い。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
クーラーが効きすぎ。	女性	50 歳代
寒すぎる。	女性	50 歳代
駐車場が遠いこと。白線が消えていてわかりづらかった。	女性	60 歳代
初めて自家用車で来ましたが、入るのに時間が…。あきらめて P1 へ行きました。30 分ほどのロスになってしまいました。	女性	60 歳代
駐車場がいっぱいでした。トイレの便座クリーナーがいつも故障中です。	女性	70 歳以上
トイレの扉（ガラス）すごく重たい。何とかありませんか？	無回答	無回答
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
照明がイマイチ。	男性	70 歳以上
入場者のスマホがうるさかった。	女性	50 歳代
ロダンの会場が暑かったです。12/7 午後～。	女性	70 歳以上

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
子ども OK の日ですが、自由すぎて困ります。	女性	30 歳代
観覧マナーの低下が著しい。大声、走る、横切など。	女性	50 歳代
ひとりで来館。手で引いて動かすときに事前に手荷物の説明がなく、「おひとりで荷物を持ってもらえないなら窓際に置いてください」と、順番でその場に立ってから指摘されました。ひとりで来ている方もいるので言葉掛けは気を付けていただきたいです。	女性	60 歳代
清水区の交流館にチラシが置いてなかったので残念。	女性	60 歳代
鉛筆、先がないものばかりですごく書きにくいです。	女性	60 歳代
チケット購入される方と事前購入でチケットを用意している人との公平性を保ってほしい。チケットを持っているのに並ばないともぎっていただけないこと。また、その時の対応に不適さを感じました。	その他	無回答
子どもがうるさいから出て行けと言われ、悲しかった。言い方とか、対応の仕方とか、もっとあると思う。	無回答	無回答
カナレットとヴェネツィアの輝き		
入ってすぐ撮影音が鳴り続けており、それが不快でたまらなく、すぐ退出した。撮影そのものを禁止にしてほしい。	男性	30 歳代
スタッフの人（一人だけ）が、絵に近づいていないのに注意して不快でした。実際、全然安全距離です。あの人以外、別のスタッフ普通にしていましたけれど。本当に注意したい場合は、地面にテープをした方がいいです。あのスタッフの気持ちでしない方がいいです。	男性	40 歳代
視力が悪く、展示物が見にくいので近づいて見ていると、触らないように監視してくるのが職務上理解できるが、ずっと見張られているようで気分が悪く、6 作品くらい見て嫌になって出てきた。今回は非常に気分が悪く、二度と来たくない。	男性	50 歳代

内容	性別	年代
アンケートの鉛筆が書きにくい。開催時に必ずチェックを。これでは書こうという気になれない。	男性	60 歳代
空いていたせいか、館の職員が自分の後をついて回り、非常に不愉快だった。	男性	70 歳以上
スマホのメールの着信音について、あるスタッフから注意されました。しかし、他のスタッフは別の人の着信音について無関心でした。スタッフ全員が同じ対応をするよう、情報を共有してください。	男性	70 歳以上
紙の展示目録がないのは大変に残念。スマホを見ながらの観覧は満足できない。	男性	70 歳以上
写真を撮っている方が多く、何となく不快だった。	女性	30 歳代
近くで見ていて注意された。他の人には注意をしないのはなぜ。撮影するつもりはないが、何回か注意を受けた。声を出して注意するのではなく、肩をたたいてそっと注意してほしい。恥をかいた。撮影禁止の看板が小さすぎてわかりにくい。親切ではない。	女性	50 歳代
写真 OK はうれしいが、シャッター音が少し気になった。	女性	60 歳代
クレジット払いでレシートが基本ないのはいかがなものでしょう。最初に言ってください。	女性	60 歳代
1 人のスタッフがガラスに触れないで下さいと声を掛けてきました。触れていないのに、大変不愉快でした。後ろから見ていてそう見えたのですが、具合が悪くなり、退出を早めました。確かめもせず、いきなり言われたのがすごくショックでした。	無回答	無回答
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
とても静かで良かったが、しゃべっている方を注意してほしかった。	女性	60 歳代
2 : 45 頃、第 6 章でスタッフの方がお客様かと思うほど作品をぐるぐる回りながら見ていた。私がびっくりしてその人を見ると逆にジロジロにらまれた。	女性	60 歳代
グループの年配の女性、話し声がうるさかった。スタッフは注意せず。	無回答	無回答

Q 7 当美術館で開催してほしい展覧の内容

当美術館で開催してほしい展覧の内容がありましたらお書きください。とたずねたところ、383 件の自由意見があり、展覧会別に整理をし掲載する。

自由意見の展覧会別件数

テオ・ヤンセン展	171
カナレットとヴェネツィアの輝き	144
無言館とかつてありし信濃デッサン館	68
全体	383

単位：件

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
岡本太郎	男性	12 歳以下
西洋美術、モナ・リザを見たいです。	男性	12 歳以下
テオ・ヤンセン展、またやってほしい。	男性	12 歳以下
ゲゲゲの鬼太郎の水木しげる。	男性	12 歳以下
テオ・ヤンセン展	男性	12 歳以下
お金のデザインがどう変わったのかとかいろいろな国のお金を見たい。	男性	12 歳以下
ガンダムシリーズ	男性	12 歳以下
モネの絵を見たいです。	男性	12 歳以下
棟方 project 展	男性	12 歳以下
スタンプラリー	男性	12 歳以下
日本の歴史関係	男性	12 歳以下
仏像展	男性	12 歳以下
おっぱい	男性	13～19 歳
伝統工芸について。	男性	20 歳代
宗教画関連の展示会がありましたら、見てみたいです。	男性	20 歳代
モネ	男性	20 歳代
ダリの美展、シュルレアリズム展。	男性	30 歳代
長沢 芦雪	男性	30 歳代
県内の仏教、宗教、芸術展。	男性	30 歳代
ルドン展	男性	30 歳代
浮世絵（ホラー、妖怪画）とかに興味があり、その他、各国の神話や妖怪も。	男性	30 歳代
手塚治虫展	男性	30 歳代
タミヤ	男性	30 歳代

内容	性別	年代
もっと若冲を気軽に见れるようにしてほしい。	男性	30 歳代
アニメ、野球	男性	30 歳代
ジャクソンポロック展	男性	30 歳代
スプレーアート展など。	男性	30 歳代
写真展や美術館など幅広くやってほしい。	男性	30 歳代
歴史（戦国）	男性	30 歳代
ポケモン	男性	40 歳代
ゴッホ、ゴーギャン展。	男性	40 歳代
サヴィニャック展	男性	40 歳代
教科書で見たことのあるものを集めた展示会。	男性	40 歳代
ダリ展	男性	40 歳代
彫刻の企画展	男性	40 歳代
手で触れる展示会	男性	40 歳代
昔のプラモデルの箱絵の展示をお願いします。	男性	40 歳代
大物	男性	40 歳代
アニメ、ゴジラなど特撮の展示。	男性	40 歳代
葛飾北斎	男性	40 歳代
若手アーティスト	男性	40 歳代
バンクシー展	男性	40 歳代
さわっていい日（本当に目の前なので、手で触れてみたいです）。	男性	50 歳代
J0J0 展	男性	50 歳代
静岡県出身、もしくは県で活躍している、選ぶのは大変だと思いますが、現代、近代の美術作品を見てみたいです。	男性	50 歳代
伊藤若冲を見たい。	男性	50 歳代
私の住んでいる県に県の美術館でも開いてほしいくらいです。	男性	50 歳代
年1回ぐらい、現代美術をスケジュールに組んでいただけるとありがたいです。	男性	60 歳代
郷土の美術（古代～現代）の掘り起こし。	男性	60 歳代
村上隆さん、山口晃さん。	男性	60 歳代
今日のような参加型のものが増えると良い。	男性	60 歳代
新しいテオ・ヤンセンの作品。	男性	60 歳代
岡部稔展	男性	60 歳代
工業製品全般のグッドデザイン展など、単なるデザインだけではなく、構造などの新しさなど。	男性	60 歳代
平櫛 田中の作品展	男性	60 歳代
巨匠の回顧展など、巡回してほしい。	男性	60 歳代
現代の作家の展示が見たい。例えば、今月、名古屋の古い美術館で開かれる篠田桃紅さんな	男性	60 歳代

内容	性別	年代
ど。		
エジプト、メソポタミア、中国…古代の展示物。	男性	70 歳以上
浮世絵展とか、ミロ（あのはすの）展など。	女性	12 歳以下
ピカソの展示（絵）	女性	12 歳以下
ゴッホ	女性	12 歳以下
妖怪の絵（こわい絵）水木しげる	女性	12 歳以下
妖怪の像をたててほしい。	女性	12 歳以下
折り紙など	女性	12 歳以下
アニメのマンガを展示してほしいです。	女性	12 歳以下
岡本太郎、千住博、高塚清吾	女性	12 歳以下
子ども向けのワークショップ	女性	12 歳以下
ボードゲーム	女性	12 歳以下
油絵	女性	12 歳以下
子どもでも興味がひかれるような作品を今後も展示してほしいです。	女性	12 歳以下
科学の不思議、ダミアン・ハースト	女性	12 歳以下
ゴッホ	女性	12 歳以下
ロダン館、大きくしてほしい。	女性	12 歳以下
ロダン館を大きくしてほしい。	女性	12 歳以下
ロダン館をもっと大きくしてほしい。	女性	12 歳以下
ティエゴ・ベラスケス	女性	13～19 歳
ミュシャ展をやってほしい。	女性	13～19 歳
ミュシャ	女性	13～19 歳
中世ヨーロッパなど。	女性	13～19 歳
ミュシャが好きなので、見れたらうれしいです。	女性	13～19 歳
銅版画展 収蔵のピラネージ（再び）	女性	13～19 歳
千住博、高塚清吾、モネ	女性	13～19 歳
初心者が絵画を楽しむ方法的な。	女性	13～19 歳
印象派	女性	13～19 歳
切り絵展、水彩画展	女性	13～19 歳
絵の見方	女性	13～19 歳
幻触また見たいです。	女性	20 歳代
きゃりーぱみゅぱみゅの展覧会と perfume 初の大規模衣裳展。	女性	20 歳代
現代アート、ミュシャが見たいです。	女性	20 歳代
草間やよい ほたる	女性	20 歳代
青池保子展	女性	20 歳代
ミッフィー	女性	20 歳代

内容	性別	年代
ヨシタケシンスケ、さくらももこ	女性	20 歳代
アニメ、マンガ	女性	20 歳代
ブランクーシ	女性	30 歳代
現代アート	女性	30 歳代
体験型、都市部での展覧会の誘致。	女性	30 歳代
プーさん	女性	30 歳代
印象派	女性	30 歳代
深堀隆介氏、二見彰一氏。	女性	30 歳代
若冲	女性	30 歳代
エッシャー	女性	30 歳代
過去にあった美少女展とムーミンがもう一度見たいです。	女性	30 歳代
風景画中心に	女性	30 歳代
子ども（小学生以下）も楽しめると嬉しいです。昔、ミッフィーのものなど参加しました。	女性	30 歳代
茶道具、ボードゲーム、ファッション	女性	30 歳代
バンクシー（ディズマランド再現）	女性	30 歳代
またエジプト展をしていただきたいです。	女性	30 歳代
ミュシャ、モネ	女性	30 歳代
ゴッホ	女性	30 歳代
生き物の絵画。	女性	40 歳代
これからも芸術×科学の作品を催してほしい。	女性	40 歳代
カラヴァッジョ展	女性	40 歳代
日本美術をやる機会があったら、静岡在住フランス人能面作家ロジェさんやってください。	女性	40 歳代
モナ・リザを見たい。	女性	40 歳代
飯田 昭二さんの展示会、「もの派」など。グループ幻蝕もいい。	女性	40 歳代
下の階のエントランスホール含めて、静岡県立美術館の高さ、広さを活かせる作品展が見たいと思いました。	女性	40 歳代
モネ	女性	40 歳代
びじゅチューン！とのコラボしてほしいです。	女性	40 歳代
ダリ、松井冬子	女性	40 歳代
子どもが参加しやすいもの。	女性	40 歳代
モナ・リザ、テオ・ヤンセン（再）	女性	40 歳代
奈良美智さんや絵本作家さんの作品、クラフト・エヴィング商會	女性	40 歳代
川村清雄の作品が新しく所有されていたので、また川村清雄作品をまとめて展示していただきたいです。	女性	40 歳代
ポケモン工芸など、子どもも喜ぶ展覧。	女性	40 歳代
絵本展	女性	40 歳代

内容	性別	年代
子ども向けのワークショップを増やしてほしい。	女性	40 歳代
写真家	女性	40 歳代
三保の砂浜でテオ・ヤンセン氏の作品を動かしてほしい。	女性	40 歳代
ポケモン工芸品作品	女性	40 歳代
切り絵、版画など	女性	40 歳代
日本美術の展覧会もまた開催を期待しています。	女性	50 歳代
レンブラント	女性	50 歳代
ブラマンク（油彩）展	女性	50 歳代
植物の絵が好きなので、植物をテーマにした企画展を見たいです。	女性	50 歳代
ルドン、パウルクレー、バウハウス関連。	女性	50 歳代
若冲	女性	50 歳代
アルフォンス・ミュシャが好きなので、ぜひ。	女性	50 歳代
横尾忠則 寒山百得	女性	50 歳代
草間さんを再び	女性	50 歳代
マチュピチュ展（アンデスの方のやつ）	女性	50 歳代
ミュシャ展をまたやってもらいたいです。	女性	50 歳代
草間彌生をもう一度見たいです。	女性	50 歳代
テオ・ヤンセンの新作が出たら、またやってほしい。	女性	50 歳代
書道	女性	50 歳代
伊藤若冲とかヨシタケシンスケ	女性	50 歳代
ムーミン	女性	60 歳代
香取慎吾、リサ・ラーソン。	女性	60 歳代
お任せします。ミステリーツアー的に楽しみ。	女性	60 歳代
モネ	女性	60 歳代
ジブリ、奈良美智。	女性	60 歳代
有名洋画。	女性	60 歳代
アールブリット	女性	60 歳代
若冲	女性	60 歳代
浮世絵の幽霊シリーズを夏に開催してほしい。	女性	60 歳代
秋野不矩	女性	60 歳代
現代アート、日本画の東山魁夷、平山郁夫が見たい。	女性	60 歳代
ボタニカルアート展	女性	60 歳代
パウル・クレー	女性	60 歳代
若冲	女性	60 歳代
ロダンの彫刻を真似する体操があるのでロダン館に静岡県民のうた募って SNS で流せばおもしろいと思う。	女性	60 歳代

内容	性別	年代
版画を中心のもの。	女性	60 歳代
現代美術（主に日本の）	女性	60 歳代
印象派（富士山だけを集めた絵画展とか）	女性	60 歳代
古代美術展（インカ以外）	女性	70 歳以上
日曜美術館で紹介された時はよく来ます。	女性	70 歳以上
現代アートもどんどん取り入れてほしい。地味感が強いので、風景画等も。	女性	70 歳以上
棟方志功	女性	70 歳以上
ピーターラビット	女性	無回答
アティス、奈良美智、ゴッホ、酒井 抱一、舟越桂。	その他	無回答
ゴーストバスターズ展	無回答	無回答
カナレットとヴェネツィアの輝き		
有名絵画をもっと見てみたい。	男性	12 歳以下
モネ	男性	12 歳以下
セザンヌ、ゴッホ	男性	12 歳以下
シャガール、ゴッホ、セザンヌ	男性	12 歳以下
ロダンと親交のあった画家展覧会。	男性	20 歳代
展示物と現代のかかわりがわかるような展覧。	男性	20 歳代
ミラノの展示（風景画）	男性	20 歳代
動物、虫を題材とした展覧	男性	20 歳代
収蔵品の特集	男性	20 歳代
撮影完全禁止な展覧会。	男性	30 歳代
9 月 29 日までの予定がいっぱいありました。	男性	30 歳代
日本画の風景画	男性	30 歳代
ミュシャ展	男性	30 歳代
印象派	男性	30 歳代
今回のような外国の都市をテーマにして展覧会。	男性	30 歳代
幅広いジャンルの展覧をよろしくお願いします。仏像系など。	男性	30 歳代
歴史関係	男性	40 歳代
印象派	男性	40 歳代
戦国物、印象派	男性	40 歳代
工芸、彫刻、Vtubar・音声解説	男性	40 歳代
エゴンシーレ	男性	40 歳代
風景画、印象派	男性	40 歳代
アニメ、イラストレーターの企画もお願いします。	男性	40 歳代
竹久夢二	男性	50 歳代
日本人の作品。地元の作品をよく見てみたい。	男性	50 歳代

内容	性別	年代
若冲、現代アート	男性	50 歳代
お任せ。	男性	50 歳代
舟越父子～保武、桂展	男性	50 歳代
写実主義	男性	50 歳代
オールド・マスター、クールベ、フォーヴィスム等の重厚な西洋絵画展	男性	50 歳代
スペイン・バルセロナに関する展覧。	男性	50 歳代
印象派	男性	50 歳代
ヨンキント作品見たいです。	男性	50 歳代
手塚治虫原画展	男性	50 歳代
文明展を開催してほしい。写実主義の展示を見たい。	男性	50 歳代
Tate Britain 展	男性	60 歳代
若冲	男性	60 歳代
近代日本画の巨匠（大観、平山郁夫、東山 魁夷など）	男性	60 歳代
久しぶりに現代美術の企画があるとうれしいです。	男性	60 歳代
ピーターラビット展	男性	60 歳代
風景画、風俗画	男性	60 歳代
若冲、琳派	男性	60 歳代
浮世絵、アニメ	男性	60 歳代
センスに期待しています。	男性	60 歳代
中部横断道（新潟、長野、山梨、静岡）4 県の美術館のコラボ企画展。	男性	60 歳代
浮世絵	男性	60 歳代
風景画、地味ですが地図、景観図。	男性	60 歳代
ルノワール	男性	60 歳代
油絵（古い時代のもの）	男性	70 歳以上
モネ	男性	70 歳以上
明治～大正時代の日本画家の作品展。	男性	70 歳以上
アニメ展をやってほしいです。	女性	12 歳以下
お化け屋敷	女性	12 歳以下
風景画を見たいです。	女性	12 歳以下
岩科蓮花さんの書道展。	女性	13～19 歳
古代ローマやギリシャの彫刻。	女性	13～19 歳
海外の彫刻など。	女性	13～19 歳
ロシアの風景画	女性	13～19 歳
印象派	女性	13～19 歳
ゴッホ	女性	13～19 歳
ゴッホ、モネ	女性	13～19 歳

内容	性別	年代
西洋絵画、源氏物語絵巻	女性	13～19 歳
図形等	女性	13～19 歳
谷内六朗展、ヤクブ・シカネーダー展	女性	13～19 歳
perfume の衣装とかライブ写真とかきゅりーぱみゅぱみゅの衣装とかライブ写真とかです。	女性	20 歳代
エジプトの展覧、モネ展、ピカソ展、ダリ展	女性	20 歳代
グスタフ・クリムト展の開催。	女性	20 歳代
サルバドール・ダリの展覧会。	女性	20 歳代
抽象画、強い感じの油絵展。	女性	20 歳代
モーリス・ユトリロ	女性	20 歳代
ディズニー	女性	20 歳代
西洋美術の展覧会に興味があるので、また企画があったらうれしいです。	女性	20 歳代
モネ展	女性	20 歳代
子犬の絵（円山応挙、長沢蘆雪、俵屋宗達など）	女性	20 歳代
フランス、北欧（デザイン、建築等）	女性	20 歳代
またヨーロッパの美術展をやってほしいです。	女性	20 歳代
モネを主としたもの。	女性	30 歳代
以前あったミッフィー展のように、子どもも主体的に楽しめる展示。	女性	30 歳代
またエジプト展をやってください。水木しげるの展示も見てみたいです。	女性	30 歳代
ミュシャ	女性	30 歳代
ダリ、現代、バンクシー	女性	30 歳代
絵本展	女性	30 歳代
見てわかりやすくきれい、すごいと思うもの（子どもでもわかるような）。	女性	30 歳代
西洋画	女性	30 歳代
浮世絵など	女性	30 歳代
ダリ	女性	30 歳代
バロック美術（特にスペイン）	女性	30 歳代
ギュスターヴ・モロー	女性	40 歳代
文明に関する展覧。	女性	40 歳代
絵本展とか好きです。	女性	40 歳代
絵本のキャラクター。	女性	40 歳代
エゴンシーレ、ゴシック	女性	40 歳代
日本画（知られざる良い作品など）	女性	40 歳代
古代ローマやエジプト展作品が見たい。	女性	40 歳代
現代美術作家の小さい、大きいにかかわらず（有名、有名じゃない）、いろんな手法を知りたい。	女性	40 歳代
アニメ等	女性	40 歳代

内容	性別	年代
日本人画家（東山魁夷など）など	女性	40 歳代
古代文明展（国内外問わず）	女性	40 歳代
モネ展が見たい。	女性	40 歳代
近代美術のものも多く扱ってほしい。日本画も。	女性	40 歳代
カラバッチョ	女性	40 歳代
ヨーロッパ印象派、日本画	女性	40 歳代
岩合さんのねこ展	女性	40 歳代
仙厓さんとか白隠慧鶴とかどうでしょうか。まだ越してきて3年目ですが、最近、沼津の白隠禪師を知りました。	女性	40 歳代
シャガール展、ゴッホ展、セザンヌ展	女性	40 歳代
能に関する催し。	女性	40 歳代
ヴェネチアングラスの展示。	女性	50 歳代
ターナー、ロイスダール	女性	50 歳代
ゴッホ、アンドリュー・ワイエス	女性	50 歳代
また江戸時代の日本美術の展覧会が見たいです。	女性	50 歳代
草間さん（赤の水玉模様）が好き。	女性	50 歳代
19 世紀のポスター展。	女性	50 歳代
アンリ・ルソー	女性	50 歳代
モネやルノアールも見たいです。	女性	50 歳代
西洋絵画、彫刻	女性	50 歳代
小倉遊亀	女性	50 歳代
南アジアの美術	女性	50 歳代
「ピーターラビット展、またはビアトリクス・ポター展」を強く希望します。原画でなくても良いですから。ピーターラビットのグッズも売店でたくさん買いたいです。	女性	50 歳代
写実的な絵画など。	女性	50 歳代
日本画	女性	50 歳代
日本では見られない海外の美術館の所蔵のもの。	女性	50 歳代
次回の無言館展も良い企画だと思います。国内でもなかなか足を運べない美術館の紹介・出張展があるとおもしろいと思います。	女性	50 歳代
版画、民芸、染物	女性	50 歳代
日本画	女性	50 歳代
西洋	女性	50 歳代
絵本作家関連、イギリスの肖像画	女性	50 歳代
印象派	女性	50 歳代
今、海の汚れが多いとのことでそれを中心とした作品。	女性	60 歳代
費用的なこともあるが、油絵等、ゴッホ展とか。	女性	60 歳代

内容	性別	年代
現代アート	女性	60 歳代
ルネサンス～のヨーロッパ絵画に興味を持っています。今後できれば年に2回ほどは開催していただきたいと思っています。	女性	60 歳代
海外（特にルネサンスあたり）の作品を見せていただけると嬉しいです。	女性	60 歳代
東山魁夷さんの展示	女性	60 歳代
明治の超絶技巧の金属作品や陶芸品。	女性	60 歳代
海外や国内の美術館の所蔵品展。	女性	60 歳代
印象派展	女性	60 歳代
版画にまつわる展示を。	女性	60 歳代
伊藤若冲	女性	60 歳代
水彩画	女性	70 歳以上
印象派展	女性	70 歳以上
モネ展が見たい。	女性	70 歳以上
ゴッホの展示	女性	70 歳以上
グスタス・クリムト、モネ、シャガール（シャガール展はこの美術館で幾度もやっていると思いますが、何度でも見たい）。	その他	30 歳代
カナレットとピラネージが推しなので最高でした。またやってください。	その他	50 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
彫刻	男性	12 歳以下
ポケモン（熱海の美術館で楽しかったから）	男性	12 歳以下
戦後美術	男性	20 歳代
日本の近代彫刻の歴史を振り返る展覧会を見たことがないので見てみたいです。ロダンやムーニエなど影響を与えた海外の勅国を含めて。	男性	30 歳代
猫の絵	男性	40 歳代
東山魁夷	男性	40 歳代
モネ、クリムトなどの西洋画。	男性	40 歳代
印象派、風景画	男性	40 歳代
相田みつお	男性	50 歳代
アールヌーヴの頃のガラス作品。	男性	50 歳代
もう一度、山水画を企画していただけたら嬉しいです。	男性	50 歳代
ホキ美術館展	男性	50 歳代
竹久夢二	男性	50 歳代
ホキ美術館展	男性	50 歳代
収蔵品展	男性	50 歳代
内外を問わず近代美術の展覧、印象派絵画展。	男性	60 歳代
横山大観等	男性	60 歳代

内容	性別	年代
また現代美術を企画してほしいです。	男性	60 歳代
現在、沼津の庄司美術館での3人の作品をこちらでも取り上げてほしいです。	男性	60 歳代
近現代の作家の作品が見たい。いま気になっているのは、芥川沙織、篠田桃紅など。	男性	60 歳代
横尾忠則さんの特集	男性	60 歳代
素人にも興味を持てるような展示内容を。	男性	70 歳以上
若冲展	男性	70 歳以上
棟方志功展	男性	70 歳以上
ダリ展	男性	70 歳以上
柚木沙弥郎展	男性	70 歳以上
perfume 初の大規模衣裳展	女性	20 歳代
音楽、楽器、作曲家についての展示。	女性	20 歳代
ミュシャ展をまたやってほしい。	女性	30 歳代
昔の有名な方の作品以外で、最近の新しい人、注目されている人などの、あまり有名ではないが期待されている方たちの作品を集めたような展覧会。	女性	30 歳代
近現代日本作家の洋風美術作品	女性	30 歳代
現代アート、西洋画、日本画	女性	30 歳代
工芸の展覧会を開催してほしいです。	女性	30 歳代
光琳	女性	40 歳代
演劇に関連。	女性	40 歳代
ワークショップを開催してほしいです。	女性	40 歳代
海をテーマにした展示。	女性	40 歳代
村上隆展、舟越桂展、三沢厚彦展、ならともはる？（名前が定かでないです）	女性	50 歳代
ロダン美術館にいつも人がいなくて残念。奥の部屋が分かりづらい。チラシにしか載っていない情報があり、HP が分かりづらい。	女性	50 歳代
クレモニーニ	女性	50 歳代
県ゆかりの作家の作品。	女性	50 歳代
焼物、器の類。	女性	50 歳代
伊藤若冲展	女性	50 歳代
花に関係したもの。	女性	50 歳代
ゴッホ展	女性	50 歳代
また、このような静岡ならではの企画をぜひ。	女性	50 歳代
日本美術が好きなので、江戸絵画の展覧会があるとうれしいです。	女性	50 歳代
現代アート	女性	50 歳代
自然が近くにあるので、オリエンテーリング的な野外展示も。	女性	50 歳代
遠方（国内）の美術館のコレクションが見たいです。	女性	50 歳代
江戸美術	女性	60 歳代

内容	性別	年代
フェルメール	女性	60 歳代
ムーミン展をやってほしい。	女性	60 歳代
長野のちひろ美術館の作品も…。	女性	60 歳代
県立美術館の所蔵？のゴッホのひまわり。若冲の絵（？）を展示してほしい。	女性	60 歳代
漆器の歴史、漆器展	女性	60 歳代
地元ゆかりの方の作品。	女性	60 歳代
実際の無言館の佇まいが感じられました。	女性	60 歳代
今年亡くなった絵本作家、せなさん、谷川さん…原画展など。	女性	60 歳代
昆虫展が巡回ででも来てくれるとうれしいです。	女性	60 歳代
シュルレアリスム	女性	60 歳代
童画展が開催されるといいですね。	女性	70 歳以上
水彩画展	女性	70 歳以上
今回のような心にしみる展覧会がいいと思いました。	女性	70 歳以上
無言館の作品をまた見たいです。	女性	70 歳以上
若冲展	女性	70 歳以上
はにわ	女性	70 歳以上
アレキサンダー・カルダー展、琳派展、ジョン・ケージ展、ピラネージ展にアンコールをかけたいです。	女性	無回答

Q9 レストランまたはミュージアム・ショップ、情報コーナーへのご意見等

レストランまたはミュージアム・ショップ、情報コーナーへのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、128 件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4		
	レストラン			ミュージアムショップ			情報コーナー			その他		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
テオ・ヤンセン展	6	10	1	10	6	2	1	0	0	6	4	0
カナレットとヴェネツィアの輝き	8	11	4	3	8	3	3	0	1	5	3	0
無言館とかつてありし信濃デッサン館	8	6	9	1	0	1	2	1	0	3	5	0
全体	22	27	14	14	14	6	6	1	1	14	12	0

単位：件

< A 感想 >

【1 レストラン】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
レストランのカルボナーラがとってもおいしかった。	女性	12 歳以下
レストランは池の景色が良かった。	女性	40 歳代
好き嫌いの多い息子がパスタやスープをよく食べ、びっくりです。お店の方の対応も良く、よかったです。	女性	40 歳代
おいしかったです。	女性	40 歳代
レストランは割引きがあって、とてもおいしかったです。	女性	50 歳代
レストランのパスタがおいしかったです。	女性	50 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
レストランのメニューと内容がマッチしていて面白いと思う。	男性	50 歳代
レストランは営業していますか。	男性	60 歳代
「折戸なすと生ハムのそうめん」がすごくおいしかった。また食べたい。	男性	60 歳代
企画展のチケット割引を受けられたので、レストランでおいしい食事を楽しむことができました。	男性	60 歳代
レストラン、おいしかったです。	女性	20 歳代
展覧会メニューがあって良かった。	女性	40 歳代
涼しくなったらもっと早めに来てレストランを利用したいです。	女性	40 歳代
おいしかったです。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
レストラン営業が再開されていると知らなかった。	男性	50 歳代

内容	性別	年代
レストランでチケットを提示すると割引サービスが受けられるメニューがあることが素敵だと思いました。	男性	60 歳代
パスタの美味しいお店なので、来館した時は必ず寄ります。	男性	60 歳代
おいしかったです。	女性	40 歳代
この後レストランを利用します。楽しみです。	女性	60 歳代
展示にそった名前で提供されていて良い。来所する度に食べる。	女性	70 歳以上
ランチをいただきました。おいしかったし、接客も感じ良かったです。	女性	70 歳以上
大盛パスタ頑張っておいしく完食しました。が、小盛のメニューもあるとうれしい。	女性	70 歳以上

【2 ミュージアム・ショップ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
ミュージアム・ショップに見本があって良かった。	男性	12 歳以下
ミュージアム・ショップでテオ・ヤンセンの作品模型があって良かったです。	男性	60 歳代
ポストカードがたくさんあって良かったです。	女性	13～19 歳
ビーストが実際に動かす体験ができて購入したい気持ちが強くなった。	女性	30 歳代
ミニビーストを購入しました。つくるのが楽しみです。	女性	40 歳代
ちょっとずつ魅力的なショップになっていると思う。	女性	40 歳代
ミュージアム・ショップは特色のある商品が多く楽しかったです。	女性	40 歳代
ミニビーストが買えて良かった。	女性	40 歳代
ミュージアム・ショップ、楽しかったです。	女性	50 歳代
毎回、思い出にハガキや商品を買って帰ります。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
ミュージアム・ショップ、素敵です。維持して行ってほしいです。	女性	50 歳代
ショップはいつも楽しみにしている。	女性	60 歳代
買い物をして帰るのが楽しみ。どんどんお金を落として経済を回させてください。	その他	30 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
彫刻の本が豊富でうれしかったので何冊も購入してしまいました。	女性	50 歳代

【3 情報コーナー】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
情報コーナーはこちらの展示ではない図録も置いてあって、とても良かった。ミュシャ展に行けなかったの。	女性	50 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		

情報コーナー、快適でした。雨宿りしました。	女性	20 歳代
チラシやポスターで遠方の情報が収集できありがたい。	女性	40 歳代
情報コーナーは自販機がありましたが、多少の飲食は可？不可？	女性	50 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
情報コーナーができてから来たのが初めてで、日本国内の色々な展示会の情報が知れて、とてもありがたかったです。コロナに気を付けて遠出できるようになったので、ぜひ見に行きたいものがいくつも見つかります。	女性	50 歳代
情報コーナー色々資料があり、風景も良かった。	女性	60 歳代

【4 その他】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
このままでいい。	男性	12 歳以下
中学校に美術のチラシを掲示するのに大変役立っています。	男性	50 歳代
笑顔で親切に対応していただき、ありがとうございました。	女性	30 歳代
忙しい中、がんばっておられました。	女性	30 歳代
きれいでした。	女性	30 歳代
今から利用します。	女性	40 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
3D ロダンが良かった。	男性	12 歳以下
今のままで良いと思います。	男性	50 歳代
今度、利用したいです。	女性	40 歳代
今日はあまり時間がなく利用しませんでした。次は利用したいと思います。	女性	50 歳代
ロダンのクイズ難しかった。わからない。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
活動活発で楽しそうな様子が伝わってきました。	男性	40 歳代
きれいで良い環境。	男性	70 歳以上
親切でした。	男性	70 歳以上

<B 要望>

【1 レストラン】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
フライドバスケットにパンが付くとうれしいです。	男性	12 歳以下
コラボメニューがレストランにあるとうれしいです。	男性	30 歳代
メニューがもう少しあるとうれしいです。	男性	30 歳代
レストラン、子ども向けのメニューがもう少しあれば良いと思いました。	男性	30 歳代

内容	性別	年代
手頃なスイーツ、テイクアウトの販売。	男性	40 歳代
レストランがもう少し安いメニューがあると助かります。または、テイクアウトみたいな気軽なお店。	女性	50 歳代
営業時間を長くしてほしい。	女性	50 歳代
またレストランが本格的に始まるとうれしいです。	女性	60 歳代
レストラン、もう少し長めに開いてほしい。	女性	60 歳代
レストラン、もう少し気軽に入れる値段のものもほしい。	女性	70 歳以上
カナレットとヴェネツィアの輝き		
展示に関連した食事。	男性	60 歳代
レストランの食べ物のメニュー数を多くしてほしい。	女性	30 歳代
日本平ホテル直営レストランに戻してほしい。	女性	40 歳代
レストラン、カフェがもう少し長く OPEN してほしい。	女性	40 歳代
SNS 等で情報発信してほしい。メニューや休みの日など。	女性	50 歳代
レストランに緑茶のメニューがあると良いと思う。	女性	50 歳代
展覧作品にちなんだスイーツ等を出してほしい。	女性	50 歳代
レストランの充実。	女性	50 歳代
イベントメニューをホームページでも出してほしい。	女性	60 歳代
レストラン、再開してほしい。	女性	60 歳代
レストランで日本茶が飲めると良い。	女性	70 歳以上
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
レストランがドリンクだけでももう少し遅くまで飲めるとありがたい。	女性	30 歳代
肉料理が食べたいです。	女性	40 歳代
飲み物のメニューはもっと多くても良いと思う。	女性	50 歳代
レストラン再開してほしいです。	女性	60 歳代
お土産用のクッキー（良質な）があるといいですね。	女性	70 歳以上
レストランの営業時間の延長（午後 3 時以降）を希望します。	女性	70 歳以上

【2 ミュージアムショップ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
テオ・ヤンセン展のポストカードをバラ売りしてほしい。	男性	60 歳代
低プライスな商品を置いてほしい。	男性	60 歳代
収蔵品のポスターなどをもっとあると思う。	男性	60 歳代
オリジナル商品をもっと増やす。	女性	40 歳代
ロダングッズは国立西洋とコラボできたらなと思いました。	女性	40 歳代

内容	性別	年代
プライスが子どもでも買えるものを増やしてほしい。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
グッズの充実。	男性	40 歳代
ショップで、現役地元アーティストや館おススメのアーティストの手頃な値段で購入できる作品を扱うと面白そう。	男性	50 歳代
ミュージアム・ショップで今回のように実際に展示をしている絵ハガキをわかるように販売してほしい。	男性	50 歳代
インスタでイタリアのローマかフィレンツェの女性がクロネコと風景（ローマ？）のイラストを上げています。グッズになっていたらかわいいと思いました。	女性	13～19 歳
ミュージアム・ショップでポーチ発売と作品集発売とステッカー発売をしてほしいと思います。	女性	20 歳代
ショップにもう少し品を増やしてほしい。	女性	50 歳代
B4の額装がありましたが、持ち帰るのにでかい。せめてB5かA4サイズがいいかなと思います。	女性	50 歳代
関連グッズ（画集でもグッズ、ポスカでも）あったらもっと散財したのに。	その他	50 歳代

【3 情報コーナー】

内容	性別	年代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
情報コーナーで、展覧会に関する動画を放映してほしいです。	女性	40 歳代

【4 その他】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
静岡県民は半額でお願いします。	男性	40 歳代
スターバックスがあると良いと思う。	男性	70 歳以上
喫茶店がほしい。	女性	40 歳代
傘を置いてほしい。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
もう少し奥深い充実感、明るさ。	男性	50 歳代
チラシ（美術館関係）を多く置いてほしい。	女性	50 歳代
カフェを再開してほしい。	女性	50 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
展示の照明について、もう少し明るく。	男性	60 歳代
傘をもっと増やしてほしい。	女性	60 歳代
カフェが復活するとうれしいです。	女性	60 歳代

内容	性別	年代
気楽に休める喫茶店がほしい。	女性	70 歳以上
カフェ、グッズ、書籍をそれぞれ充実させて、独立させてほしい。	女性	無回答

<C 苦情>

【1 レストラン】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
レストランの席までの案内が遅い。空いているのにすぐには入店させないの何か理由がありますか。	女性	60 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
レストランでおばあちゃんグループの話し声が大きくてくつろげません…。	女性	50 歳代
そこで食べたいけれども、レストランの代金が高いです。	女性	50 歳代
せめて 16 : 00 までは開いてほしかったです。	女性	60 歳代
レストランが高い。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
レストランのメニューが少ない。	女性	50 歳代
ちょっとアイスコーヒーが薄いと感じました。	女性	60 歳代
営業時間が短いのでは？	女性	60 歳代
レストランは閉まっていることが多いです。	女性	70 歳以上
レストランは閉まっていることが多いです。	女性	70 歳以上
日曜日に来たのにレストランがやっていなくて不満でした。利用したいので開いてください。	女性	70 歳以上
土、日曜日に来たのに喫茶、レストランが閉まっていたり、なかったり、県の施設としてはお粗末。	女性	70 歳以上
スプーンが使いにくい。なくても可。大きさにマッチしない。	女性	70 歳以上
コーヒーでもと思いましたが、閉まっていました。早く閉まりすぎだと思います。	女性	70 歳以上

【2 ミュージアムショップ】

内容	性別	年代
テオ・ヤンセン展		
ミュージアム・ショップ、いつもより商品が少なくて残念。	女性	60 歳代
ミュージアム・ショップ、この企画だけのスタッフの方なのか、何かきつい感じのする方がいて、売らんかなが強い気がしました。	その他	50 歳代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
子どもを連れてきた際、ミュージアム・ショップで何か工作などの品を買って帰っていたのがなくなり残念。食品や今までにない品も増え、それは良いと思いますが、子どもも楽しめるグッズなどもあるとうれしいです。	女性	30 歳代

内容	性別	年代
ショップでおばあちゃんグループの話し声が大きくてくつろげません…。	女性	50 歳代
ショップの品が高い。	女性	60 歳代
無言館とかつてありし信濃デッサン館		
ミュージアム・ショップの店員の私語が気になります。	その他	30 歳代

【3 情報コーナー】

内容	性別	年代
カナレットとヴェネツィアの輝き		
情報コーナーもビデオの音声が大きすぎます。	女性	50 歳代

静岡県立美術館50年計画《概要版》

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022～2026年度（開館40周年）

基本理念

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的に行います。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

実施方針

1 収集 ～コレクションの持続性～

○作品の収集方法

- ・コレクションの継続的な調査研究に基づいた、静岡県にゆかりのある作品等の収集
- ・収集は、購入、寄贈により行い、財源の継続的な確保、外部資金、等の検討

○開館40周年記念作品の収集

- ・山水・風景画を中心に広く情報を集め、県民に愛される作品を収集

2 保存 ～アーカイブの構築～

○作品の保管、管理

- ・館内外の環境の維持、収蔵庫の改修、拡張を検討

○作品の修理、修復

- ・40周年に向けて計画的な修復

○情報の保存とアーカイブの構築

- ・作品、書籍等のデジタルアーカイブの構築による検索利便性向上、作品情報の検証

3 展示 ～コレクションを核とした企画～

○企画展

- ・コレクションを核とした企画の重視、学芸員の自主企画による展覧会の充実
- ・過去と現在を踏まえて未来に向かう40周年の記念展の開催に向けた計画的な準備

○収蔵品展

- ・各ジャンルの作品をバランスよく展示、コレクションの新たな楽しみ方のプログラムの実施
- 移動美術館
- ・特別版の大規模展示、これまでにない施設での展示など、新たな開催方法の検討

4 教育普及 ～Webコンテンツの拡充～

○館内での取り組み

- ・利用者に合わせたトークイベント、創作活動プログラム等の実施
- ・学校教育活動の重要な要素となるプログラムの提供、特別支援学校との連携促進

○館外での取り組み

- ・学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動、Web上のコンテンツの拡充

5 調査研究 ～研究成果の公表～

○調査研究

- ・学芸員の調査研究の一層の充実、成果の発表
- ・収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究の実施、国内外の研究者との交流
- 書庫・図書室
- ・図書、作品資料の収集の確保、デジタルアーカイブとの連動による図書データの公開

6 広報 ～戦略的な広報展開～

○広報体制の充実

- ・文化施設の広報についての専門知識やメディアに精通した者を加えるなど広報体制の検討
- 情報発信機能の強化
- ・最新の情報をHP、SNS等での発信、デジタルアーカイブの構築・公開等
- 教育機関との連携
- ・県内小中高等学校への効果的な情報提供、県内大学と連携した情報提供、情報発信

○観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携

- ・観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携
- ・観光デジタルプラットフォームとの連携、多様な文化芸術活動団体との連携

7 環境・施設整備 ～安心安全な鑑賞環境の維持～

○施設の適切な管理と快適な環境の整備

- ・施設の維持保全、改修の速やかな対応
- 来館者の満足度向上
- ・来館者や第三者評価委員会からの意見、アンケート分析により速やかに対応
- ・館内の通信環境の向上、キャッシュレス決済のデジタル化の促進
- 駐車場、収蔵庫の整備

8 運営 ～運営基盤の強化～

○運営基盤の拡充

- ・継続的な通常予算、国等からの補助金、民間協賛金等外部資金等の確保
- 業務の効率化
- 企業との連携強化による運営の充実
- ・企業の研修、顧客セミナーへの学芸員の派遣による美術館への理解

静岡県立美術館5ヵ年計画

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022年3月

静岡県立美術館

目 次

I 計画の位置付け

- 1 策定の趣旨 1
- 2 計画期間 1

II 計画策定にあたって

- 1 開館から 35 年 1
- 2 これからの県立美術館 2

III 基本理念（県立美術館の目指す姿） 3

IV 重点方針 3

V 基本方針（基本理念を具体化する方針）

- 1 収集 4
- 2 保存 5
- 3 展示 6
- 4 教育普及 7
- 5 調査研究 8
- 6 広報 9
- 7 環境・施設整備 10
- 8 運営 11

VI 年度別計画 別紙

I 計画の位置付け

1 策定の趣旨

静岡県立美術館は、1986年（昭和61年）の開館から2021年（令和3年）で35周年を迎えました。この間、美術品の収集と展示を通じて、広く県民に美術作品の鑑賞と創作活動の場を提供してきました。

本計画は、これまでの実績と課題を踏まえ、2026年（令和8年）の開館40周年に向けての運営指針として策定します。

2 計画期間

2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間に計画期間とします。

II 計画策定にあたって

1 開館から35年

静岡県立美術館は、県議会百年記念事業の一環として建設計画が進められ、1986年（昭和61年）4月に開館しました。静岡県の風土性に鑑み作品収集の基本方針を山水・風景画と定め、現代の美術状況や県ゆかりの作家・作品などにも目配りのうえ、特徴あるコレクション形成に努めてきました。展示活動においては、開館記念展「東西の風景画」を皮切りに、幅広い時代の美術を対象とした多様な展覧会を開催し、これまでに620万人を超える観覧者を迎えています（2020年度末）。また、1994年（平成6年）に新設したロダン館は、ロダンを中心とした近代の西洋彫刻の常設展示スペースとして、風景表現と並び静岡県立美術館を特徴づける重要な柱となっています。

創作と鑑賞をつなぐ多彩な教育普及プログラムも、静岡県立美術館の特色のひとつです。とりわけ近年整備を進めてきた学校向け事業においては、コレクションを元にした様々なプログラムを通して学習を支援し、連携を強化してきました。

今年度、静岡県立美術館は開館35周年を迎えました。収集、保管、公開、教育普及、そしてそれらすべての根幹となる調査研究、これら基盤活動を充実させ、美術館本来の役割を着実に果たすことで静岡県の文化振興に寄与してきましたが、35年を経て、美術館を取り巻く情勢は大きく変化してきており、その対応が急務となっております。

2 これからの県立美術館

現代社会においては、美術の表現ばかりでなく、その発表のスタイルもメディアも多様化しています。美術館は教育から学習の場に変わり、利用者が多様な美術に出会い、考え、理解し合う場となることが求められています。また、急速なデジタル技術の進展は、美術と人間、美術と社会との関係を変え、展覧会を中心としたこれまでの美術館活動に変容を迫っています。

また、2019 年末から世界を脅かしている新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変し、美術館においては、感染拡大を受け企画展の来館者の減少、体験を伴う講座の中止など、大きな影響を受けてきました。今後、体験を重視したこれまでの美術館の運営にも大きな見直しが迫られている中、当館においては本年度デジタルアーカイブを進め、作品をどこからでも閲覧できるシステムを構築しております。

アフターコロナに向けては、デジタル社会に主体的に関わっていくと同時に、本物と出会い五感で感じるリアルな体験の場として機能してきたことの意義を再確認し、デジタルとリアルの融合を図っていく必要があります。

さらに、SDGs に対応した持続可能な社会の実現に向けて、多様性についての理解につながる展示活動や開かれた質の高い教育機会の提供など、美術館活動を通じた貢献が期待されております。長らく静岡県立美術館が収集方針としてきた山水・風景画について、今日的な視点に基づいてその意義を捉え直し、発信していく必要もあります。

以上のことを踏まえ、時代に左右されない美術館の本質的な意義と、この時代の美術館として果たすべき役割を常に考えながら、持続的に活力ある美術館活動を展開するために本計画を策定しました。

また、新たな基本理念を定め、美術館の目指すところを、より実践的な形で表現することとしました。

人間の営為の記録として受け継がれる、あるいは同じ時代を生きる人によって生み出される美術表現に触れることは、現在から過去を振り返り、同時に過去から現在を照らし出し、未来を見通す手がかりとなります。美術館は、そのような体験を提供することで、人々がそれぞれに創造的に生きるための勇気を得られる場でありたいと考えます。5 カ年計画の実践を通して、その実現を目指してまいります。

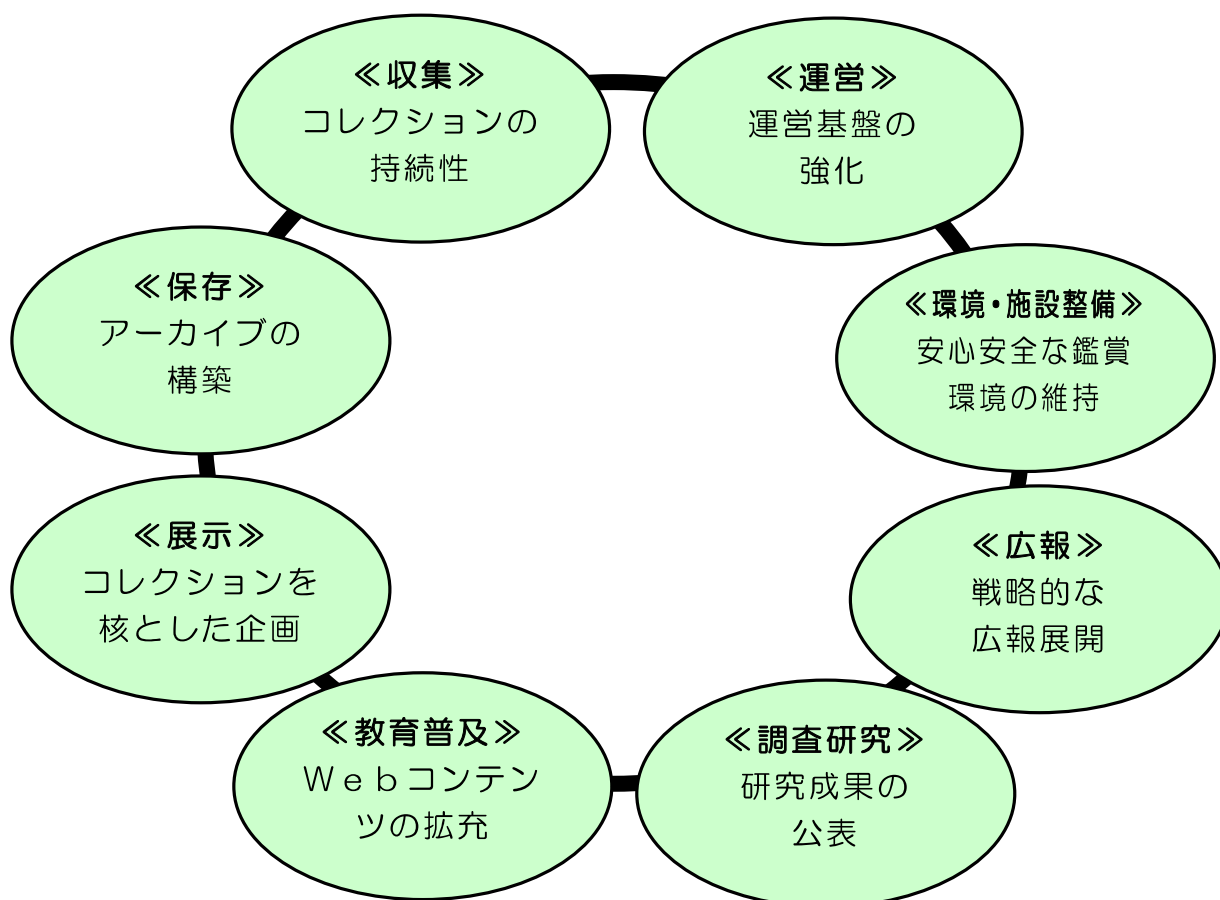
Ⅲ 基本理念（県立美術館の目指す姿）

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

Ⅳ 重点方針



V 実施方針（基本理念を具体化する方針）

1 収集

コレクションは美術館活動の基盤であり、作品を持続的に収集することでコレクションを成長させ、未来へ伝えていくことは、現代を生きる美術館の責務であると考えます。収集方針に則り、今後も優れた作品の収集を適正に行い、美術館の核となるコレクションの充実に努めます。

（１）作品の収集方法

コレクションの継続的な調査研究に基づいて、静岡県にゆかりのある作品や、既存のコレクションと関連の深い作品に関する情報を集めます。そのなかから、美術館の活動の幅を広げる作品、新たな価値が見出された作品を収集の対象としていきます。

作品の収集は、購入、寄贈により行い、購入にあたっては財源に留意し、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、寄付金等の外部資金や来館者収入に応じた購入経費の確保などについても検討します。

（２）開館 40 周年記念作品の収集

開館 40 周年事業として、記念となる作品の収集を目指します。収集方針を踏まえ、山水・風景画を中心として広く情報を収集し、長く静岡県立美術館の顔として県民の皆様に愛される作品の収集へと結びつけます。

2 保存

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品を適宜修復し、館内外の保存環境を適切に維持し、デジタルアーカイブ化を推進します。

(1) 作品の保管、管理

県民の財産である作品を良好な状態で保存するために、展示室を始めとする館内外の環境を適切に維持します。

収蔵品を適切に管理するため、収蔵庫の改修、拡張を検討します。

(2) 作品の修理、修復

通常の作品修復に加え、修復にあたって複数年を要する収蔵品をリストアップし、40周年に向けて計画的に修復していきます。

(3) 情報の保存とアーカイブの構築

美術館で所蔵する作品・作家資料、書籍等の情報を継続的に収集し、デジタル化して整理します。作品等のデジタルアーカイブの構築により、美術情報の検索利便性を高めるとともに、作品にまつわる情報を不断に検証し、後世へと伝えます。

3 展示

美術館における作品収集や調査研究の成果は、展覧会活動を通して広く開かれ、共有されることで、現代を生きる人々の糧となって社会に息づいていきます。

これまでの展覧会の組み立てや運営方法を踏まえつつ、企画展の開催規模や時期についてより柔軟に対応するなど開催手法を再検討し、魅力的な展示事業につなげていきます。

(1) 企画展

コレクションを核とした企画を重視しつつ、学芸員の自主企画による展覧会の充実を図ります。

40周年記念展の開催に向けて、計画的に準備を進めます。これまでの調査研究や収集・展示活動の成果を御覧いただき、今後の発展につなげる展示、多様性に重きを置いた新しい切り口による展示など、過去と現在を踏まえて未来に向かう、周年にふさわしい展覧会を目指します。

(2) 収蔵品展

各ジャンルの作品をバランスよく御覧いただくとともに、シンポジウムの開催や関連普及イベントの開発など、コレクションの新たな価値や楽しみ方を発見していただくためのプログラムを実施します。

また、2024年（令和6年）に30周年を迎えるロダン館についても、記念事業や県民の財産としての認知を更に深めていただけるような展示を検討していきます。

(3) 移動美術展

今後も県内の美術館や公共施設での開催を継続するとともに、特別版の大規模展示、これまでにないタイプの施設での展示など、新しい開催方法を検討します。

4 教育普及

I o TやA Iなどをはじめとする技術革新が進展し、社会や生活が大きく変化し予測困難な時代の中、これまで以上に美術の鑑賞や制作体験を通して感性を働かせる体験は、豊かで柔軟な心を育み、健やかな生活の実現につながります。県立美術館では、美術をより深く理解し、感じていただくため、講演会や美術講座等に加え、創作活動プログラムなどにより、美術の教育普及に積極的に取り組んでいきます。

(1) 館内での取り組み

美術に関する関心や習熟度には幅があることから、利用者に合わせたトークイベントや創作活動プログラム等を実施します。また、来館する学校に対しては、教育活動の重要な要素となるようなプログラムを提供するほか、特別支援学校との連携もさらに進めていきます。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">・企画展ごとの有識者講演、館長講演・学芸員による美術講座、アーティストトーク、ボランティアによるギャラリートัวร์・ロダン館デッサン会・実技講座、ちょこっと体験・ねんど開放日、えのぐ開放日
学校向け	<ul style="list-style-type: none">・ねんど教室、えのぐ教室、ロダン館ななふしぎ、ロダン館デッサン、美術館裏方ツアー、ボランティアスタッフとの鑑賞・学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ

(2) 館外での取り組み

学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動を行うとともに、Web上のコンテンツを拡充し、さらに幅広く県民へサービスを提供します。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">・移動美術展での関連イベント実施・出張講座・Webコンテンツの開発
学校向け	<ul style="list-style-type: none">・粘土、アートカード、作品レプリカなどオリジナル教材キットの貸出・出張美術講座・図工・美術をはじめとした授業への協力・教員研修協力

5 調査研究

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤と考え、展示や収集、教育普及とも関連することから、引き続き重点的に取組み、その成果については広く公表することで質の向上を図ります。

(1) 調査研究

学芸員の調査研究をより一層充実させ、展覧会、図録、教育普及事業などを通して、その成果を広く発表します。調査研究の基礎を支えるため、毎年の研究紀要の刊行、月1回の研究会の実施を継続し、内容を深めていきます。

また、収蔵作品の内容に関する学術的な調査研究のみならず、収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究を実施します。国内外の研究者とも交流するなど、幅広く情報を収集し、研究につなげ、これらの成果を県民に広く提供します。

(2) 書庫・図書室

調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を質、量とともに確保し、デジタルアーカイブと連動し、図書データを公開します。

また、図書室運営については、定期的に司書が図書の管理を行うことを検討するほか、美術館ボランティア等の協力により常時閲覧できる体制を整え、県民の利便性向上を図っていきます。

6 広報

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、マスメディアの活用、Webサイトの充実、SNSを活用した情報発信などを進めるとともに、教育機関、観光業界、アーツカウンシルしずおかなど地域との連携を行い、積極的な広報を展開します。

(1) 広報体制の充実

美術館情報を効果的に広報していくため、文化施設の広報について専門的な知識を有しメディア等に精通した者を加え、職員で組織する広報委員会と連携して広報体制を検討し、戦略的な広報を展開します。

(2) 情報発信機能の強化

企画展や収蔵品情報など、常に最新の情報をホームページやSNS等で発信するほか、マスメディアにも積極的に情報発信します。

また、県立美術館デジタルアーカイブを構築し、ホームページで公開し、いつでもどこにいても美術館の作品を楽しめる取り組みを進め、本物を見たいという来館動機につなげていきます。

(3) 教育機関との連携

未来を担う創造性豊かな人材を育成するため、県内すべての小中高等学校に学校教育の中で美術館を活用していただくよう定期的に効果的な情報提供を行います。

また、県内大学においては、学生への情報提供や学生からの情報発信ができるしくみを構築するほか、授業等で学芸員の講義を行うなど連携強化を検討します。

(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携

地域における文化財の保存・活用を趣旨とした2018年の文化財保護法の一部改正を踏まえ、観光業界と地域等との連携を促進するため、観光デジタルプラットフォームと連携した情報提供やマスメディア等へ撮影誘致を行います。また、アーツカウンシルしずおかが支援する県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等と連携を図っていきます。

7 環境・施設整備

開館から 35 年が経過し、施設の老朽化が進行しています。引き続き施設の適切な維持管理に努め、中期維持保全計画に基づき、施設の改修を行います。

また、美術館園地についても、安心安全な鑑賞環境の維持に努めます。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

館内施設については、日常及び定期点検を実施し、施設の維持保全に努めるとともに、来館者の安全を守るための改修については速やかに対応します。

ロダン館も開館から 25 年以上が経過しているため、照明の改善など必要な改修を行い、その魅力をより一層高めます。

美術館園地内には、多くの樹木があり、木々に囲まれた県立美術館の景観の一部となっていますが、35 年の間に大きく成長したため、枝打ちなどによる適正な管理を行います。

(2) 来館者の満足度向上のための取り組み

来館者や第三者評価委員会等の外部有識者からの御意見、毎年度実施しているアンケート調査の分析により、美術館に対する要望を的確に把握し、可能なところから速やかに対応するよう努めます。

また、館内の通信環境の改善、キャッシュレス決済の導入など、デジタル化に関しては、様々な来館者に配慮しながら取り組んでいきます。

(3) 駐車場、収蔵庫の整備

観覧者の多い企画展開催時の駐車場不足、現代美術の大型化などに伴う収蔵スペースの不足など、活動の拡大に施設が対応できなくなっています。

隣接する県立中央図書館が令和 8 年度末（予定）に移転することから、跡地の利用について、積極的に関与していきます。

8 運営

当館の使命をより円滑かつ効率的に達成するため、運営基盤の強化を目指します。

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

作品収集、作品展示、環境維持、イベント開催等当館経営の基盤となる財源として、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、国や財団法人からの補助金や民間企業からの協賛金など外部資金の確保や法人会員メンバーシップによる支援等について検討します。

(2) 業務の効率化

業務内容の見直しや事業の費用対効果を検証するなど、業務の効率化や経費の節減に努めます。

(3) 企業との連携強化による運営の充実

美術館は、学芸員の知見を活かし、企業内研修や企業が主催する顧客向けのセミナーの講師として派遣し、企業は美術館の展覧会のチケット購入や寄附を行うことで、企業においては、社員教育や福利厚生の実、顧客へのサービス向上等、美術館においては、美術館の理解を深め来館者の増加につなげるなど、今まで以上に企業との連携強化を図ります。

VI 年度別計画

別紙のとおり。

なお、年度別計画については、美術館を取り巻く状況の変化に合わせ、適時適切に見直しを行います。

年度別計画

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)			
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
1 収集	(1) 作品の収集方法																				
	(2) 開館40周年記念作品の収集																				
2 保存	(1) 作品の保管、管理																				
	(2) 作品の修理、修復																				
	(3) 情報の保存とアーカイブの構築																				
3 展示	(1) 企画展																				
	(2) 収蔵品展																				
	(3) 移動美術展																				

調査研究に基づく継続的な収集

調査、選定 → 基金を活用し、設定金額の範囲内で収集

展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修

通常の作品修復

修復に複数年を要する作品の計画的な修復

所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新

コレクションを核とした展覧会、学芸員の自主企画による展覧会を実施

40周年記念企画展の準備

各ジャンルの作品をバランスよく展示
コレクションの新たな価値や楽しみ方の発見に結びつくプログラムの実施

県内美術館、公共施設で開催（年間1～2回）

40周年記念
企画展
収蔵品展

R3(2021)
アーカイブ分公開

兵馬俑と古代中国
～秦漢文明の遺産～

絶景を描く
～江戸時代の風景表現～

鴻池朋子展(仮)

近代の誘惑
～日本画の実践

年度別計画

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)			
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
4 教育普及	(1) 館内での取り組み									【一般向け】講演会、美術講座、ボランティアによるギャラリートツアー ロダン館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ開放日 などの実施											
	(2) 館外での取り組み									【学校向け】ねんど・えのぐ教室、ロダン館デッサン、ボランティアスタッフとの鑑賞 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ などの実施											
5 調査研究	(1) 調査研究									【一般向け】移動美術展での関連イベントの実施、出張講座 などの実施 Webコンテンツの開発											
	(2) 書庫・図書室									【学校向け】オリジナル教材キットの貸出、出張美術講座、図工・美術などの授業への協力 教員研修協力											
6 広報	(1) 広報体制の充実													展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員の調査研究結果の発表							
	(2) 情報発信機能の強化													図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開							
	(3) 教育機関との連携													外部専門家を活用した戦略的な広報の展開							
	(4) 観光業界、アーツカウンシルし ずおか等との連携													SNS等で常に最新情報を発信、デジタルアーカイブを活用した情報発信							
														県内すべての小中高への美術館情報の定期的な提供 県内大学との連携、学生への情報提供、学生による情報発信を検討							
														観光デジタルプラットフォームを活用した情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等との連携							